

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理カウンセリング領域	心理カウンセリング Psychological Counseling	2単位	必修	講義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	カウンセリングの基本的態度や諸理論には「人間理解」へのヒントとなる知見や、円滑な対人コミュニケーションを促す手法が含まれている。そのため、本講義においては、臨床心理学の成り立ち、代表的なカウンセリング理論を学び、人間理解のための心理学的な基礎知識を学ぶことを目的とする。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	自己成長 人間理解 コミュニケーション カウンセリング理論 臨床心理学	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己と向き合い自己成長を促すことができる 代表的なカウンセリングの理論と支援方法について概要を説明できる（論理的思考） 傾聴の姿勢を体験的に学び支援やコミュニケーションに生かす手がかりを得る（コミュニケーション力） アウトリーチの意義について概要を説明できる（行動力） 心理学的支援には適用範囲や守秘義務などのさまざまな実際問題があることを理解する（他者尊重）
-------	---	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

心理カウンセリング学科としての導入となる講義である。また心理学検定の「臨床」分野に関連した授業内容である。したがって、単位取得という観点だけでなく、より主体的な学びとなるよう、各自授業ノートを準備し学びに活かしていくことを望む。事前に授業資料を公開するので各自確認し印刷して授業に臨むこと。さらに講義形式ではあるが、ペアワークやディスカッションを取り入れながら授業を体験的に学ぶため積極的な姿勢で授業に臨むこと。					
--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「心理学概論A」「心理学概論B」の学びが本講義に繋がります。さらに、本講義が2年時以降の心理カウンセリング学科の専門教育科目の理解に繋がります。					
--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

なし	書名：心理学検定 基本キーワード 改訂版 著者名：日本心理学諸学会連合 心理学検定局編 出版社：実務教育出版
----	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	臨床心理学の成り立ち、カウンセリング理論を理解し、人間理解のための基礎知識を習得できる。	○
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。	△
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。	○

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59	30					11	100
評価 の 指標	知識に関する評価		39	20						59
	技能に関する評価		20	10						30
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								11	11
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
臨床心理学の成り立ちについて十分に理解している。 カウンセリングの理論を十分に理解している。 各項目の理解度が80%以上である。					臨床心理学の成り立ちについて理解している。 カウンセリングの理論を理解している。 各項目の理解度が60%~80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション：臨床心理学の成り立ち 臨床心理学の成り立ちを理解できる	講義 アンケート調査	第1回の復習	10
第2回 /	精神分析療法：心的装置論（局在論・構造論）・防衛機制と心理（精神）性的発達理論 精神分析療法を理解できる	講義 アンケート調査返却	講義内容の予習復習	10
第3回 /	分析心理学と精神分析学の発展 分析心理学を理解できる	講義 コメントシート	講義内容の予習復習	10
第4回 /	マイクロカウンセリング マイクロカウンセリングを理解できる	講義 コメントシート	講義内容の予習復習	10
第5回 /	行動療法：レスポナデント・オペラント条件づけ・社会的学習・SST 行動療法を理解できる	講義 小テスト①と答え合わせ	講義内容の予習復習	10
第6回 /	認知行動療法 認知行動療法を理解できる	講義 コメントシート	講義内容の予習復習	10
第7回 /	リラクゼーション法：漸進的筋肉弛緩法・自律訓練法・呼吸法など 諸技法を理解できる	講義 コメントシート	講義内容の予習復習	10
第8回 /	人間性心理学 人間性心理学を理解できる	講義 コメントシート	講義内容の予習復習	10
第9回 /	来談者中心療法 来談者中心療法を理解できる	講義 コメントシート	講義内容の予習復習	10
第10回 /	エンカウンターグループ エンカウンターグループを理解できる	講義 小テスト②と答え合わせ	講義内容の予習復習	10
第11回 /	対人関係療法 対人関係療法を理解できる	講義 コメントシート	講義内容の予習復習	10
第12回 /	マインドフルネス瞑想法 マインドフルネス瞑想を理解できる	講義 コメントシート	講義内容の予習復習	10
第13回 /	アクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT） ACTを理解できる	講義 コメントシート	講義内容の予習復習	10
第14回 /	ブリーフセラピー ブリーフセラピーを理解できる	講義 小テスト③と答え合わせ	講義内容の予習復習	10
第15回 /	まとめ：カウンセリングの基礎を今後に活かす 学習内容を復習・理解できている	講義 コメントシート	イーラーニングに添付している補助ノートの復習 （試験対策として空欄を必ず埋めておきましょう）	20

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理カウンセリング領域	カウンセリング実務論 I Theory of Counseling Practice I	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>今日、我が国において、カウンセリングの知見は、教育、医療、福祉分野および、産業社会や地域社会においても必要なものと認められている。本授業では、精神分析理論、自己理論、行動理論の三大理論を基礎として、家族システム理論やグループカウンセリングなど、実務実践に即して幅広く学んでもらう。 本講義では、学生自身の幼少期、少年期、青年期を振り返りつつ、カウンセリングとの出会いや必要性を認識しつつ、基礎的なカウンセリング理論を学んでもらう。</p>					
キーワード	カウンセリング 心理学	学修教育目標	<p>カウンセリングの基礎理論および基礎技法を学び、それらを自己のこれまでの経験を振り返りながらカウンセリングの必要性を再認識し、カウンセリングを理解する。 本科目は、カウンセリング実務士およびピアヘルパーの資格取得に関わる科目であり、資格取得要件を満たすための学習を期待する。</p>			

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>本授業では、精神分析理論、自己理論、行動理論の三大理論を基礎として、家族システム理論やグループカウンセリングなど、実務実践に即して幅広く積極的に学んでもらう。 本講義では、学生自身の幼少期、少年期、青年期を振り返りつつ、カウンセリングとの出会いや必要性を認識しつつ、基礎的なカウンセリング理論を積極的に学んでもらう。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>カウンセリング実務論Ⅱ、臨床心理学、人格心理学、発達心理学、人間関係論、人間関係学、行動カウンセリングなどに関連する。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
<p>書名：ピアヘルパーハンドブック 著者名：日本教育カウンセラー協会編 出版社：図書文化</p>			<p>書名：教育カウンセラー標準テキスト初級編 著者名：日本教育カウンセラー協会編 出版社：図書文化 書名：カウンセリングの理論 著者名：國分 康孝 著 出版社：誠信書房</p>			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	カウンセリングと心理学の関係性を調べる。	○
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	カウンセリングの三大理論およびシステム理論について、それぞれの特徴を理解する。	◎
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	カウンセリング実務を学ぶ者としての倫理観を身に付け、個人情報保護に努める。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題などについて主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	未知の事柄について真摯に学び、知識を得ながら想像力を働かせて理解を進める。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	傾聴がカウンセリングの基本であることを意識して、自己訓練に努める。	○
	③ 柔軟性	自分の考えに固執せず、他者の考えや意見を柔軟に受け入れる。	○
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	授業中に得た、友人の個人情報についての秘密を守る。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		25	15			15	100
評価 の 指標	知識に関する評価		15		15	5			10	45
	技能に関する評価		10			10				20
	応用力に関する評価		10		5					15
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10		5				5	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>精神分析理論、行動理論、自己理論、および家族理論について、それぞれの理論における語句を正確に使い分けて、且つ、カウンセリング理論としての共通性も理解した記述ができること。</p>					<p>精神分析理論、行動理論、自己理論、および家族理論について、それぞれの理論における共通性と、それぞれの特徴を正確に理解して記述できること。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション カウンセリング概論	講 義	カウンセリングの概念と心理学について	40
	ミニレポート			
第2回 /	カウンセリングの定義	講 義	カウンセリングの色々	40
	ミニレポート			
第3回 /	カウンセリングと心理療法	講 義	教育カウンセリングと心理カウンセリングについて	40
	ミニレポート			
第4回 /	カウンセリングの3大理論について①	講 義	精神分析理論	60
	ミニレポート			
第5回 /	カウンセリングの3大理論について②	講 義	行動理論	90
	ミニレポート			
第6回 /	カウンセリングの3大理論について③	講 義	自己理論	40
	ミニレポート レポート課題			
第7回 /	教育現場における諸問題について①不登校、引きこもり	講 義	不登校、引きこもり問題 レポート提出	40
	ミニレポート			
第8回 /	教育現場における諸問題について②いじめ、学級崩壊	講 義	いじめ・学級崩壊などへの対処	40
	ミニレポート			
第9回 /	教育現場における諸問題について③大学生活における諸課題	講 義	大学生活における諸課題	40
	ミニレポート			
第10回 /	家族システム理論	講 義	家族理論について	60
	ミニレポート レポート課題			
第11回 /	事例に学ぶ①	講 義	ノンバーバル・コミュニケーションについて レポート提出	40
	ミニレポート			
第12回 /	事例に学ぶ②	講 義	ノンバーバル・コミュニケーションについて	40
	ミニレポート			
第13回 /	描画投影法①	講 義	バウムテスト KFD	40
	ミニレポート			
第14回 /	描画投影法②	講 義	写真投影法 コラージュ療法	60
	ミニレポート			
第15回 /	カウンセリング実務論Ⅰのまとめ	講 義	テスト準備	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理カウンセリング領域	カウンセリング実務論Ⅱ Theory of Counseling Practice Ⅱ	2単位	必修	講義	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>今日、我が国においてカウンセリングの知見は、教育、医療、福祉分野だけでなく、産業社会や地域社会でも求められている。本授業では、カウンセリング実務論Ⅰに続いて心理治療的側面、教育開発的側面にも視野を広げて、それぞれの現場を想定した実務的、体験的な学びをしてもらう。</p>					
キーワード	教育カウンセリング カウンセリング心理学	学修教育目標	<p>カウンセリングの基礎理論および基礎技法を学び、それらを実践的に体験し、カウンセリングの基礎技法を身につける。そのために、学生自身のコミュニケーション能力を高める。自己理解・他者理解が進み、自己肯定感や他者尊重が深まるよう励んでいただく。本科目は、カウンセリング実務士およびピアヘルパーの資格取得に関わる科目であり、資格取得要件を満たすための学習を期待する。</p>			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>教育カウンセリングの一環として、構成的グループエンカウンターなどのグループワークを行う。知識理解だけでなく行動と体験で学ぶ事が多いので積極的な参加姿勢が大切である。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>カウンセリング実務論Ⅰ、カウンセリング実務演習Ⅰ・Ⅱ、臨床心理学、人格心理学、発達心理学、人間関係論、行動カウンセリング、性格心理学などと関連する。</p>						
教科書				参考書・リザーブブック		
<p>書名：ピアヘルパーワークブック 著者名：日本教育カウンセラー協会 編 出版社：図書文化</p>				<p>書名：カウンセリングの技法 著者名：國分 康孝 著 出版社：誠信書房</p>		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。					
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	心理・教育カウンセリングの観点から、エンカウンター等を体験し、実践的に理解すること。				◎
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	カウンセリング実務を学ぶ者としての倫理観を身に付け、個人情報保護に努める。				◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	人間関係を良くするためのコミュニケーションスキルを体得する。				◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性					
	② 働きかけ力					
	③ 実行力	カウンセラーの資質の基本であるコミュニケーション能力を育成する。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力					
	② 計画力					
	③ 創造力	対話場面における共感性を育てる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力	積極的傾聴を体験し、その能力を高める。				◎
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性	グループワークを行うので、自から規律性、規範性を身に着ける。				○
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	授業時に知り得た個人情報の秘密保持に努める。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		20	20			15	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10		10				5	25
	技能に関する評価		10		10	10				30
	応用力に関する評価		10						5	15
	チームワークに関する評価		5			10				15
	関心・意欲に関する評価		10						5	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
各種カウンセリング技法の理論理解と実施方法を習得すること、またそれらについて正確に発表することが出来る。					各種カウンセリング技法の中で一つ以上を理解し、それについて正確に発表することが出来る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	構成的グループエンカウンター①	講 義	授業の理解・感想などの提出	30
	構成的グループエンカウンターについて			
第2回 /	構成的グループエンカウンター②	講 義 演 習	授業の理解・感想などの提出	30
	ミニレポート			
第3回 /	構成的グループエンカウンター③	講 義 演 習	授業の理解・感想などの提出	30
	ミニレポート			
第4回 /	ソーシャルスキルトレーニング①	講 義 演 習	授業の理解・感想などの提出	30
	ソーシャルスキルトレーニングについて			
第5回 /	ソーシャルスキルトレーニング②	講 義 演 習	授業の理解・感想などの提出	30
	ミニレポート			
第6回 /	写真コラージュ法①	講 義 演 習	授業の理解・感想などの提出	30
	写真コラージュ法とは何か			
第7回 /	写真コラージュ法②	講 義 演 習	授業の理解・感想などの提出 レポート提出	90
	写真コラージュ相互交流			
第8回 /	事例検討①	講 義	授業の理解・感想などの提出	15
	ミニレポート			
第9回 /	事例検討②	講 義	授業の理解・感想などの提出	30
	ミニレポート			
第10回 /	学校カウンセリングの実際	講 義	授業の理解・感想などの提出	30
	ミニレポート			
第11回 /	交流分析①	講 義 演 習	授業の理解・感想などの提出	30
	交流分析について			
第12回 /	交流分析②	講 義 演 習	授業の理解・感想などの提出	30
	エゴグラム実習			
第13回 /	個別面接の基本技法	講 義 演 習	授業の理解・感想などの提出	30
	ミニレポート			
第14回 /	個別面接の基本技法②	講 義 演 習	授業の理解・感想などの提出	60
	ミニレポート			
第15回 /	カウンセリングの基礎理論と技法のまとめ	講 義	テストの準備	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理カウンセリング領域	カウンセリング実務演習 I Laboratory in Counseling I	3単位	必修	演習	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>カウンセリングは、言語的および非言語的コミュニケーションを通して、相手の行動変容を援助する人間関係であるとの観点から、理論および実務の方法、倫理規定などを学ぶ。本授業では、2年次までに修得したカウンセリングの基礎理論に基づいて、さらなる実務の理論と技法を学び、それらを実践的に体験していく。そして、コミュニケーションスキルを磨き、カウンセラーとしての資質を養う。また、秋学期および4年次の実習につながるように学ぶ。</p>
--------	--

キーワード	<p>事例、訓練、受容、共感、カウンセリングの歴史、精神力動的理論、人間中心理論、認知行動主義的理論、家族システムの理論、事例研究とスーパービジョン、構成的グループエンカウンター、ストレスマネジメント、教育病理と予防的カウンセリング、スクールカウンセリング、スクールソーシャルワーク</p>	学修教育目標	<p>カウンセリング実務の理論と技法を学び、それらを実践的に体験、カウンセラーとしてその援助を、実際に自らがイメージして行うことができる。</p>
-------	---	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>カウンセリング・心理療法の理論と実践について学びます。カウンセリングの実際や歴史、主な基礎理論やそれが現代的にはどんな展開を見せているのかについて理論を事例と共に学びます。援助者としてのあり方を理論学習と体験学習の両方を通して学びます。</p> <p>専門的な内容ですが、学んだ専門的な知識や技能を自分の日々の生活や学習に適用しつつ試みてみてください。自分の今や自分が向き合っている関わりが「ほんの少し」変わることを繰り返し体験することが、人との援助的関わり基礎になります。</p>
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>カウンセリング実務論Ⅰ・Ⅱ、臨床心理学、人格心理学、発達心理学、人間関係論、人間関係学、行動カウンセリングなどと関連する。</p>
--

教科書	参考書・リザーブブック
<p>書名：ピアヘルパーワークブック 著者名：日本教育カウンセラー協会 出版社：図書文化出版</p> <p>書名：ピアヘルパーハンドブック 著者名：日本教育カウンセラー協会 出版社：図書文化出版</p>	<p>必要に応じて指示。</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	カウンセリング・心理療法の理論や実践について学習し、臨床的な「あり方」を理解する。	◎
②	心理の分析方法を身につける。	理論と事例から心を分析的にみる方法を味わい理解し、適用できるようにする。	○
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	カウンセリング・心理療法の基礎理論から現代的な展開・進展まで、事例について考える視点を学ぶ。	◎
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	理論と実践から生まれてきた技法について学び、体験学習を通して臨床的な感性やあり方を実習する。	○
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	自分の感じ方や考えだけでなく、自分とは異なる他者の感じ方や考え方を理解する試みを練習する。自分とは異なる他者を理解するあり方を通して、他者を尊重しながら、援助的に関わる力を身につける。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	自分のなかで起こっていること、他者の心の中で起こっていること、自分と他者の関係性やグループ・集団の中で起こっていることを、心理学的に「考え続け」、理解に基づき援助的に関わる技術を身につける。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分自身で調べた学びを元に講義を聞く、自らが主体となって実習課題を行う。	○
	② 働きかけ力	ペア・ワークやグループ・ワークで他者と共に課題を行う。	○
	③ 実行力	予習や聴講・実習を行う際に、学んでいるカウンセリング・心理療法の技法を自らに適用する。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	予習や実習を行う際に自分が困難な点を見つけ、それを課題として問題解決の方法を考える。	○
	② 計画力	予習や実習を行う際に見通しを自分のなかで形作りながら行う。	○
	③ 創造力	今、ここで、自分のなか、他者のなか、関係性のなかで起きていることを建設的・創造的に用いる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	非言語的なあり方・態度としてそこにいる「プレゼンス」と言語的なコミュニケーションの力を磨く。	○
	② 傾聴力	相手の言語的・非言語的な様々なコミュニケーションに自分の全体で傾聴する力をつける。	○
	③ 柔軟性	今、ここでの相手との交流や非交流を感じ考えて、相手のところに触れる対応ができる力を育てる。	○
	④ 状況把握力	自分の心、他者の心の状態や関係性のなかで起きていることを捉える力を養う。	○
	⑤ 規律性	自分に取り組んでいる課題から離れずに、心の内的設定を保ちながら、課題を遂行する力を育てる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	他者や状況のなかで反応する自分の情動を観察し、適切に対処し「続ける」力を養う。	○
4. 倫理観	① 倫理性	自分のその瞬間の思いだけでなく、思慮深く、他者の心のひろがりや注意を含めて関わる力を養う。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			49	17	5	15			14	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	14	5					54
	技能に関する評価					10				10
	応用力に関する評価		14						5	19
	チームワークに関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価			3					9	12
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>相談業務を行うような設定で、カウンセリングや心理療法の専門的な技能について基本的な業務を実践することができる。</p>					<p>職場や家庭や仲間との間柄など一般的な人間関係の中で、カウンセリング・心理療法の専門的な技能をころにおいて、自分に対しても他者に対しても成長促進的な態度や関わりを考え、実行することができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	カウンセリングとの出会い なぜカウンセリングが求められるのか	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	（予習）何を学べたらと思って、この授業を選択するのかを言葉で書き出しておいてください。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。（1日で3分の1の量をそれぞれ読みましょう。大きな仕事を分割して実行する練習です）。	40
第2回 /	私とカウンセリング： 事例 1. 2. 3.	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	（予習）自分がカウンセリングを受けるなら、どんなことを相談するか考えてみてください。自分が自分の能力を発揮していく、したいことしていく邪魔をしているものが自分の中にあるか、考えてみてください。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第3回 /	カウンセリングとカウンセラー カウンセラーへの道程	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	（予習）カウンセリングの訓練についてあらかじめ自分で調べてみましょう。400字以上800字以内でまとめます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。 （復習）『ピアヘルパーワークブック』37ページで学習した内容読み直します。そして、この一週間で誰かとの会話のときに使ってみてください。	60
第4回 /	カウンセラーの基本 共感と受容	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	（予習）共感と受容についてあらかじめ自分で調べてみましょう。400字以上800字以内でまとめます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。 （復習）『ピアヘルパーワークブック』38ページで学習した内容読み直します。そして、この一週間で誰かとの会話のときに使ってみてください。	60
第5回 /	カウンセリングの歴史 日米の比較	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	（予習）カウンセリングの日米の歴史についてあらかじめ自分で調べてみましょう。400字以上800字以内でまとめます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。 （復習）『ピアヘルパーワークブック』39ページで学習した内容読み直します。そして、この一週間で誰かとの会話のときに使ってみてください。	60
第6回 /	基礎理論（1） 精神力動的理論	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	（予習）『ピアヘルパーワークブック』25ページをあらかじめ読んで理解しておきます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第7回 /	基礎理論（2） 人間中心的理論	個人ワークならびにペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	（予習）『ピアヘルパーワークブック』24ページをあらかじめ読んで理解しておきます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第8回 /	基礎理論（3） 認知行動主義的理論	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	（予習）『ピアヘルパーワークブック』26ページをあらかじめ読んで理解しておきます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第9回 /	基礎理論（4） 家族システムの理論	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	（予習）家族システム論についてあらかじめ自分で調べて情報を得ておきましょう。800字以上1200字以内でまとめます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。 （復習）授業で学習したワークや技法を復習して、身近な人間関係で応用できるか考えてみます。	60
第10回 /	面接技法の理論と実際 事例研究とスーパーヴィジョン	グループワークでの実習と講義	（予習）事例研究についてあらかじめ自分で調べて情報を得ておきましょう。800字以上1200字以内でまとめます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。 （復習）『ピアヘルパーワークブック』40・41ページで学習した内容読み直します。そして、この一週間で誰かとの会話のときに使ってみてください。	60
第11回 /	開発的カウンセリングの理論と実際 構成的グループエンカウンター	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	（予習）『ピアヘルパーワークブック』10ページから21ページをあらかじめ読んで理解しておきます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第12回 /	現代人の生活とカウンセリング(1) ストレス・マネジメント、他	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	（予習）『ピアヘルパーワークブック』46・47ページをあらかじめ読んで理解しておきます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第13回 /	現代人の生活とカウンセリング(2) 教育病理と予防的カウンセリング	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	（予習）『ピアヘルパーワークブック』48・49ページをあらかじめ読んで理解しておきます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第14回 /	学校におけるカウンセリング スクールカウンセリング、スクールソーシャルワーク	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	（予習）『ピアヘルパーワークブック』50ページと54ページをあらかじめ読んで理解しておきます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第15回 /	まとめ カウンセラーとしての援助	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	（予習）『ピアヘルパーワークブック』51ページから53ページをあらかじめ読んで理解しておきます。 （復習）講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理カウンセリング領域	カウンセリング実務演習Ⅱ Laboratory in CounselingⅡ	3単位	必修	演習	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>カウンセリング実務演習Ⅰで修得した理解と技術を基本に、さらにクライアントを深く理解するための理論や心理アセスメントを学び、総合的な理解に基づいてクライアントに向き合うことを目指す。また、臨床領域の理解とともに、カウンセリングの流れに応じた活動を応用としておさえ、実践的に学ぶ。</p>
--------	---

キーワード	<p>無意識、意識、初回面接、家族力動、パーソナリティ、質問紙、投影法、心理アセスメント、心理検査のフィードバック、来談者中心療法、認知行動療法、精神分析的な心理療法</p>	学修教育目標	<p>総合的な理解に基づいてクライアントに向き合い、カウンセリングを行うことができる。また、臨床領域の理解とともに、カウンセリングの流れに応じた活動を行うことができる。</p>
-------	---	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>カウンセリング、相談業務を行うのに必要な、援助者としての関わり方を学びます。初回面接や見立ての仕方、心理検査、心理療法のアプローチ、カウンセラーの働く現場について知り、援助者としての学びを深めます。援助者としての関わり方を理論学習と体験学習の両方を通して学びます。</p> <p>専門的な内容ですが、学んだ専門的な知識や技能を自分の日々の生活や学習に適用しつづけてみてください。自分の今や自分が向き合っている関わりが「ほんの少し」変わることを繰り返し体験することが、人との援助的関わり方の基礎になります。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>カウンセリング実務論Ⅰ・Ⅱ、臨床心理学、人格心理学、発達心理学、人間関係論、人間関係学、行動カウンセリングなどと関連する。</p>
--

教科書	参考書・リザーブブック
<p>書名：私設 対象関係論的心理療法入門 著者名：松木 邦裕 出版社：岩崎学術出版</p>	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	カウンセリング・心理療法の理論や実践について学習し、臨床的な「関わり」を身につける。	◎
②	心理の分析方法を身につける。	理論と事例から心を分析的にみる方法を学習し、実際に用いる練習をする。	◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	カウンセリング・心理療法の理論と実践について学び、方法的な関わり方を身につける。	◎
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	心理アセスメントや心理療法のアプローチに体験学習を通して臨床的なあり方や関わり方を実習する。	◎
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	自分の感じ方や考えだけでなく、自分とは異なる他者の感じ方や考え方を理解する試みを練習する。自分とは異なる他者を理解するあり方を通して、他者を尊重しながら、援助的に関わる力を身につける。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	自分のなかで起こっていること、他者の心の中で起こっていること、自分と他者の関係性やグループ・集団の中で起こっていることを、心理学的に「考え続け」、理解に基づき援助的に関わる技術を身につける。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分自身で調べた学びを元に講義を聞く、自らが主体となって実習課題を行う。	○
	② 働きかけ力	ペア・ワークやグループ・ワークで他者と共に課題を行う。	○
	③ 実行力	予習や聴講・実習を行う際に、学んでいるカウンセリング・心理療法の技法を自らに適用する。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	予習や実習を行う際に自分が困難な点を見つけ、それを課題として問題解決の方法を考える。	○
	② 計画力	予習や実習を行う際に見通しを自分のなかで形作りながら行う。	○
	③ 創造力	今、ここで、自分のなか、他者のなか、関係性のなかで起きていることを建設的・創造的に用いる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	非言語的なあり方・態度としてそこにいる「プレゼンス」と言語的なコミュニケーションの力を磨く。	○
	② 傾聴力	相手の言語的・非言語的な様々なコミュニケーションに自分の全体で傾聴する力をつける。	○
	③ 柔軟性	今、ここでの相手との交流や非交流を感じ考えて、相手のところに触れる対応ができる力を育てる。	○
	④ 状況把握力	自分の心、他者の心の状態や関係性のなかで起こっていることを捉える力を養う。	○
	⑤ 規律性	自分が取り組んでいる課題から離れずに、心の内的設定を保ちながら、課題を遂行する力を育てる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	他者や状況のなかで反応する自分の情動を観察し、適切に対処し「続ける」力を養う。	○
4. 倫理観	① 倫理性	自分のその瞬間の思いだけでなく、思慮深く、他者の心のひろがりや注意を含めて関わる力を養う。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			44	14	8	20			14	100
評価 の 指標	知識に関する評価		36	11	4					51
	技能に関する評価					10				10
	応用力に関する評価		8						7	15
	チームワークに関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価			3	4	5			7	19
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>相談業務を行うような設定で、カウンセリングや心理アセスメント・心理療法の専門的な技能について基本的な業務を実践することができる。</p>					<p>職場や家庭や仲間との間柄など一般的な人間関係の中で、カウンセリング・心理療法の専門的な技能をこころにおいて、自分に対しても他者に対しても成長促進的な態度や関わりを考え、実行することができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回	オリエンテーション カウンセリングと心理療法 本講義の進め方についてのガイダンスとIの復習	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	(予習) これから半年で、人の話を聴く、話す、コミュニケーション、カウンセリング・スキルなどのなかで、自分はどの部分の伸ばしていきたいかを考えてみましょう。言葉にして書き出してみましょう。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第2回 /	心の世界について 意識と無意識について ことばと表象の体験（箱庭、コラージュ、描画などを用いて理解する）	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	(予習) 「意識と無意識」についてあらかじめ自分なりに調べて文章にしてください。A4の紙1枚に400字以上1200字未満でまとめて、レポートにして提出します。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第3回 /	カウンセリングの流れ 出会い：初回面接 出会いの設定と態度、雰囲気、観察 インテークに必要な情報について	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	(予習) 『私説対象関係論的心理療法入門』52ページから69ページ上から7行目までを読んでおきます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第4回 /	家族力動の理解とパーソナリティー 家族歴と生育歴 家族システムと発達課題の理解	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	(予習) 『私説対象関係論的心理療法入門』107ページから121ページまでを読んでおきます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第5回 /	心理アセスメント(1) 簡単な質問紙法と投影法 TEG、バウムテストの体験をとおして	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	(予習) 質問紙法と投影法についてあらかじめ自分で調べてA4サイズの紙に400字以上、1200字以内でレポートにして提出してください。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第6回 /	心理アセスメント(2) 無意識の理解とパーソナリティー 風景構成法の体験を通して	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	(予習) 風景構成法とは何かをあらかじめ自分で調べて情報を得ておきましょう。400字以上800字以内でまとめます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第7回 /	心理アセスメント(3) 無意識の理解とパーソナリティー ロールシャッハテスト	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	(予習) ロールシャッハテストとは何かをあらかじめ自分で調べて情報を得ておきましょう。400字以上800字以内でまとめます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第8回 /	心理アセスメント(4) TAT、MMPI などを用いて	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	(予習) 主題統覚検査とは何かをあらかじめ自分で調べて情報を得ておきましょう。400字以上800字以内でまとめます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第9回 /	パーソナリティーの診断と見たて クライアントの病理、対人関係の取り方、不安について学ぶ	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	(予習) 『私説対象関係論的心理療法入門』V「パーソナリティーを見よう」30ページから44ページまでを読んでおきます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第10回 /	パーソナリティーの総合的な理解とカウンセリング パーソナリティーの理解とフィードバックについて (所見レポート、インフォームドコンセント、告知などに)	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	(予習) 『私説対象関係論的心理療法入門』Ⅲ「口のはさみ方の種類」93ページから106ページを読んでおきます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第11回 /	アプローチの方法(1) -来談者中心療法- ロジャーズのパーソナリティー理論とその進め方	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	(予習) 来談者中心療法について自分であらかじめ調べて情報を得ておきましょう。800字以上1200字以内でまとめます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第12回 /	アプローチの方法(2) -認知行動療法- 受け取り方と心の問題について 心の解放に向う進め方	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	(予習) 認知行動療法について自分であらかじめ調べて情報を得ておきましょう。800字以上1200字以内でまとめます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第13回 /	アプローチの方法(3) -精神分析的な心理療法- 無意識の理解とこころの解放に向う進め方 (明確化、直面化、解釈など)	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	(予習) 精神分析的な心理療法について自分であらかじめ調べて情報を得ておきましょう。800字以上1200字以内でまとめます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第14回 /	カウンセラーとして働く場 学校、病院、警察の少年相談など	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	(予習) 教育、医療、司法、産業、福祉などのさまざまな領域の中で自分の興味のある分野でカウンセリングや心理療法、心理学がどのように用いられているか、自分で調べてみましょう。800字以上1200字以内にまとめます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60
第15回 /	まとめ カウンセリング・心理療法	ペアまたはグループでのロールプレイによる実習と講義	(予習) これまで14回の授業の中で自分が学んだ重要なことを書きだしてみましょう。自分が現在やこれからの生活で使える考え方や技法、気付きを800字以上1200字以内にまとめます。 (復習) 講義レジュメを次の授業までの1週間のうち3日かけて読み返します。	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに決めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理カウンセリング領域	健康心理学 Health Psychology	2単位	必修	講義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	「健康心理学」においては、健康の維持と増進、疾病の予防など健康に関わる知識を、心理学を基礎にさまざまな視点から学ぶ。また、ストレスについて学び、生活習慣病になりやすい行動パターン等についても理解し、運動実践への動機づくりや各自の健康リスク行動を含めた生活習慣の見直しをはじめとして、健康な生活を送っていくために健康心理学の知見を活用する。
--------	---

キーワード	健康概念 ストレス対処 健康行動	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、健康心理士の資格取得を目指すための健康心理学専門必修科目の一つである。本科目を含めて、履修の手引きに示されている資格取得要件を満たすことによって、「健康心理士」の資格を取得することができる。 ・本科目は、「健康運動実践指導者」受験資格要件科目の一つである。履修の手引きに示されている要件を満たすことによって、人びとの健康づくりのための運動指導者に与えられる「健康運動実践指導者」の資格を取得することができる。 ・健康心理学への理解を深め、心身の健康に向けて各自の生活習慣を見直し、改善していくための知識を身につけることができる。
-------	------------------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

応用心理学としての健康心理学はアメリカ心理学会に健康心理学部門が1978年に設置され、隣接領域と連携を取りつつ心身の健康に関わる多様な知見を蓄積してきた。健康心理学は心身の健康の維持増進を図り、日々の暮らしの質を向上させる役割を果たす内容を含むため、あらゆる年代・文化の様々な立場や役割をもつ人に役立つ学問領域である。実際生活に関わる領域であることを理解して、健康概念の変遷やストレス研究の最新知識を真摯に学ぶことが求められる。加えて、自他の健康行動と健康的な生活に留意する態度が求められる。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目との関連
健康心理カウンセリング・健康心理カウンセリング実習・健康心理アセスメント・健康心理アセスメント実習・生涯発達と健康教育
履修に必要な予備知識や技能
心理カウンセリング関連科目の履修が望ましい。

教科書

参考書・リザーブブック

書名：健康心理学概論 著者名：日本健康心理学会編 出版社：実務教育出版	書名：実践！健康心理学概 シナリオで学ぶ健康増進と疾病予防実践！健康心理学概 シナリオで学ぶ健康増進と疾病予防 著者名：日本健康心理学会編集 出版社：北大路書房
---	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	学術的、専門的な情報に基づいた知識の習得と健康生活を心がける。	◎
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	心理学の健康的側面について議論する。	○
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	ストレス・マネジメントおよびコーピングの技能を身につける。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	教科書の予習、授業準備に努める。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分や周囲の生活習慣と健康行動について考えることができる。	◎
	② 計画力	広範な知識体系を持つ領域であるので、着実な学習と理解を進める。	◎
	③ 創造力	健康的な自分の将来像について予測することができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力	ストレス研究が中心的な概念であるので、アセスメント演習などに力を入れる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	授業中に得た他者の個人情報の秘密保持に努める。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59	30					11	100
評価 の 指標	知識に関する評価		39	20						59
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		20	5						30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価			5					11	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>テキストに沿った理論や情報を確実に理解し、参考書籍やネット検索情報なども整合させて理解を深めること。また、試験やコメントシートには、誤りなく論述できること。</p>					<p>左の内容について、誤字脱字や、字数制限を大きく逸脱しない程度を標準的な達成レベルとする。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション：健康心理学を学ぶにあたって	講義 授業アンケート	第1回目の復習	10
	心身の健康と健康心理士の役割を理解できる			
第2回 /	健康心理学の諸理論	講義 授業アンケートFB	授業の予習復習	10
	健康の概念および健康心理学の基礎理論を理解できる			
第3回 /	健康行動の概念・分類・アセスメント	講義 コメントシート	授業の予習復習	10
	健康行動について理解できる			
第4回 /	個人の健康行動のモデル	講義 小テスト①と返却	授業の予習復習	10
	基本の変容モデルについて理解できる			
第5回 /	個人間・社会の健康行動モデル	講義 コメントシート	授業の予習復習	10
	基本の変容モデルを理解できる			
第6回 /	勤労者のヘルスプロモーションと復職支援	講義 コメントシート	授業の予習復習	10
	職場での健康を理解できる			
第7回 /	ストレスと健康：要因・対処・理論・心身に及ぼす影響	講義 コメントシート	授業の予習復習	10
	ストレスを理解できる			
第8回 /	健康心理学のアセスメント概論：健康心理学のアセスメント	講義 小テスト②と返却	授業の予習復習	10
	アセスメントについて理解できる			
第9回 /	健康なライフスタイルの形成	講義 コメントシート	授業の予習復習	10
	生活習慣についての意義を理解できる			
第10回 /	大学生の健康・留学生のケア・小中高生の健康支援	講義 コメントシート	授業の予習復習	10
	健康ハイリスク集団や未成年の健康について理解できる			
第11回 /	禁煙行動を維持・成功させる方法論	講義 コメントシート	次時授業の予習復習	10
	禁煙と維持方法を理解できる			
第12回 /	災害時の復興支援、コロナ禍での心の健康	講義 コメントシート	授業の予習復習	10
	復興過程でできること、健康を守ることを理解できる			
第13回 /	慢性疾患（糖尿病）、小児喘息、アレルギー治療の健康心理	講義 小テスト③と返却 コメントシート	授業の予習復習	10
	慢性疾患に関わる支援を理解できる			
第14回 /	ソーシャルサポート	講義 コメントシート	授業の予習復習	10
	周囲からの支援と自分ができる支援を理解できる			
第15回 /	健康心理学のまとめ	講義 コメントシート	テストの準備	20
	すべての学習内容をまとめることができる			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理カウンセリング領域	生涯発達と健康教育 Life-span Development and Health Education	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	人間の一生の生涯発達と健康教育は、人間の一生の健康の維持・増進と疾病の予防・治療に貢献する健康心理学の1つの重要な応用分野である。従来の健康教育では、人々は教育指導を受けるものとして、受け身的な立場に立たされてきた。しかしこれからの健康教育では、能動的な学習者とみなされ、その学習を援助することが本来の健康教育のあり方とされるようになった。そしてまた、単に能動的に学習するのみでなく、学習した健康教育をみずから前向きに受容し、生涯発達の各段階においてライフスタイルをより健康的なものに変容することに重要なポイントがある。本講義では、既述の観点から生涯発達と健康教育について具体的に学び、履修者の健康的な行動スタイルの獲得と実践を目的とした。					
	キーワード	ライフコース（児童期・青年期・成人期・高齢期） 健康心理 ストレス理論 行動理論 認知理論 健康行動モデル QOL	学修教育目標	情報化、グローバル化が進む一方で、人間関係の密度が希薄化する傾向のある現代社会でのストレスフルな生活は、弊害を起こす状況に陥りやすい。ストレスへの対処や、ライフスタイルの調整は健康心理学における重要なテーマの一つである。履修者自身だけでなく、周囲の人々の健康状態にアンテナを張って、気づきを促進し、問題が深刻化する前にセルフケアを行うことができるようになることを目標とする。		
授業科目の概要及び学修上の助言						
健康は心身の健康の維持増進を図り、日々の暮らしの質を向上させる役割を果たす内容を豊かに含むため、あらゆる年代や国を超越し、様々な立場や役割をもつ人に役立つ身近な学問領域である。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
「健康心理学」「生涯発達心理学」「人格心理学」の理解につながる。予習課題を教科書の中から、または追加資料を用意して提出するので、教室を離れても学習することを身につける。						
教 科 書				参考書・リザーブドブック		
書 名：ライフコースの健康心理学 著者名：森和代ほか 出版社：晃洋書房				健康教育概論（健康心理学基礎シリーズ4）日本健康心理学会 実務教育出版		
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。	心理学のカバーする領域は広く共通の基礎知識が重要であることを理解できる。				◎
②	心理の分析方法を身につける。	心理アセスメントの幅広い適用例を理解できる。				◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	コミュニケーション力を理解できる。				○
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	健康なライフスタイルを理解できる。				○
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	人間の一生の生涯発達と健康教育は、ライフスタイルをより健康的なものに変容し、個人そして地域の活性化につながることを理解できる。				○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	健康教育は、健康の維持・増進と疾病の予防・治療に貢献する健康心理学の重要な応用分野であり、人間の一生にとって重要であることが理解できる。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	社会における健康教育の能動的な学習を援助する者として知識を吸収することができる。				◎
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	わかっていること、わかっていないことを明確にして学習に取り組むことができる。				○
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聴いて、理解することができる。				○
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	他受講生の課題取り組みへの理解と自己のライフスタイルの向上に取り組むことができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59	30					11	100
評価 の 指標	知識に関する評価		39	20						59
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		20	10						30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								11	11
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>社会における健康教育の能動的な学習を援助する者として知識を吸収することが充分にできるようになる。さらに、自己のライフスタイルの向上に取り組むことができる。</p>					<p>社会における健康教育の能動的な学習を援助できる。 率先して理解したことを実践していけるまでには充分でない。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション：生涯発達と健康教育	講義 受講アンケート調査	第1回目の復習	10
	これまでの学習内容の理解度			
第2回 /	ライフスタイルと健康1：健康行動	講義 受講アンケート調査FB コメントシート	教科書の予習復習（健康行動）	10
	医療・生活習慣病・健康教育の流れの理解度			
第3回 /	ライフスタイルと健康2：リスク要因	講義 コメントシート	教科書の予習復習（ライフスタイル）	10
	習慣と健康行動の理解度			
第4回 /	健康教育の手順：問題の発生・把握・分析・立案と実施の留意点	講義 コメントシート	教科書の予習復習（プリシード・プロシードモデル）	10
	プリシード・プロシードモデルの理解度			
第5回 /	健康とストレス：ストレス理論と自己管理	講義 小テスト①/返却	教科書の予習復習（ストレスマネジメント）	10
	ストレスの構造の理解度			
第6回 /	乳幼児期の発達と健康教育	講義 コメントシート	教科書の予習復習（主な基礎理論）	10
	人間形成における健康教育の理解度			
第7回 /	青年期の健康教育	講義 コメントシート	教科書の予習復習（青年期の健康心理学の実践）	10
	性行動、SNS、いじめ、諸々の危険因子の理解度			
第8回 /	成人期の健康心理学の実践	講義 コメントシート	教科書の予習復習（成人期の健康心理学の実践）	10
	職場と子育てでのメンタルヘルスの理解度			
第9回 /	医療・福祉：医療モデルから生活モデルへ	講義 コメントシート	関連資料配布の予習復習	10
	キュアからケアへのパラダイムシフトの理解度			
第10回 /	ヘルスケア・システムと健康教育との関連（健康日本21）	講義 小テスト②/返却	関連資料配布の予習復習	10
	国民健康づくり運動の理解度			
第11回 /	グローバルな健康教育：UNESCO、WHO	講義 コメントシート	関連資料配布の予習復習	10
	グローバルな健康教育の理解度			
第12回 /	健康教育指導者：健康教育指導者の役割と養成	講義 コメントシート	「健康教育概論」参考書（健康教育指導者） 関連資料配布の予習復習	10
	「認定健康心理士」の役割の理解度			
第13回 /	健康教育カウンセリングの理論と技術	講義 コメントシート	「健康教育概論」参考書（健康教育カウンセリング） 関連資料配布の予習復習	10
	カウンセリングの理解度			
第14回 /	生活習慣病と病気対処	講義 小テスト③/返却 コメントシート	「健康教育概論」参考書（発達、発育、健康） 関連資料配布の予習復習	10
	生活習慣病の理解度			
第15回 /	生涯発達と健康教育のまとめ	講義	イーラーニングに添付している補助ノートの復習 （試験対策として空欄を必ず埋めておきましょう）	20
	発達、健康の総合的な理解度			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しているTGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理カウンセリング領域	健康心理カウンセリング Health Psychology Counseling	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	健康心理カウンセリングとは、「健康増進、健康維持、健康回復に必要な生活習慣を形成することを主目的として、心理学的立場から、個人あるいはグループを対象として行われる実践的援助活動」であることを学ぶ。					
キーワード	カウンセリングのプロセス 認知行動療法的アプローチ 自己効力感 ストレスマネジメント	学修教育目標	健康心理カウンセリングの基本的考え方や技法、適用法を理解し、隣接領域である臨床心理学における心理療法との、類似点、相違点についても明確にできる。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
カウンセリングは、現在幅広くあらゆる学問領域において学習の基幹とされている。健康心理学においても重要であり、カウンセリングは学習する取り組みにおいて、指導する側と指導される側が、相互にどのような状況で何が伝えられるのかにより成果が上がる。健康心理カウンセリングは「健康増進、健康維持、健康回復に必要な生活習慣を形成することを目的とし」、受講生は「何をどこまで知り得て何を知ることが望ましいか」を検討しながら授業が進められるので、その都度授業の中で自己反芻していくことが望ましい。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
生理学的メカニズム、パーソナリティ、ストレス、ヘルスプロモーション、アセスメント、適応（疾患、問題行動）、対人・集団・社会、ヘルスケアシステム、カウンセリング、健康心理学的支援法・災害後支援、性・ジェンダー、研究法・倫理など多様な要素を含んでいるため、幅広い知識を身につけておくことが望ましい。						
教科書				参考書・リザーブドブック		
書 名：健康心理学基礎シリーズ③ 「健康心理カウンセリング概論」 著者名：日本健康心理学会（編） 出版社：実践教育出版				授業の中で適宜紹介する。		
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。	年齢や目的に応じてスポーツや生活を意識的に取り組むことができる。				◎
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	他者の健康観の向上に必要な傾聴方法を体得することができる。				○
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	率先して「健康増進、健康維持、健康回復の生活習慣」を形成することができる。				○
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。					
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	学修成果がどこまで進んでいるか確認しコミュニケーション力を鍛えることができる。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。				◎
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。				○
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。				○
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。				○
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。				○
	② 傾聴力	相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。				◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。				○
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。				◎
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。				◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59	30					11	100
評価 の 指 標	知識に関する評価		40	10					5	55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10	10						20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		9	10					5	24
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>「健康増進、健康維持、健康回復に必要な生活習慣を形成すること」を十分に理解し実践できるようになる。さらに個人またはグループを対象として「実践的な援助活動」ができるようになる。</p>					<p>「健康増進、健康維持、健康回復と生活習慣」を理解できる。さらに自身が個人またはグループを対象として「実践的な援助活動」をやってみようという意欲や動機を高めることができるようになる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	健康心理カウンセリング 臨床心理学におけるカウンセリング 健康心理カウンセリングの意義と役割 臨床心理学におけるカウンセリングをどの程度理解しているか	講義 受講アンケート調査	第1回目の復習	10
第2回 /	健康心理カウンセリング 健康心理カウンセリングの進め方 プロチャスカのステージモデル プロセスと健康行動の変容、の理解度	講義 受講アンケート結果 コメントシート	資料の予習復習（プロセス・ステージモデル）	10
第3回 /	健康心理カウンセリングで用いる技法 (1) カウンセリング技法－認知行動療法 悪循環、三項随伴性、の理解度	講義 コメントシート	資料の予習復習（三項随伴性）	10
第4回 /	健康心理カウンセリングで用いる技法 (2) カウンセリング技法－交流分析 交流分析の理解度	講義 視聴覚教材（交流分析） 小テスト①	資料の予習復習（交流分析）	10
第5回 /	健康心理カウンセリングで用いる技法 (3) カウンセリング技法－自律訓練法 自律訓練法の理解度	講義 視聴覚教材（自律訓練法） コメントシート	資料の予習復習（自律訓練法）	10
第6回 /	健康心理カウンセリングで用いる技法 (4) カウンセリング技法－理感情行動療法 認知と感情と行動の関連性の理解度	講義 コメントシート	資料の予習復習（理感情行動療法）	10
第7回 /	健康心理カウンセリングで用いる技法 (5) マイクロカウンセリング：基本的傾聴 基本的関わり技法の理解度	講義 コメントシート	資料の予習復習（マイクロカウンセリング）	10
第8回 /	健康心理カウンセリングで用いる技法 (6) マイクロカウンセリング：質問方法 質問方法の理解度	講義 コメントシート	資料の予習復習（喫煙・飲酒行動のカウンセリング）	10
第9回 /	喫煙行動のカウンセリング 禁煙におけるカウンセリングについて 行動制御の理解度	講義 小テスト②	資料の予習復習	10
第10回 /	食行動のカウンセリング 食行動の変容を目指すカウンセリングについて 変容プロセスについての理解度	講義 コメントシート	資料の予習復習（食行動のカウンセリング）	10
第11回 /	身体疾患におけるカウンセリング 身体疾患にともなう心理的問題 心身の関連性の理解度	講義 コメントシート	資料の予習復習（身体疾患）	10
第12回 /	健康を害しやすい性格とカウンセリング タイプA行動パターン タイプAの行動についての理解度	講義 コメントシート	資料の予習復習（タイプA行動のカウンセリング）	10
第13回 /	ストレスマネジメント ストレスマネジメントにおけるカウンセラーの教育的役割 各種ストレスマネジメントの理解度	講義 小テスト③	資料の予習復習	10
第14回 /	健康心理カウンセリングとヘルスケアシステム 組織の中での健康心理カウンセラーの役割について ヘルスケアシステムの理解度	講義 コメントシート	資料の予習復習（ヘルスケア行動）	10
第15回 /	健康心理カウンセリングの基本的考え方、技法、適用法のまとめ 試験対策の準備ができている	講義 コメントシート	健康心理カウンセリング全体についてまとめる	10

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理カウンセリング領域	健康心理カウンセリング実習 Health Psychology Counseling Practice	1単位	選 択	演 習	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	健康心理カウンセリングの基礎を踏まえ、マイクロカウンセリングおよび認知行動療法の理論と実践を学習し、健康心理カウンセリングを支える諸実践を実習形式で学ぶ。POMS、TEG、STAI、Ces-D等の各種心理検査の実習、健康行動の変容理論を用いて、同世代がより良い生活習慣を身に着けることができるような介入案(リーフレット)を作成する。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	健康心理カウンセリング 健康行動変容・生活習慣 マイクロカウンセリング 傾聴・質問方法・ノンバーバル行動 認知行動療法	学修教育目標	健康心理カウンセリングの基礎を踏まえ、マイクロカウンセリング、認知行動療法からのカウンセリングの進め方や、傾聴や質問の方法、各種のカウンセリング技法について基本から学び、対人関係や社会に向き合ったときに学習内容を活用出来るようになる。			
-------	---	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

本実習では、健康心理アセスメントと健康心理カウンセリングの方法を様々な実習を通じて学ぶ。アセスメントに関しては、質問紙法および面接による聞き取りを中心としたアセスメントを実習し実施方法、解釈の仕方、相手に対するフィードバックの仕方などについて演習を行う。健康心理カウンセリングの方法については、ロールプレイを主体とした練習を行う。基本的なカウンセリング技法とアセスメント法を活用し様々な対象を想定した具体的な健康心理学的介入案を作成する。本科目は健康心理士資格関連科目である。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目との関連
健康心理学系、心理カウンセリング関連科目の履修が望ましい

教科書

参考書・リザーブブック

書名：健康心理学基礎シリーズ② 健康心理アセスメント概論 著者名：日本健康心理学会（編） 出版社：実践教育出版	授業の中で適宜紹介する
---	-------------

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	健康心理カウンセリングの技法を身につける。	◎
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	コミュニケーション方法や質問方法を身につける。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	傾聴力を身につける。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。	○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。	◎
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことがらについて、十分に説明できる。	◎
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	◎
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	◎
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41			20	30		9	100
評価 の 指標	知識に関する評価		21							21
	技能に関する評価		20			10				30
	応用力に関する評価						10			10
	チームワークに関する評価						10			10
	関心・意欲に関する評価					10	10		9	29
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
健康心理カウンセリングの基礎、認知行動療法、各種のカウンセリング技法について理解でき、対人関係や社会で活用出来るようになる。 健康心理士の資格を取得する。					健康心理カウンセリングの基礎、認知行動療法、各種のカウンセリング技法について理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 / 第1回	オリエンテーション 心理学概論等で学習した「カウンセリング」の内容の確認 支援を理解する	講義 受講アンケート調査	第1回目の復習	10
第2回 / 第2回	マイクロカウンセリングの基本練習①:準備と態度づくり・傾聴・かわり技法 MCの基本的傾聴を理解する	講義・実習（ロールプレイ） 受講アンケート調査FB	健康心理カウンセリングと諸技法 行動主義（教科書「はじめて出会う心理学」）の予習	10
第3回 / 第3回	マイクロカウンセリングの基本練習②:はげまし・いいかえ・要約技法 MCの基本的傾聴を理解する	講義・実習（ロールプレイ） コメントシート	資料について予習復習	10
第4回 / 第4回	マイクロカウンセリングの基本練習③:意味の反映・応答技法と質問技法 MCの基本的傾聴を理解する	講義・実習（ロールプレイ）	資料について予習復習	10
第5回 / 第5回	合理情動療法（RET） 合理情動行動療法（REBT） RETとREBTを理解する	講義・実習（ロールプレイ） コメントシート	資料について予習復習	10
第6回 / 第6回	周囲の人の健康行動について考える:自己報告・観察法・記録・生理学的測定・生活習慣のアセスメント&リーフレット 健康行動を理解する	講義・実習（ロールプレイ） リーフレット用班分け コメントシート	資料について予習復習	10
第7回 / 第7回	大学生の健康行動&リーフレット 大学生の生活習慣を理解する	講義・実習（ロールプレイ） リーフレット作成準備開始 コメントシート	資料について予習復習	10
第8回 / 第8回	スマホ依存&リーフレット 行動変容理論を理解する	講義・実習（ロールプレイ） リーフレット作成 コメントシート	資料について予習復習	10
第9回 / 第9回	検査方法:STAI 状態・特性不安検査、POMS 気分プロフィール検査等の実習&リーフレット 心理検査について理解する	講義・実習（ロールプレイ） リーフレット作成 コメントシート	資料について予習復習	10
第10回 / 第10回	ソーシャルサポート・対人関係のアセスメント（ソシオグラム）&リーフレット 人間関係について理解する	講義・実習（ロールプレイ） リーフレット作成 コメントシート	資料について予習復習	10
第11回 / 第11回	燃え尽き症候群:健康阻害要因&リーフレット 職業人の健康を理解する	講義・実習（ロールプレイ） リーフレット作成 コメントシート	資料について予習復習	10
第12回 / 第12回	ストレスと対処法・アセスメント&リーフレット ストレス対処法を理解する	講義・実習（ロールプレイ） リーフレット作成 コメントシート	資料について予習復習	10
第13回 / 第13回	自律訓練法とマインドフルネス瞑想&リーフレット 自律訓練法とマインドフルネスを理解する	講義・実習（ロールプレイ） リーフレット作成 コメントシート	資料について予習復習	10
第14回 / 第14回	行動変容リーフレット発表会1 各グループの内容を理解する	発表会	イーラーニングに添付している補助ノートの復習 (試験対策として空欄を必ず埋めておきましょう)	20
第15回 / 第15回	行動変容リーフレット発表会2 各グループの内容を理解する	発表会	イーラーニングに添付している補助ノートの復習 (試験対策として空欄を必ず埋めておきましょう)	20

e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理カウンセリング領域	健康心理アセスメント Health Psychology Assessment	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	アセスメント（査定）は、「対象（者）のさまざまな特徴を総合的に評価すること」である。本授業では健康心理学領域におけるアセスメントの方法や役割について学び活用するための知識を獲得する。心理学が扱う変化は、言語として人間の外側へ出て来るものを評価するので、言葉が持つ役目を理解し、活用できるようになる。					
キーワード	アセスメント ストレス 心理的健康	学修教育目標	アセスメントはカウンセリングを進めていく上での羅針盤ともなるべき重要なものであるため、アセスメントの方法をカウンセリングとの関連も踏まえて理解し説明できるようになる。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
健康心理にかかわるアセスメントの方法や一般的な留意点について述べ、後半はアセスメントの種類と活用について、具体的なアセスメントの種類等を挙げて授業を進める。アセスメントシートなどを実際に記入して、自己理解にも役立ててほしい。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
「健康心理学」「臨床心理学Ⅰ」などの理解につながります。						
教 科 書			参考書・リザーブブック			
使用しない（資料配布）			書名：健康心理学の測定法・アセスメント法 著者名：鈴木伸一（編著） 出版社：ナカニシヤ出版			
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。	健康をアセスメントの視点から理解することの有用性や限界について理解できる。				◎
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。					
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）				
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題などに主体的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	日常生活習慣など健康を維持する観点から見直す。				○
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考え、感想を文章や口頭で説明することができる。				○
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスの発生源やその程度、日常生活における影響を評価することができる。				○
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の場合で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	15	15				20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	15	10					75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5				10	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
健康アセスメントの視点から、日常生活を見直し、生活に生かすことができる。また、積極的に健康を増進することができるように、行動を起こす。					健康アセスメントの視点から、日常生活を見直し、生活に生かすことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	アセスメントの意義と役割 ①アセスメント（査定）とは何か？ ②アセスメントを実施する意義とその役割について	講義	復習：授業内容に関する小レポート	10
	コメントシート、小テストなど			
第2回 /	アセスメントのターゲット 「誰」の「何」を対象にアセスメントするか	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第3回 /	アセスメントの方法 アセスメントにおける様々な方法を紹介	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第4回 /	アセスメントへの必要条件 アセスメントが成り立つための必要条件について	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第5回 /	アセスメントの留意点 実施上の留意点について	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第6回 /	「パーソナリティ」のアセスメント（1） 様々なパーソナリティの測定法	講義・実習	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第7回 /	「パーソナリティ」のアセスメント（2） 健康心理領域での活用法について	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第8回 /	「ストレス」のアセスメント ①ストレスの要因 ②ストレスの程度 ① ストレス対処法のアセスメントについて	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第9回 /	「情動」のアセスメント 不安、抑うつなどのアセスメントについて	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第10回 /	「生活態度・習慣」のアセスメント ライフスタイル・行動パターンなどのアセスメントについて	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第11回 /	「社会関係」のアセスメント 親子関係やその他の人間関係も含めた「社会関係」のアセスメントについて	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第12回 /	「知能・発達」のアセスメント（1） 知的能力や子どもの発達のアセスメントについて	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第13回 /	「知能・発達」のアセスメント（2） 知的能力や子どもの発達のアセスメントについて	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第14回 /	アセスメントにおける倫理 アセスメントにおける倫理的諸問題について	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第15回 /	アセスメント結果の活用とまとめ	講義	復習：授業内容に関する小レポート	10

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理カウンセリング領域	健康心理アセスメント実習 Health Psychology Assessment Practice	1単位	選 択	実 習	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	健康心理アセスメントの基礎を踏まえ、各種の心理検査を中心としたアセスメントを実習形式で学んでいく。実習において、検査の実施法だけではなく、採点や簡単な解釈ができ、さらには検査所見の書き方についても習得することを目的とする。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	アセスメント ストレス 健康 実習形式	学修教育目標	実習においては検査の実施法だけではなく、採点や簡単な解釈、さらには検査所見の書き方についても習得できる。また、パーソナリティテストやストレスコーピングなどのアセスメントを自分自身で実施し、自己の特徴を知ることできる。			
-------	------------------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

毎回の授業で、前半は健康心理に関わるテーマについて講義し、後半はアセスメントを実習形式で行う。日頃から、健康への気付きを大切にして、レポートやコメント等にもまとめて記載してほしい。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「健康心理学」「臨床心理学Ⅰ」などの理解につながります。						
------------------------------	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

使用しない（資料配布）	書名：ストレスマネジメント入門 著者名：中野敬子 出版社：金剛出版
-------------	---

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	健康をアセスメントの視点から理解し、適切な方法で数種のアセスメントができる。	◎
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題などに主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	日常生活習慣など健康を維持する視点からアセスメントする。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考え、感想を文章や口調で説明することができる。	○
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスの程度や受け止め方をアセスメントし、対処することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	15	15				20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	15	10					75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5				10	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
健康心理アセスメントの視点を参照しながら、日常生活を自分でアセスメントして、ストレスに対処できる。また、積極的に健康を増進することができる。					健康心理アセスメントの視点を参照しながら、ストレスやストレスに対する自らの脆弱性に気付くことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	健康心理アセスメントの基本的事項 「健康心理アセスメント」で学修した内容の確認	講義	復習：授業内容に関する小レポート	10
	コメントシート、小テストなど			
第2回 /	面接によるアセスメント 面接によるアセスメントをロールプレイで学ぶ（実習）	講義・実習	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第3回 /	行動観察によるアセスメント ビデオから行動観察について学ぶ	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第4回 /	質問紙を用いたパーソナリティのアセスメント（1） 「エゴグラム」	講義・実習	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第5回 /	質問紙を用いたパーソナリティのアセスメント（2） 「考え方のくせ」と認知行動療法	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第6回 /	投影法を用いたパーソナリティのアセスメント 「PFスタディ」	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第7回 /	投影法を用いたパーソナリティのアセスメント 「TAT」	講義・実習	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第8回 /	ストレスの測定 ①測定実習：ストレッサー ②測定実習：ストレス反応 ③測定実習：コーピング	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第9回 /	ストレスと性格	講義・実習	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第10回 /	情動の測定 測定実習：不安・抑うつなどの情動	講義・実習	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第11回 /	社会関係の測定 人間関係の測定	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第12回 /	知能と発達測定（1） 「知能検査」「発達検査」の基本的な実施方法	講義・実習	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第13回 /	知能と発達測定（2） 「知能検査」「発達検査」の評価の仕方	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第14回 /	アセスメント結果の活用（1） ①さまざまな査定結果からの仮説の導出 ②査定結果に基づく報告書の作成	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第15回 /	アセスメント結果の活用（2） ①さまざまな査定結果からの仮説の導出 ②査定結果に基づく報告書の作成	講義	復習：授業内容に関する小レポート	10
	コメントシート、小テストなど			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	心理学概論A Introduction to Psychology A	2単位	必修	講義	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	心理学はこころの学問であるが、心理学を学ぶということは人間そのものについての多角的理解を深めることでもある。心の進化・発達、感覚や知覚、脳の働きや心と身体との関連、さらにパーソナリティや深層心理などの広範囲の心理学の領域を学修し、1年を通じて、心理学の全体像を理解する。心理学概論Aでは、心理学の成り立ち・発達・人格・臨床分野の基礎的な内容を理解する。					
キーワード	心理学の成り立ち・心の進化・発達・ライフサイクル・動機付け・情動・性格・知能・ストレス・メンタルヘルス・カウンセリング・心理療法	学修教育目標	人の心を知ることで人の一般的な心の作用が説明できる。さらに、スポーツ・心理学・教育等の各論を学ぶための基礎を身につけ、各論のより深い理解につなげるための基本的な知識を身につける。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
心理カウンセリング学科に入学して最初の専門教育科目となる講義である。授業を通して心理学に対する興味・関心が増し、秋学期以降の学習意欲に繋がるように、各自授業ノートを準備し、学びに活かしていくことを望む。事前に授業資料を公開するので、各自確認し印刷して授業に臨むこと。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
心理学の基礎を学習しますので予備知識は必要ありません。						
教科書			参考書・リザーブブック			
書名：はじめて出会う心理学 著者名：長谷川ほか 出版社：有斐閣アルマ			書名：心理学検定 基本キーワード 改訂版 著者名：日本心理学諸学会連合 心理学検定局編 出版社：実務教育出版			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。	成り立ち・進化・発達・ライフサイクル・動機付け・情動・性格・ストレス・心理療法の知識を理解できる。				○
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。					
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。				△
	② 働きかけ力	授業中の私語を注意することができる。				△
	③ 実行力	質問や疑問がある場合は自分で探索することができる。				△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力					
	② 計画力					
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。				△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。				△
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	40					10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	40						90
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								5	5
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								5	5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
心理学概論 A で学ぶ知識について十分に理解している 各項目の理解度が 80%以上である					心理学概論 A で学ぶ知識について理解している 各項目の理解度が 60%～80%である					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション - 心理学を学ぶにあたって - 講義内容の外観を理解できる	講義 授業アンケート	資料・教科書の予習	10
第2回 /	心理学の成り立ち - 歴史外観 - 歴史について理解できる	講義 授業アンケートFB コメントシート	資料・教科書の予習・復習	10
第3回 /	比較行動学の視点から - 心の進化、人間と他の動物との比較 - 進化について理解できる	講義 コメントシート	資料・教科書の予習・復習	10
第4回 /	心の発達 - 乳幼児期の心理 - 乳幼児の発達過程を理解できる	講義 小テスト①（授業中に採点）	資料・教科書の予習・復習	10
第5回 /	ライフサイクル1 - 乳児から児童期の心理 - 児童の発達過程を理解できる	講義 コメントシート	資料・教科書の予習・復習	10
第6回 /	ライフサイクル2 - 青年期の心理 - 青年期の発達過程を理解できる	講義 コメントシート	資料・教科書の予習・復習	10
第7回 /	ライフサイクル3 - 成人期・高齢期の心理 - 成人期と高齢者の心理を理解できる	講義 小テスト②（授業中に採点）	資料・教科書の予習・復習	10
第8回 /	動機付けと情動1 - 人を動かすもの - 動機付けと感情を理解できる	講義 コメントシート	資料・教科書の予習・復習	10
第9回 /	動機付けと情動2 - 人を動かすもの - 動機付けと感情を理解できる	講義 コメントシート	資料・教科書の予習・復習	10
第10回 /	性格 - その人らしさ - 性格について理解できる	講義 小テスト③（授業中に採点）	資料・教科書の予習・復習	10
第11回 /	知能1 - 「頭がよい」とは - 知能の意味について理解できる	講義 コメントシート	資料・教科書の予習・復習	10
第12回 /	知能2 - 「頭がよい」とは - 検査について理解できる	講義 コメントシート	資料・教科書の予習・復習	10
第13回 /	ストレスとメンタルヘルス - ストレスをどう乗り越えるか - ストレスについて理解できる	講義 小テスト④（授業中に採点）	資料・教科書の予習・復習	10
第14回 /	カウンセリングと心理療法 - 心の危機を乗り越える - カウンセリングについて理解できる	講義 コメントシート	資料・教科書の予習・復習	10
第15回 /	まとめ - 心理学とは - テスト対策ができている	講義・質疑応答 コメントシート	資料・教科書の復習	10

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	心理学概論B Introduction to Psychology B	2単位	必修	講義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	心理学はこころの学問であるが、心理学を学ぶということは人間そのものについての多角的理解を深めることでもある。心の進化・発達、感覚や知覚、脳の働きや心と身体との関連、さらにパーソナリティや深層心理などの広範囲の心理学の領域を学修し、1年を通じて、心理学の全体像を理解する。心理学概論Bでは、感覚、知覚、学習など人の心の基本的な仕組みと働きや、脳と心、心と社会などとの関係などについても理解する。					
キーワード	感覚 知覚 学習 脳と心 心と社会	学修教育目標	人の心を知ることで人の一般的な心の作用が説明できる。さらに、スポーツ・心理学・教育等の各論を学ぶための基礎を身につけ、各論のより深い理解につなげるための基本的な知識を身につける。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
授業科目の概要 本科目では心理学の基礎的な領域について学ぶ。 学修上の助言 本科目は認定心理士資格関連科目である。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
他の科目との関連 心理学概論A・心理学研究法Ⅰ・心理学研究法Ⅱ・心理学実験実習（実験）・心理学実験実習（調査） 履修に必要な予備知識や技能 心理学領域の科目履修が望ましい。						
教科書				参考書・リザーブドブック		
書名：はじめて出会う心理学 第3版 著者名：長谷川 寿一 他 出版社：有斐閣アルマ				なし		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。	心理学の基礎知識を身につける。				◎
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。					
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。				△
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。				△
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。				△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。				△
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。				△
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。				△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことがらについて、十分に説明できる。				△
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。				△
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。				△
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。				△
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。				△
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。				△
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるができる。				△

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	40	10					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	40	2					92
	技能に関する評価				2					2
	応用力に関する評価				2					2
	チームワークに関する評価				2					2
	関心・意欲に関する評価				2					2
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
心理学の基礎的な領域について理解し、説明できる。 認定心理士の資格を取得する。					心理学の基礎的な領域について理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	・講義	・今回の授業の復習	10
第2回 /	感覚 (1) 感覚の性質、視覚	・講義	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第3回 /	感覚 (2) 聴覚、嗅覚、味覚、皮膚感覚 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第4回 /	知覚 (1) 形、奥行き ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第5回 /	知覚 (2) 動きの知覚、知覚の恒常性 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第6回 /	記憶 (1) 記憶の過程、感覚記憶 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第7回 /	記憶 (2) 記憶の種類、知識とスキーマ ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第8回 /	学習 (1) 学習とは何か、インプリンティング、古典的条件づけ ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第9回 /	学習 (2) オペラント条件づけ、概念の学習 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第10回 /	思考 推論、概念と言語 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第11回 /	脳損傷と心の働き (1) 脳と心を知る方法 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第12回 /	脳損傷と心の働き (2) 脳損傷によるさまざまな影響、健忘 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第13回 /	社会のなかの人 (1) 対人認知、同調行動、先入観・偏見等 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第14回 /	社会のなかの人 (2) 他者との協調関係・信頼関係の構築の大切さ ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第15回 /	まとめ ・小テスト	・講義 ・小テスト	・今回の授業の復習 ・レポート課題作成	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	心理学研究法 I Research Methods in Psychology I	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	心理学における実証的研究方法の基礎を理解する。また心理学で用いられる統計手法の基礎を理解する。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	実証的研究 心理統計 心理学研究技法 心理学実験法 心理調査法	学修教育目標	心理学研究法 I では心理学の実証的研究の手順・技法（量的研究・質的研究）・心理学実験法・実験計画法・調査法等、心理学研究の基礎知識を理解することが出来る。			
-------	---	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

授業科目の概要 本科目では心理学における研究法の基礎的な領域について学ぶ。 学修上の助言 本科目は認定心理士資格関連科目である。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目との関連 心理学概論 A・心理学概論 B・心理学研究法 II・心理学実験実習（実験）・心理学実験実習（調査） 履修に必要な予備知識や技能 心理学領域の科目履修が望ましい。
--

教科書	参考書・リザーブドブック
書名：心理学検定 基本キーワード 改訂版 著者名：日本心理学諸学会連合 心理学検定局 出版社：実務教育出版	書名：心理学 実験・研究レポートの書き方―学生のための初歩から卒論まで― 著者名：B. フィンドレイ(著) 細江 達郎 細江 久美子(訳) 出版社：北大路書房

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。	心理学の研究方法を身につける。	◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。	○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。	○
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことについて、十分に説明できる。	○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	○
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるることができる。	○

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	40	10					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	40	2					92
	技能に関する評価				2					2
	応用力に関する評価				2					2
	チームワークに関する評価				2					2
	関心・意欲に関する評価				2					2
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
心理学における研究法の基礎的な領域について理解でき、説明できる。 認定心理士の資格を取得する。					心理学における研究法の基礎的な領域について理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	・講義	・今回の授業の復習	10
第2回 /	心理学の科学的方法論	・講義	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第3回 /	心理学の研究法 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第4回 /	心理学の変数 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第5回 /	質的研究と量的研究 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第6回 /	信頼性 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第7回 /	妥当性 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第8回 /	仮説検定法 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第9回 /	実験法 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第10回 /	調査法 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第11回 /	観察法 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第12回 /	検査法 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第13回 /	面接法 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第14回 /	心理学研究の倫理 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第15回 /	まとめ ・小テスト	・講義 ・小テスト	・今回の授業内容の復習 ・レポート課題作成	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	心理学研究法Ⅱ Research Methods in Psychology Ⅱ	2単位	必修	講義	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	心理学における実証的研究方法の基礎（心理学データに関する基礎的統計処理法とデータを用いた実証的な思考方法）を理解する。					
キーワード	実証的研究方法 統計処理法 実証的な思考方法	学修教育目標	心理学研究法Ⅱでは、心理学研究法Ⅰの内容を踏まえながら、心理学データに関する基礎的統計処理法を理解することが出来る。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
授業科目の概要 本科目では、心理学研究法Ⅰに続き、心理学における研究法について学ぶ。 学修上の助言 本科目は認定心理士資格関連科目である。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
他の科目との関連 心理学概論A・心理学概論B・心理学研究法Ⅰ・心理学実験実習（実験）・心理学実験実習（調査） 履修に必要な予備知識や技能 心理学領域の科目履修が望ましい。						
教科書			参考書・リザーブブック			
書名：心理学検定 基本キーワード 改訂版 著者名：日本心理学諸学会連合 心理学検定局 出版社：実務教育出版			書名：ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法 著者名：田中 敏・山際 勇一郎 出版社：教育出版			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。					
②	心理の分析方法を身につける。	心理学の研究方法を身につける。				◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。					
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。				○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。				○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。				○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。				○
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことならについて、十分に説明できる。				○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。				○
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。				○
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。				○
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。				○
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるることができる。				○

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	40	10					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	40	2					92
	技能に関する評価				2					2
	応用力に関する評価				2					2
	チームワークに関する評価				2					2
	関心・意欲に関する評価				2					2
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
心理学における実証的研究方法について理解でき、説明できる。 認定心理士の資格を取得する。					心理学における実証的研究方法について理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	・講義	・今回の授業の復習	10
第2回 /	代表値	・講義	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第3回 /	散布度 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第4回 /	変数の変換 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第5回 /	2変数の記述統計 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第6回 /	母数の推定 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第7回 /	検定（統計的仮説検定） ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第8回 /	単回帰分析 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第9回 /	実験計画と分散分析 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第10回 /	心理テストの信頼性と妥当性 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第11回 /	心理学的測定法 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第12回 /	心理テストの分析 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第13回 /	心理検査の種類と特徴 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第14回 /	多変量解析 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第15回 /	まとめ ・小テスト	・講義 ・小テスト	・今回の授業内容の復習 ・レポート課題作成	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	心理学実験実習（調査） Practice in Psychology (Research Methods)	3単位	選 択	実 習	3年次	春（秋）学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	心理学実験実習（調査）では、実際にデータを収集して分析し、レポートを作成するという、実習を行なう。本授業においては、調査計画の立案、質問項目の作成、データ収集、データ入力、解析、レポート作成等の主に調査法のスキルを理解し、その専門知識を身につける。					
----------------------------	--	--	--	--	--	--

キ ー ワ ー ド	パーソナリティ 印象形成 対比較法 対人認知 社会的態度	学 修 教 育 目 標	本授業では、社会調査、特に質問紙調査のスキルを修得し、調査の実施とレポートの作成に加えて、実際に質問紙の作成過程を理解し、卒業論文に応用できるようにする。			
-----------------------	--	----------------------------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

授業では、様々な調査を体験する。各自が得た種々のデータを分析し、レポートを作成する。 本授業においては、一つの課題が複数週に亘ることもある。毎回の課題を一つずつ仕上げること。 第11週～第15週はグループに分かれて実習を行う。個人の行動がグループに影響するので、協力して実習に取り組むこと。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「ソフトウェアリテラシー基礎」「ソフトウェアリテラシー応用」などパソコン関連の科目や「現代の統計学」、「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」の内容とも関連するので、これらの科目の内容と関連付けながら受講すると理解がより深まる。						
---	--	--	--	--	--	--

教 科 書	参 考 書・リ ー ザ ー ブ ッ ク
なし	心理学検定基本キーワード 改訂版 日本心理学諸学会連合心理学検定局（編）

No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	心理学での心理調査の考え方が理解できる。	◎
②	心理の分析方法を身につける。	心理データの収集及び処理を適切に行うことができる。	◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	グループワークをすることで、意見の違いや立場の違いを理解する力を身につけることができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	データを客観的に分析することで、社会について正確な判断をすることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	◎
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。	◎
	② 計画力	課題発表ができるように計画的に準備ができる。	◎
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	データを用いてわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	◎
	③ 柔軟性	発表者が前向きに、かつ理解しやすいようにコメントすることができる。	◎
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	◎
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べることができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合					75	10			15	100
評価 の 指標	知識に関する評価				25				5	30
	技能に関する評価				25	5				30
	応用力に関する評価				25					25
	チームワークに関する評価					5			5	10
	関心・意欲に関する評価								5	5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>実習を通して、心理調査の考え方を理解する。パーソナリティの測定、印象形成、一対比較法、社会的態度の測定などを修得する。</p>					<p>実習を通して、心理調査の考え方を理解する。統計的手法を用いて、結果をまとめることができる。 心理調査の書式に従ったレポートを作成することができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	オリエンテーション 調査系のレポートの書き方について学ぶ。平均値の差の検定、について解説し、模擬データを用いて、調査の基礎を学ぶ。 TGU e-Learning システムでの課題提出	演習	予習：心理学検定基本キーワード「代表値と散布度」を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
第2回 ／	ソーシャル・スキルの測定 K i s s -18 を実施し、尺度の代表値を理解し、平均値の男女比較を行い、結果の書き方について説明する。 TGU e-Learning システムでの課題提出	演習	課題：レポート作成	180
第3回 ／	5 因子説に基づく質問紙法性格検査(1) 質問紙法性格検査である NEO-PIR を実施し、自己分析を行う。 TGU e-Learning システムでの課題提出	演習	予習：心理学検定基本キーワード「主要（特性）5 因子モデル」を読む。 復習：配布プリントを復習する。	60
第4回 ／	5 因子説に基づく質問紙法性格検査(2) 質問紙法性格検査である FFPQ を実施する。その結果を元に自己分析を行う。 TGU e-Learning システムでの課題提出	演習	予習：NEO-PIR と FFPQ の結果を比較し、自己分析を行う。 復習：配布プリントを復習する。	90
第5回 ／	5 因子説に基づく質問紙法性格検査(3) NEO-PIR と FFPQ のデータを用いて、両者の相関分析を行う。 TGU e-Learning システムでの課題提出	演習	予習・復習：課題（レポート作成）	180
第6回 ／	印象形成 印象がどのようにして形成されるのかを経験し、実際にデータを収集し、確かめる。 TGU e-Learning システムでの課題提出	演習	予習・復習：レポート作成	180
第7回 ／	イメージの測定：SD 法（1） 対象物についてのイメージ評定を SD 法によって行い、データ入力を行う。 TGU e-Learning システムでの課題提出	演習	予習：平均値の差の検定について調べておく。 復習：イメージ測定について復習する。	60
第8回 ／	イメージの測定：SD 法（2） 第7回で得られたイメージ測定の結果についての基本的な分析手続きを確認し、分析を行う。 TGU e-Learning システムでの課題提出	演習	予習：心理学検定キーワードの「実験計画と分散分析」を読む。 復習：平均値の差の検定について復習する。	60
第9回 ／	イメージの測定：SD 法（3） 第8回の分析結果を元にして、認知次元の内容、対象物の意味的な差異を考察する。 TGU e-Learning システムでの課題提出	演習	予習・復習：課題（レポート作成）	180
第10回 ／	一対比較法 一対比較法の基本的な手続きを確認し、実際に対象を選択し、これについての評定を行い、データを解析する。最終的に「一対比較法」の基本を理解する。 TGU e-Learning システムでの課題提出	演習	予習・復習：課題（レポート作成）	180
第11回 ／	社会的態度尺度の構成(1) 質問紙の作成について理解する。グループごとにテーマを選択し、仮説についてグループ内でディスカッションする。 TGU e-Learning システムでの課題提出	演習	予習：態度測定について調べておく。 復習：授業の中で取り上げたテーマについて調べ、仮説を立てる。	60
第12回 ／	社会的態度尺度の構成(2) グループごとに調査用紙を作成し、データを収集する。 TGU e-Learning システムでの課題提出	演習	予習：配布プリントを読んでおく。 復習：平均値の差の検定について復習する。	60
第13回 ／	社会的態度尺度の構成(3) これまで学習した分析方法を応用しながら、データ分析を行う。 TGU e-Learning システムでの課題提出	演習	得られた結果についての考察を行う。レポート作成の準備を行う。	60
第14回 ／	社会的態度尺度の構成(4) 目的から考察までをレポートとして作成する。 TGU e-Learning システムでの課題提出	演習	予習・復習：課題（レポート作成）	270
第15回 ／	社会的態度尺度の構成(5) 得られた結果を元にプレゼンテーションを行う。 TGU e-Learning システムでの課題提出	演習	予習：これまでの授業を理解する。 復習：授業内容全体を復習する。	60

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	心理学実験実習（実験） Practice in Psychology (Experiment)	3単位	選 択	実 習	3年次	秋（春）学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	心理学実験実習(実験)では、実際にデータを収集して分析し、レポートを作成するという、実習を行う。本授業においては、実験計画の立案、データ収集、データ入力、解析、レポート作成等の主に実験法のスキルを理解し、その専門知識を身につける。					
----------------------------	---	--	--	--	--	--

キ ー ワ ー ド	実験計画の立案 データ収集 データ解析 レポート作成	学 修 教 育 目 標	本授業では、心理学実験のスキルを修得し、実験の実施とデータの解析、レポートの作成等、実際の心理学実験を理解し、卒業論文に応用できるようにする。			
-----------------------	-------------------------------------	----------------------------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

授業科目の概要 本科目では、心理学実験実習（調査）と同様、心理学実験を実習し、そのスキルを修得する。 学修上の助言 本科目は認定心理士資格関連科目である。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目との関連 心理学概論A・心理学概論B・心理学研究法Ⅰ・心理学研究法Ⅱ・心理学実験実習（調査） 履修に必要な予備知識や技能 心理学領域の科目履修が望ましい。						
--	--	--	--	--	--	--

教 科 書	参 考 書 ・ リ ザ ー ブ ド ブ ッ ク
なし	書 名：認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 著者名：日本心理学会認定心理士資格認定委員会（編） 出版社：金子書房 書 名：SPSS による統計処理の手順 著者名：石村 貞夫 出版社：東京図書 書 名：SPSS による分散分析と多重比較の手順 著者名：石村 貞夫 出版社：東京図書

No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。	心理実験の方法を身につける。	◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	◎
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。	◎
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。	◎
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことについて、十分に説明できる。	◎
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	◎
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	◎
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるることができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			20		40				40	100
評価 の 指標	知識に関する評価		5		10					15
	技能に関する評価		5		10				10	25
	応用力に関する評価		5		10				10	25
	チームワークに関する評価								10	10
	関心・意欲に関する評価		5		10				10	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
心理学実験のスキルを修得し、実際の心理学実験を理解し、卒業論文に応用できる。 認定心理士の資格を取得する。					心理学実験のスキルを修得し、実際の心理学実験を理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	・オリエンテーション ・演習	・講義 ・演習	・今回の授業内容の復習	20
第2回 /	・短期記憶（1）－実験－ ・演習	・講義 ・演習	・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習	20
第3回 /	・短期記憶（2）－解析－・－考察－ ・演習	・講義 ・演習	・今回の授業内容の復習 ・レポートの完成	60
第4回 /	・ストループ効果（1）－実験－ ・演習	・講義 ・演習	・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習	20
第5回 /	・ストループ効果（2）－解析－・－考察－ ・演習	・講義 ・演習	・今回の授業内容の復習 ・レポートの完成	60
第6回 /	・大きさの恒常性（1）－実験－ ・演習	・講義 ・演習	・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習	20
第7回 /	・大きさの恒常性（2）－解析－ ・演習	・講義 ・演習	・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習	20
第8回 /	・大きさの恒常性（3）－考察－ ・演習	・講義 ・演習	・今回の授業内容の復習 ・レポートの完成	60
第9回 /	・鏡映描写（1）－実験－ ・演習	・講義 ・演習	・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習	20
第10回 /	・鏡映描写（2）－解析－ ・演習	・講義 ・演習	・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習	20
第11回 /	・鏡映描写（3）－考察－ ・演習	・講義 ・演習	・今回の授業内容の復習 ・レポートの完成	60
第12回 /	・ミューラー・リヤー錯視（1）－実験－ ・演習	・講義 ・演習	・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習	20
第13回 /	・ミューラー・リヤー錯視（2）－解析－ ・演習	・講義 ・演習	・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習	20
第14回 /	・ミューラー・リヤー錯視（3）－考察－ ・演習	・講義 ・演習	・今回の授業内容の復習 ・次回の授業内容の予習	20
第15回 /	まとめ ・演習	・講義 ・演習	・今回の授業内容の復習 ・課題の作成	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	発達心理学 Developmental Psychology	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	人間は時間と共に変化しつづけていく。それは受精し生命が誕生した時に始まり、死とともに生命がなくなるまで続く。発達心理学は、このような人間の変化を扱う心理学である。本授業においては、人間の生涯発達という観点から、認知機能の発達、感情と動機づけの発達、言語の発達、社会性の発達、自己意識の発達等、様々な観点から発達心理学を理解することを目標とする。	
	生涯発達 発達段階 発達理論	人間の一生の発達を、様々な角度から理解し、人間の発達の变化に関する考え方や知識を身につけ、自分自身の発達について考えることができるようになる。

授業科目の概要及び学修上の助言

本授業においては、人間の生涯発達という観点から、認知機能の発達、感情と動機づけの発達、言語の発達、社会性の発達、自己意識の発達等、様々な観点から発達心理学を説明する。授業では、発達心理学の各種理論についても学ぶ。自身の経験を振り返りながら、授業を受講して欲しい。ディスカッションの場では、自分の意見を積極的に述べる姿勢が大事となる。目的意識をもって授業に参加して欲しい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

社会心理学や人間関係論の内容とも関連するので、これらの科目の内容と関連付けながら受講すると、理解がより一層深まる。

教科書

参考書・リザーブブック

なし	心理学検定基本キーワード 改訂版 日本心理学諸学会連合心理学検定局（編）
----	--------------------------------------

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	発達心理学の基礎的な概念・理論について説明できる。	◎
②	心理の分析方法を身につける。	発達心理学の研究手法について説明することができる。	◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	他者のことを考えながら意見を述べ、自発的に課題に取り組むことができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	生涯発達の観点から、発達課題について説明することができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55						45	100
評価 の 指標	知識に関する評価		55						25	80
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>発達心理学の全体を十分に理解し、人間の生涯発達について概説することができる。 発達心理学の理論を理解すると共に、社会で生じている事象を考察することができる。</p>					<p>発達心理学の基本的な概念を理解し、人間の発達の全体を理解している。 自身の心理的な発達を振り返ることができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 / 第1回	ガイダンス 授業の目的・計画・受講上の注意等の説明を行う。 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：心理学検定基本キーワード「初期経験と臨界期」を読み理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第2回 / 第2回	発達の基礎(1) ・発達の生物学的基礎 ・発達の過程 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：心理学検定基本キーワード「初期経験と臨界期」を読み理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第3回 / 第3回	発達の基礎(2) ・発達の要因 ・発達の加速現象について TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：心理学検定基本キーワード「発達の研究法」を読み理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第4回 / 第4回	認知機能の発達(1) ・認識の始まり ・表象的思考の始まり TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：心理学検定基本キーワード「ピアジェの発達理論・ヴォゴツキーの発達理論」を読み理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第5回 / 第5回	認知機能の発達(2) ・「みかけ」からの脱却 ・内的世界の広がり TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：心理学検定基本キーワード「ヴォゴツキーの発達理論」を読み理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第6回 / 第6回	情動の発達(1) ・情動発達の基礎 ・乳幼児期における情動の発達 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：これまでの学んだことを整理する。 復習：授業内容全体を復習する。	90
第7回 / 第7回	情動の発達(2) ・情動と親子のコミュニケーション ・情動の生涯発達 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：心理学検定基本キーワード「アタッチメント」を読み理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第8回 / 第8回	言語の発達(1) ・言語の獲得 ・発話の発達 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：子どもの言語の発達について考える 復習：これまでの内容を全て復習する。	270
第9回 / 第9回	言語の発達(2) ・言語発達の諸相 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：これまでの学んだことを整理する。 復習：授業内容全体を復習する。	90
第10回 / 第10回	対人関係の広がり和社会性の発達(1) ・子どもの対人世界の広がり ・共感性の発達 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：子どもの対人関係について考える 復習：授業内容全体を復習する。	90
第11回 / 第11回	対人関係の広がり和社会性の発達(2) ・心の理論の発達 ・道徳性の発達 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：心理学検定基本キーワード「社会性の発達」を読み理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第12回 / 第12回	自己意識とアイデンティティの発達(1) ・乳幼児期の自己意識 ・児童期の自己意識の発達 ・青年期の自己意識の発達 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：心理学検定基本キーワード「思春期・青年期」を読み理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第13回 / 第13回	自己意識とアイデンティティの発達(2) ・理想自己と現実自己について考える ・自己意識の成熟とアイデンティティの形成 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：同一性地位判定尺度について整理する。 復習：自己分析を行う。配布プリントを復習する。	90
第14回 / 第14回	高齢期の発達 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：高齢者の特性について考える 復習：配布プリントを復習する。	90
第15回 / 第15回	発達障がい TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：発達障がいについて調べる。 復習：授業内容全体を復習する。	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	幼児児童心理学 Psychology to Infancy	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	ヒトの一生における幼児期・児童期の特徴や、幼児児童心理学の基本的な概念の理解を深める。幼児期および児童期の認知発達、パーソナリティの発達、あるいは生活環境について学修する。					
	キーワード	心理発達 生涯発達 乳幼児期から児童期 家庭・学校	学修教育目標	1. 定型発達を理解することにより、子どものよりよい発達を促す環境と援助について理解する。 2. 子どもの学びの過程や特性の基本手知識を習得し、発達の課題に応じた援助や関わりを考えることができる。		
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>授業科目の概要 本科目では乳幼児期から児童期に至る心理発達における基礎的な理論を学ぶ。</p> <p>学修上の助言 本科目は福祉心理士資格関連科目である。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>他の科目との関連 福祉心理学・障がい児心理学・介護概論・社会福祉論・福祉相談援助・障がい者福祉論・福祉住環境論・社会的養護論</p> <p>履修に必要な予備知識や技能 心理カウンセリング関連科目の履修が望ましい。</p>						
教 科 書			参考書・リザーブドブック			
なし			<p>書 名：幼児・児童の発達心理学 著者名：中澤 潤 監修 中道圭人・榎本淳子（編） 出版社：ナカニシヤ出版</p>			
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。	心理学の専門的な用語を学び、子どもの発達の变化について説明することができる。				◎
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	発達支援についての説明することができる。				◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	発達心理学の専門的知識を身につけ、その知識を実社会に応用することができる。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。				○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。				△
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。				○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。				○
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるすることができる。				△

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55						45	100
評価 の 指 標	知識に関する評価		55						25	80
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
乳幼児期から児童期に至る心理発達における基礎的な理論を理解し、説明できる。 福祉心理士の資格を取得する。					乳幼児期から児童期に至る心理発達における基礎的な理論を理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	オリエンテーション —幼児児童心理学の概観—	講義	社会人基礎力事前・事後評価シートの記入	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			
第2回 ／	人間の発達と幼児児童期の位置づけ	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第3回 ／	からだと運動 —未分化から分化へ—	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第4回 ／	記憶 —記憶の様々な側面—	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第5回 ／	思考 —具体的な思考から抽象的な思考へ—	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第6回 ／	概念発達 —素朴な概念から科学的概念へ—	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第7回 ／	言語 —話し言葉から書き言葉へ—	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第8回 ／	遊び —遊びが育むもの—	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第9回 ／	自己と情動 —情動表出の調整について—	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第10回 ／	社会性 —他律から自律へ—	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第11回 ／	対人関係（1） 親子関係について	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第12回 ／	対人関係（2） 仲間関係について	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第13回 ／	集団生活 —幼稚園・保育園から小学校へ—	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第14回 ／	子どもの障がいと非定型発達の理解	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			30
第15回 ／	幼児児童心理学の研究方法の理解	講義	予習：資料の内容確認 復習：授業内容のまとめ	30
	TGU e-Learning システムでの課題提出			60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	教育心理学 Educational Psychology	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>教育心理学は、学校や家庭、さらに社会における人格の発達に及ぼす諸要因を心理学的に解明し、幼児・児童・生徒の心身の望ましい発達や人格形成を目指すものである。教育に関連する諸事象、教授・学習過程、評価、発達、人格・適応領域、並びに集団における人間関係や障がいのある子ども達への理解、発達心理学領域もその対象となる。また、人間そのものの本質を理解することは教育心理学の重要な課題の一つでもある。「人間とは?」「生きるとは?」これらの視点も含めて、広く教育心理学を学んでいくことを目的とする。</p>					
キーワード	教授・学習過程 評価 発達 人格 障がい 人間関係	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴が理解できる。 ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方が理解できる。 			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>教師になるために必要な心理学の理論を中心に学ぶ。本講義は教職関連科目であるため、15回の授業を通して、授業態度や物事に取り組む姿勢についても身に付けていく必要がある。「教師になる」という高い目的意識が求められる科目であることを自覚して履修すること。主体的な学びとなるよう、各自授業ノートを準備し、学びに活かしていくことが望ましい。さらに、講義形式ではあるが、ペアワークやディスカッションを取り入れながら授業を進めていくため、積極的な姿勢で授業に臨むこと。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>「教育相談の基礎Ⅰ」と関係づけて学んでいくことで学びが深くなっていきます。</p>						
教 科 書			参考書・リザーブブック			
プリント配布			書 名：『精選 コンパクト教育心理学』 著者名：北尾倫彦・中島実 他 出版社：北大路書房			
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。	教育心理学（望ましい発達や人格形成）に関する知識を身につけることができる。				◎
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。					
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。				○
	② 働きかけ力	集団や組織（チーム）の中でリーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）や組織を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。				△
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し現状を把握する中で、課題を抽出し問題を解決することができる。				○
	② 計画力					
	③ 創造力	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探ることができる。				△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50						50	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35							35
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15						20	35
	チームワークに関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価								25	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
生徒の望ましい発達や人格形成に関する知識を十分に理解している。 生徒・保護者への対応に役立つカウンセリングの知識や技法を十分に理解している。 各項目の理解度が80%以上である。					生徒の望ましい発達や人格形成に関する知識を理解している。 生徒・保護者への対応に役立つカウンセリングの知識や技法を理解している。 各項目の理解度が60%～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション - 教育心理学とは コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第2回 /	発達と教育および発達の諸理論 - ハヴィガーストとエリクソンの発達課題 - コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第3回 /	発達の諸理論 - ピアジェ・フロイト・ヴィゴツキーの理論 - コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第4回 /	心身の発達（1） 幼児期から青年期における心身の発達の概要 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第5回 /	心身の発達（2） 幼児期から青年期の運動発達、言語発達、認知発達及び社会性 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第6回 /	心身の発達（3） 自己概念の発達と学校教育。社会性や道徳性の発達と学校教育 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第7回 /	心身の発達（4） 障がいのある幼児・児童・生徒の心身の発達及び学習の過程 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第8回 /	人格・個性・適応 生徒の人格形成や個性 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第9回 /	学習のメカニズムと動機づけ（1） 主体的学習を促す効果的な学習法及び教授法 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第10回 /	学習のメカニズムと動機づけ（2） 集団における人間関係、動機づけとやる気の持続 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第11回 /	学習のメカニズムと動機づけ（3） 教育評価の種類と方法 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第12回 /	学校文化 家庭での学習と学校での学習の違いと指導法 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第13回 /	カウンセリングの知識や技法を活かした児童・生徒理解（1） カウンセリングの知識と技法 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第14回 /	カウンセリングの知識や技法を活かした児童・生徒理解（2） 実践事例からみる指導法 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第15回 /	まとめ 確認と振り返り	講義・質疑応答	復習：講義内容・試験範囲の振り返り	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	福祉心理学 Psychology of Well-being	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	福祉心理学とは、福祉のための心理学であり、福祉に役立つ心理学的知見の提供ということである。福祉分野で働く人のための基礎知識となる、福祉的対応を必要とする人々の心理的理解を学習すると共に、心理面においての支援の仕方や方法を学ぶ。また、福祉の現場における経済的対応、教育的対応、心理的対応、社会的対応などがどのような心理的影響を与えるかを知る。					
	キーワード	福祉領域 社会福祉 心理的援助	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 福祉分野に必要な心理学の基礎知識を習得する。 福祉領域における倫理や価値、基本的視点・技術を通じて、援助する側とされる側の双方の心理を説明できる。 人を理解する力と援助実践の心理的效果について学び、初期的な相談援助面接ができるようになる。 		
授業科目の概要及び学修上の助言						
本授業では、現代社会における福祉な問題や課題を知ることが基本とし、そこでの心理的援助の在り様について学ぶ。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
心理学概論、社会福祉論、心理学研究法の内容とも関連するので、関連付けながら受講して欲しい。						
教 科 書				参考書・リザーブブック		
授業内でレジュメを適宜配布する。オンデマンドによる遠隔授業においても資料を配布する。				書 名：福祉心理学 著者名：中島健一編（2020） 出版社：遠見書房		
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。	日本における福祉制度や現状を知ることが出来る。				○
②	心理の分析方法を身につける。	生まれてから死ぬまでの間に受ける福祉的援助の種類を知る。				○
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	支援を受ける立場での心理を理解できる。				○
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	援助を必要としている人々のニーズを理解することが出来る。				◎
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	「well being」の意義を理解し、自らも実践できるようになる。				○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	心理的背景を分析、理解し、社会生活に適応する力をつける。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業の内容を理解しようとする。				○
	② 働きかけ力	理解のために質問することができる。				○
	③ 実行力	仲間になぞねることができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	福祉領域の課題を見つけることができる。				○
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を述べることができる。				○
	② 傾聴力	他者の意見を聴くことができる。				○
	③ 柔軟性	異なる意見を理解することができる。				○
	④ 状況把握力	意見をまとめることに協力できる。				○
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力	他者との関わりを楽しむことが出来る。				○
4. 倫理観	① 倫理性	他者と適切な距離をおきつつ行動できる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30	10			10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30		10	5				45
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				10	5				15
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20		10				10	40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ知識を理解し、福祉的支援を必要としている人を自らが支援できる。 ・「well being」の意義を理解し、実践できる。 					<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容を概ね理解し、福祉領域についての視野が広がる。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション - 福祉の基本的視点を知る-	講義	予習：興味のある福祉領域について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	30
第2回 /	生活を支える心理支援	講義	予習：興味のある福祉領域について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	30
第3回 /	暴力被害者への心理支援	講義	予習：暴力はどういった場面で生じるか考える。 復習：配布プリントを復習する。	30
第4回 /	高齢者への心理支援	講義	予習：身近にいる高齢者について考える。 復習：配布プリントを復習する。	30
第5回 /	障害・疾病のある人への心理的支援	講義	予習：どのような障害者がいるか、調べる。 復習：配布プリントを復習する。	30
第6回 /	生活困窮・貧困者への心理的支援	講義	予習：生活困窮者・貧困者とはどういった人をいうのか調べる。 復習：配布プリントを復習する。	30
第7回 /	地域の諸問題と福祉心理的アプローチ	講義	予習：自分が住んでいる地域はどのような地域か調べる。 復習：配布プリントを復習する。	30
第8回 /	医療の諸問題と福祉心理的援助とアプローチ	講義	予習：医療の中で福祉心理的援助はどんなものがあるか調べる。 復習：配布プリントを復習する。	30
第9回 /	就労の諸問題と福祉心理的アプローチ	講義	予習：自分が就きたい仕事について考える。 復習：配布プリントを復習する。	30
第10回 /	ひきこもり・自殺予防の心理的支援	講義	予習：自殺について自分の考えをまとめる。 復習：配布プリントを復習する。	30
第11回 /	精神障害者の理解と心理的支援	講義	予習：精神障害者について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	30
第12回 /	犯罪者及び犯罪被害者に対する処遇と心理的援助	講義	予習：累犯障害者について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	30
第13回 /	実際に福祉的援助職に就いている方の話を聞く 話を聞いての感想を書く。	講義 (学外講師)	予習：前回のプリントを復習する。	30
第14回 /	世界の子どもの現状を学ぶ DVDを見て感想を書く	講義 DVD視聴	予習：前回のプリントを復習する。	30
第15回 /	福祉心理学における心理と支援 福祉心理学の知識をどう活かしていくか	講義	予習：前回のプリントを復習する。	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	障がい児心理学 Psychology of Physically and Mentally Handicapped Children	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	身体障がい、知的障がい、および精神障がいの概要を理解し、障がい児の心理社会的課題および必要な支援についての学びを深める。					
キーワード	障がいとは何か	学修教育目標	1. 代表的な障がい（例：視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由、発達障がい等）の定義、原因、心理・行動特性などを理解し、基本的な支援方法について学ぶ。 2. 特別支援教育と合理的配慮の概要について理解し、説明することができる。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
授業科目の概要 障がい児の概念とその歴史の変遷を学び、現状や今後の課題について考える。 人間社会の多様性を認め、互いに理解し、尊重することを学ぶ。 学修上の助言 本科目は福祉心理士資格関連科目である。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
他の科目との関連 福祉心理学、幼児児童心理学、発達心理学、心理カウンセリング、カウンセリング実務論ⅠⅡ、臨床心理学ⅠⅡ、健康心理学、人間関係論 履修に必要な予備知識や技能 社会福祉関連の科目履修が望ましい。						
教科書				参考書・リザーブドブック		
書 名：よくわかる障害児教育 著者名：石部元雄 上田征三 高橋実 柳本雄次 編著 出版社：ミネルヴァ書房				書 名：障害児心理入門 著者名：井澤信三 小島道生 編 出版社：ミネルヴァ書房		
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。	教科書を熟読し、要点をまとめ説明する力を身に着ける。				◎
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	講義を傾聴し、理解したうえで自己の意見を持てるようにする。				○
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	提示した参考文献、新聞の記事などを読み、それについてディスカッションをする。				○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分の意見を述べる。				○
	② 働きかけ力	他者にわかりやすく話す。				○
	③ 実行力	ディスカッションができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	文献を読み、問題点をピックアップする。				◎
	② 計画力	1つのテーマについて調べる。				○
	③ 創造力	レポートにまとめる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を他者にわかりやすく話す。				○
	② 傾聴力	他者の意見をしっかりと聞く。				○
	③ 柔軟性	他者の意見を理解する。				◎
	④ 状況把握力	チームの中での多様な意見を図式化する。				△
	⑤ 規律性	他のメンバーの妨げになるようなことをしない。				○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスコーピングを心がける。				○
4. 倫理観	① 倫理性	個人情報保護に努める。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30				20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30		20				10	60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		20		10					30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
学習した専門用語やその意味について90%以上理解する。 歴史的背景や現状を理解した上で、今後の課題について建設的な意見を述べる。					学習した専門用語やその意味について60%以上理解する。 歴史的背景や現状を理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 / 第1回	オリエンテーション 障害児心理学とは	講義	障がい・障がい児について持っている意識。知っていること、関わった経験について整理する。	20
第2回 / 第2回	障がい児の概念と歴史の変遷	講義	授業の感想を提出	20
第3回 / 第3回	インクルージョン、ノーマライゼーションについて（1） 視覚障がい・聴覚障がい児についての理解と支援のための心理学	講義	同上	20
第4回 / 第4回	インクルージョン、ノーマライゼーションについて（2） 肢体不自由についての理解と支援のための心理学	講義	同上	20
第5回 / 第5回	重度・重複障がい児についての理解と支援のための心理学 病弱児の心理・行動特性	講義	同上	20
第6回 / 第6回	言語障がい児についての理解と支援のための心理学	講義	同上	20
第7回 / 第7回	知的障がい児についての理解と支援のための心理学	講義	レポート作成	60
第8回 / 第8回	障害児心理学と障害児教育の関係について	講義	授業の感想を提出	20
第9回 / 第9回	発達障害についての理解と支援のための心理学	講義	同上	20
第10回 / 第10回	発達障害とは何か。発達障害者支援法以来の動向について学ぶ。	講義	同上	20
第11回 / 第11回	LD・ADHD児についての理解と支援のための心理学	講義	同上	20
第12回 / 第12回	自閉症スペクトラムについての理解と支援のための心理学	講義	同上	20
第13回 / 第13回	障がい児教育・療育の専門職の資格と養成	講義	自己課題を設けてレポートを作成	60
第14回 / 第14回	障がい児教育の課題	講義	レポートの発表	20
第15回 / 第15回	障がい児心理学のまとめ	講義	テストの準備	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	知覚心理学Ⅰ PerceptionⅠ	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>本科目では、知覚心理学Ⅱとともに、人の知覚について考えていく。知覚は‘環境の認知’と定義することができる。知覚心理学Ⅰでは人の感覚・知覚等の機序及びその障がいを中心に理解する。</p>					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	環境の認知 感覚・知覚の機序 感覚・知覚の障がい	学修教育目標	‘われわれは世界をどのようにとらえているのか’この問いに答えるために、どのようなアプローチがとられてきたか、その結果どのようなことがわかってきたか、どのような問題がどのような形で残っているか。このような点を理解することができる。			
-------	--------------------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

授業科目の概要 本科目では人の感覚・知覚等の機序及びその障がいについて学ぶ。 学修上の助言 本科目は認定心理士資格関連科目である。
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目との関連 知覚心理学Ⅱ・心理学概論B・認知心理学・生理心理学・心理学実験実習（実験） 履修に必要な予備知識や技能 心理学領域の科目履修が望ましい。
--

教科書	参考書・リザーブドブック
なし	書 名：心理学検定 基本キーワード 改訂版 著者名：日本心理学諸学会連合 心理学検定局 出版社：実務教育出版

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	知覚心理学の知識を身につける。	◎
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。	○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。	○
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことについて、十分に説明できる。	○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	○
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるることができる。	○

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	40	10					100
評価 の 指 標	知識に関する評価		50	40	2					92
	技能に関する評価				2					2
	応用力に関する評価				2					2
	チームワークに関する評価				2					2
	関心・意欲に関する評価				2					2
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
人の感覚・知覚等の機序及びその障がいについて理解し、説明できる。 認定心理士の資格を取得する。					人の感覚・知覚等の機序及びその障がいについて理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	・講義	・今回の授業の復習	10
第2回 /	視覚の神経生理学的基盤（末梢）	・講義	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第3回 /	視覚の神経生理学的基盤（中枢） ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第4回 /	明るさの知覚 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第5回 /	コントラストの知覚 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第6回 /	色の知覚 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第7回 /	形の知覚 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第8回 /	奥行きの知覚 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第9回 /	運動の知覚 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第10回 /	錯視 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第11回 /	恒常性 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第12回 /	注意 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第13回 /	聴覚 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第14回 /	視覚の進化 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第15回 /	まとめ ・小テスト	・講義 ・小テスト	・今回の授業内容の復習 ・レポート課題作成	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	知覚心理学Ⅱ Perception Ⅱ	2単位	選 択	講 義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	<p>本科目では、知覚心理学Ⅰとともに、人の知覚について考えていく。知覚は「環境の認知」と定義することができる。知覚心理学Ⅰでは人の感覚・知覚等の機序及びその障がいについて考察した。知覚心理学Ⅱでは、人がどのようにして自己と外界との関係を確立して生命活動を全うしているのかについて理解する。</p>					
----------------------------	---	--	--	--	--	--

キ ー ワ ー ド	環境の認知 自己と外界との関係の確立 個体発生 系統発生	学 修 教 育 目 標	知覚という高次の活動が出来上がっていく過程を、個体発生と系統発生の両面からを理解することができる。			
-----------------------	---------------------------------------	----------------------------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

授業科目の概要 本科目では知覚心理学Ⅰに続き、人の感覚・知覚等の機序及びその障がい（またその形成過程）について学ぶ。 学修上の助言 本科目は認定心理士資格関連科目である。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目との関連 知覚心理学Ⅰ・心理学概論B・認知心理学・生理心理学・心理学実験実習（実験） 履修に必要な予備知識や技能 心理学領域の科目履修が望ましい。						
--	--	--	--	--	--	--

教 科 書

参考書・リザーブブック

なし	書 名：心理学検定 基本キーワード 改訂版 著者名：日本心理学諸学会連合 心理学検定局 出版社：実務教育出版 書 名：ヒトから人へ ―知的機能の一つの系譜― 著者名：池田 進 出版社：関西大学出版部 書 名：手のなかの脳 著者名：鈴木 良次 出版社：東京大学出版会					
----	--	--	--	--	--	--

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	知覚心理学の知識を身につける。	◎
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。	○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。	○
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことならについて、十分に説明できる。	○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	○
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	40	10					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	40	2					92
	技能に関する評価				2					2
	応用力に関する評価				2					2
	チームワークに関する評価				2					2
	関心・意欲に関する評価				2					2
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
人の感覚・知覚等の機序及びその障がい（またその形成過程について）について理解し、説明できる。 認定心理士の資格を取得する。					人の感覚・知覚等の機序及びその障がい（またその形成過程について）について理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	・講義 ・面接授業	・今回の授業の復習	10
第2回 /	脳はどのように進化してきたのか 情報を処理する脳機能の進化について考察する。	・講義	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第3回 /	把握と到達 随意運動の一つとしての把握と到達動作について確認する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第4回 /	環境からの情報 感覚情報の意味について確認する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第5回 /	視覚的認知 視覚情報と知識との照合について検討する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第6回 /	視覚情報の変換 視覚情報の変換について検討する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第7回 /	把握にいたる過程 認知神経科学的視点から把握にいたる過程について検討する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第8回 /	到達にいたる過程 認知神経科学的視点から到達にいたる過程について検討する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第9回 /	把握や到達はどのようにして覚えるのか 把握や到達動作をどのように習熟していくのかについて考察する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第10回 /	歩行はどのようにして覚えるのか 歩行動作をどのように習熟していくのかについて考察する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第11回 /	身体はどのように進化してきたのか 身体と脳の進化について、二足歩行ができるまでを考察する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第12回 /	環境の認知 知覚は‘環境の認知’であるという定義について再確認する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第13回 /	環境と身体と脳との関係 環境と身体と脳との関係について考察する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第14回 /	進化する身体 未来の環境と身体と脳との関係について考察する。 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第15回 /	まとめ ・小テスト	・講義 ・小テスト	・今回の授業内容の復習 ・レポート課題作成	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	認知心理学 Cognitive Psychology	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	心理学の分野の中でも比較的新しい認知心理学は、他の心理学の領域のみならず、多くの学問領域に関係し、影響も与えている。本科目は記憶機能を中心に、人の認知、思考等の機序及びその障がいを理解する。					
	キーワード	記憶の機序 認知の機序 思考の機序 認知機能の障がい	学修教育目標	記憶機能の研究を中心に、認知機能についていかなる研究がなされてきたかを考察することから、認知心理学を理解することができる。		

授業科目の概要及び学修上の助言

授業科目の概要
本科目では人の認知、思考等の機序及びその障がいについて学ぶ。
学修上の助言
本科目は認定心理士資格関連科目である。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目との関連
知覚心理学Ⅰ・知覚心理学Ⅱ・心理学概論B・生理心理学・心理学実験実習（実験）
履修に必要な予備知識や技能
心理学領域の科目履修が望ましい。

教科書

参考書・リザーブブック

なし

書 名：心理学検定 基本キーワード 改訂版
著者名：日本心理学諸学会連合 心理学検定局
出版社：実務教育出版

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	認知心理学の知識を身につける。	◎
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。	○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。	○
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことについて、十分に説明できる。	○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	○
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるることができる。	○

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	40	10					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	40	2					92
	技能に関する評価				2					2
	応用力に関する評価				2					2
	チームワークに関する評価				2					2
	関心・意欲に関する評価				2					2
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
人の認知、思考等の機序及びその障がいについて理解し、説明できる。 認定心理士の資格を取得する。					人の認知、思考等の機序及びその障がいについて理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	・講義	・今回の授業の復習	10
第2回 /	自由再生の基本現象	・講義	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第3回 /	記憶の区分 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第4回 /	ワーキングメモリ（作動記憶）の構造 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第5回 /	2つのプライミング効果 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第6回 /	再生と再認の規定要因 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第7回 /	意味記憶のモデル ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第8回 /	記憶と感情 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第9回 /	記憶の発達 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第10回 /	パターン認識のメカニズム ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第11回 /	推論（推理）の区分 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第12回 /	批判的思考 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第13回 /	言語（文字・単語・文章）の理解 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第14回 /	感情の発達 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第15回 /	まとめ ・小テスト	・講義 ・小テスト	・今回の授業内容の復習 ・レポート課題作成	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	生理心理学 Physiological Psychology	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	生理心理学は行動の心理的機能と生理的機能の対応関係を研究する科学であるといわれる。本科目は生理指標を用いた感情、学習、記憶といった心理的機能の研究を中心に、生理心理学の研究アプローチを理解する。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	心理的機能と生理的機能の対応関係 生理指標 感情 学習 記憶	学修教育目標	心理的機能について、いかなる生理指標を用いた研究がなされてきたかを考察することから、生理心理学を理解することができる。			
-------	--	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

授業科目の概要 本科目では行動の心理的機能と生理的機能の対応関係について学ぶ。 学修上の助言 本科目は認定心理士資格関連科目である。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他の科目との関連 知覚心理学Ⅰ・知覚心理学Ⅱ・心理学概論B・認知心理学・心理学実験実習（実験） 履修に必要な予備知識や技能 心理学領域の科目履修が望ましい。

教科書	参考書・リザーブブック
なし	書 名：心理学検定 基本キーワード 改訂版 著者名：日本心理学諸学会連合 心理学検定局 出版社：実務教育出版

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	生理心理学の知識を身につける。	◎
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。	○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。	○
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことについて、十分に説明できる。	○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	○
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるることができる。	○

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	40	10					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	40	2					92
	技能に関する評価				2					2
	応用力に関する評価				2					2
	チームワークに関する評価				2					2
	関心・意欲に関する評価				2					2
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>行動の心理的機能と生理的機能の対応関係について理解し、説明できる。 認定心理士の資格を取得する。</p>					<p>行動の心理的機能と生理的機能の対応関係について理解できる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	・講義	・今回の授業の復習	10
第2回 /	自律神経機能① 交感神経系、副交感神経系	・講義	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第3回 /	自律神経機能② ポリグラフ ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第4回 /	動物の行動と心理学 動物実験の方法 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第5回 /	遺伝子と心理学 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第6回 /	感情の生理過程① 理論 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第7回 /	感情の生理過程② 機能 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第8回 /	感情の生理過程③ 神経機構 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第9回 /	睡眠と覚醒 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第10回 /	記憶の神経機構① 長期増強 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第11回 /	記憶の神経機構② 長期抑圧 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第12回 /	学習の機能と神経機構① 知覚学習 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第13回 /	学習の機能と神経機構② 刺激-反応学習 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第14回 /	学習の機能と神経機構③ 運動学習・関係学習 ・小テスト	・講義 ・小テスト	・次回の授業で実施される小テストのための今回の授業内容の復習	15
第15回 /	まとめ ・小テスト	・講義 ・小テスト	・今回の授業内容の復習 ・レポート課題作成	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	臨床心理学 I Clinical Psychology I	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	臨床心理学の基礎的な理解を進め、基本的な理論、立場にはどのようなものがあるか、さらに援助対象者とはどのような人々なのかなど、臨床心理学の全体にわたって広く学ぶ。この臨床心理学 I では、そのなかでも主として臨床心理学の基礎的な理論・概念・様々な援助技法について学び、また実習を加えて体験的に臨床心理学に触れることができるようにしたい。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	臨床心理学 基礎理論 援助技法	学修教育目標	臨床心理学の基礎的な理論・概念・様々な援助技法について学び、実習を通じて体験的に臨床心理学に触れ、理解することができる。			
-------	-----------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

臨床心理学についての一般的な概略について述べ、その後、心理アセスメント、さまざまな援助技法について概観する。関心を持った理論・技法について、ポイントを絞って詳しく調べ、レポートにして提出できるように、授業内外において主体的に学習を進めてほしい。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「臨床心理学Ⅱ」「教育心理学」「健康心理学」など、応用心理学の領域の理解につながります。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

使用しない（資料配布）	書 名：臨床心理学概論（公認心理士スタンダード） 著者名：下山晴彦、石丸径一郎 出版社：ミネルヴァ書房					
-------------	---	--	--	--	--	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。					
②	心理の分析方法を身につける。	さまざまな立場から、心理的な側面の理解ができる。				○
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	臨床心理学の基礎的な理論について理解できる。				○
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。					
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	日常生活の中で、課題解決に役立てることができるように、身近な問題と関連付けることができる。				◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）			
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業、課題などに主体的に取り組むことができる。			◎
	② 働きかけ力				
	③ 実行力				
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	③ 課題発見力	身近な問題と関連付けて、理解・発見ができる。			○
	④ 計画力				
	⑤ 創造力				
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考えや感想を文章や口頭で説明することができる。			○
	② 傾聴力				
	③ 柔軟性				
	④ 状況把握力				
	⑤ 規律性				
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに気付き、適切に対処する手がかりを得ることができる。			○
4. 倫理観	① 倫理性				

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10	20				20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	10	15					75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5				10	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
臨床心理学の基本的な技法について、位置づけを理解しつつ、概観することができる。最も関心を持った理論については、特に深く理解し、日常生活にも役立てることができる。					臨床心理学の基本的な技法について、概観することができ。関心を持った理論については、特徴を十分に理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	臨床心理学的援助のプロセス 基本的な臨床心理学的援助技法の適応のプロセス	講義	復習：授業内容に関する小レポート	10
	コメントシート、小テストなど			
第2回 /	臨床心理学的なかかわりの基礎 心理アセスメント①人格検査	講義・実習	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第3回 /	臨床心理学的なかかわりの基礎 心理アセスメント②知能検査・発達検査	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第4回 /	臨床心理学的なかかわりの基礎 ピアカウンセリング	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第5回 /	トピック1 異常心理学の歴史	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第6回 /	臨床心理学のパラダイム① 生物学的パラダイム 精神分析的パラダイム 精神分析理論の起源	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第7回 /	臨床心理学のパラダイム② 精神分析的パラダイム 精神分析理論の発展	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第8回 /	臨床心理学のパラダイム③ 学習理論パラダイム 行動理解の基礎	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第9回 /	臨床心理学のパラダイム④ 学習理論パラダイム 認知行動療法	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第10回 /	トピック2 SSTと集団精神療法	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第11回 /	臨床心理学のパラダイム⑤ 人間学パラダイム ロジャーズのクライエント中心療法	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第12回 /	臨床心理学のパラダイム⑥ 共感 クライエントの話に耳を傾ける	講義・実習	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第13回 /	トピック3 芸術療法 絵画療法 実習	講義・実習	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第14回 /	臨床心理学における倫理的問題	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テストなど			
第15回 /	まとめ 臨床心理学の基礎的な理論・概念・様々な援助技法	講義	復習：授業内容に関する小レポート	10
	コメントシート、小テストなど			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	臨床心理学Ⅱ Clinical Psychology Ⅱ	2単位	選 択	講 義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	臨床心理学の基礎的な理解を進め、基本的な理論、立場にはどのようなものがあるか、さらに援助対象者にはどのような人々なのかなど、臨床心理学の全体にわたって広く学ぶ。 この臨床心理学Ⅱでは、そのなかでも主として臨床心理学的援助を必要とするさまざまな問題について、援助の領域と、援助を必要とする人々の状態像、援助の実際について理解を深めることを目的としている。発表の機会を通して、積極的に興味や関心の幅を広げてもらいたい。
--------	--

キーワード	臨床心理学 援助対象者 精神障がい	学修教育目標	臨床心理学的援助を必要とするさまざまな問題について、援助の領域と、援助を必要とする人々の状態像、援助の実際について理解を深めることができる。
-------	-------------------------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

臨床心理の領域でかかわる対象者を理解するために、非行や精神疾患などのテーマごとに授業を進める。授業以外にも関心を持つテーマがあれば、主体的に学習し、発表してほしい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「健康心理学」の理解とつながりがあります。

教科書

参考書・リザーブブック

使用しない（資料配布）

書 名：臨床心理学スタンダードテキスト
著者名：岩壁茂、遠藤利彦、木俊秀、中嶋義文、中村知靖、橋本和明、増沢高、村瀬嘉代子 編
出版社：金剛出版

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	精神疾患や問題行動等の背景にある心理的な問題の理解について、臨床心理学的な知識を身につける。	◎
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類（4つの力）	能力要素（13の要素）	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）	① 主体性	授業準備、課題などに主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）	① 課題発見力	臨床心理学的な知識を、身近な事柄と関連付けて、捉えなおすことができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力	ストレス状況を理解して、柔軟に対処できる。	○
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎効果的に発揮できる力が身に付く ○通常の状況で発揮する力が身に付く △身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	15	15				20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	15	10					75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5				10	15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
臨床心理の領域でかかわる対象者について知り、DSM-Ⅲなども参照しながら、理解のための手がかりを得ることができる。授業以外にも関心を持つテーマがあれば、主体的に学習し、日常生活に敷衍して活用できる。					対象者について、臨床心理学的な視点から、理解の手がかりを得ることができ、日常生活にも生かすことができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表				
回数/日付	学修内容(上段)・授業内評価(下段)	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題(予習・復習)	時間(分)
第1回 /	臨床心理学的援助とは 臨床心理学的な技法を用いた援助とかかわりの基礎	講義	復習：授業内容に関する小レポート	10
	コメントシート、小テスト			
第2回 /	臨床心理学の実践領域 思春期・青年期の課題と適応	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第3回 /	臨床心理学の実践領域 社会的逸脱行動としての非行・犯罪	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第4回 /	臨床心理学の実践領域 不登校の理解と支援	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第5回 /	臨床心理学の実践領域 ライフサイクルの中の青年期と病理	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第6回 /	臨床心理学の実践領域 統合失調症の理解と支援	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第7回 /	臨床心理学の実践領域 現代的な問題としてのパーソナリティ障害	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第8回 /	臨床心理学の実践領域 発達障害の理解と支援	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第9回 /	臨床心理学の実践領域 人生半ばの危機とうつ病	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第10回 /	臨床心理学の実践領域 うつ病の理解と支援	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第11回 /	臨床心理学の実践領域 老年期の課題と認知症	講義	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第12回 /	グループ発表	発表	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第13回 /	グループ発表	発表	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第14回 /	グループ発表	発表	予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート	10 10
	コメントシート、小テスト			
第15回 /	様々な分野における心理臨床の実際 医療・教育・司法・産業等の分野における臨床	講義	復習：授業内容に関する小レポート	10
	コメントシート、小テスト			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題(予習・復習)に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	人格心理学 Personality Psychology	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>人格心理学は、ときにパーソナリティ研究とも呼ばれ、大別して3つの問題領域をもっている。その第1は、人格をどういうものとするかという、いわば理論（概念）問題である。第2は、性格形成に関して、素質か環境かという古くからの問題がさまざまな方法で研究されている。第3は、性格の診断や測定に関する問題（類型・特性）である。この講義では、これらの問題領域を紹介し概観することから、人格心理学を理解することを目的とする。</p>					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	パーソナリティ 気質 人格理論（概念） 性格形成 類型・特性	学修教育目標	個々の人の行動選択の傾向やパターン、その人「らしさ」の記述や構造を解明するための心理学的アプローチを理解する。			
-------	--	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

授業科目の概要 本科目では人格心理学の理論（概念）、性格形成、類型・特性について学ぶ。 学修上の助言 本科目は認定心理士の資格関連科目である。
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

基礎的な心理学系科目の履修が望ましい。

教科書	参考書・リザーブブック
書名：新訂 人格心理学 著者名：大山泰宏 出版社：放送大学教育復興会	書名：心理学検定 基本キーワード 著者名：日本心理学諸学会連合 心理検定局編 出版社：実務教育出版

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	研究と理論からの知識を身につける。	◎
②	心理の分析方法を身につける。	測定方法を身につける。	○
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	研究と理論からの知識を身につける。	△
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	実社会で応用できる課題解決の力を身につける。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	レポートのテーマを、情報伝達内容を意識して決定することができる。	○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。	○
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことについて、十分に説明できる。	○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	○
	⑤ 規律性	授業に遅れずに出席できる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	発表の時、緊張せず発表できる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59	30					11	100
評価 の 指標	知識に関する評価		49	20						69
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10	10						20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								11	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>人格心理学の理論（概念）、性格形成、類型・特性・尺度について理解でき、十分に説明ができる。認定心理士の資格を取得する。</p>					<p>人格心理学の理論（概念）、性格形成、類型・特性・尺度について理解できる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	人格心理学オリエンテーション ・概念や定義 概念と定義、自分について理解できる	講義 受講アンケート調査	資料・教科書の予習	10
第2回 ／	パーソナリティ理論①：類型論 類型論の種類と内容を理解できる	講義 受講アンケート調査FB コメントシート	資料・教科書の予習復習	10
第3回 ／	パーソナリティ理論②：特性論 特性論の種類と内容を理解できる	講義 コメントシート	資料・教科書の予習復習	10
第4回 ／	遺伝と環境 ・形成要因に関する諸説 遺伝と環境要因を理解できる	講義 コメントシート	資料・教科書の予習復習	10
第5回 ／	パーソナリティの発達形成 ・親子関係 親子関係を理解できる	講義 小テスト①（その場で採点）	資料・教科書の予習復習	10
第6回 ／	パーソナリティの発達形成 ・友人関係 友人関係を理解できる	講義 コメントシート	資料・教科書の予習復習	10
第7回 ／	アセスメント① ・質問紙法 特徴を理解できる	講義 コメントシート	資料・教科書の予習復習	10
第8回 ／	アセスメント② ・投影法 行動観察や言語報告で把握できにくい領域を理解できる	講義 コメントシート	資料・教科書の予習復習	10
第9回 ／	対人関係にあらわれるパーソナリティ ・エゴグラム TEGの使用を理解できる	講義 小テスト②（その場で採点）	資料・教科書の予習復習	10
第10回 ／	人格の異常と不適応 適応と不適応を理解できる	講義 コメントシート	資料・教科書の予習復習	10
第11回 ／	健康的な性格とは 健康な悩むことが少ない性格を理解できる	講義 コメントシート	資料・教科書の予習復習	10
第12回 ／	ライフサイクルとパーソナリティ 一貫性・偶発的な経験・年代らしさを理解できる	講義 小テスト③（その場で採点）	資料・教科書の予習復習	10
第13回 ／	自己を知る ・発達の軌跡と自己物語 アイデンティティを理解できる	講義 コメントシート	資料・教科書の予習復習	10
第14回 ／	文化とパーソナリティ 比較文化研究と養育方法を理解できる	講義 コメントシート	資料・教科書の予習復習	10
第15回 ／	パーソナリティ研究・測定方法のまとめ 試験に備える	講義 コメントシート	資料・教科書の復習	10

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	社会心理学 Social Psychology	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	我々は、社会の中で、他者の影響を受けて生きている。同時に我々は他者に影響を与えている。本授業では、社会の中に生きる人間の心理過程や態度・行動、人間関係の相互作用に焦点をあて、社会心理学の基本的な理論について理解する。	
	社会的自己 集団 援助行動 服従行動	学修教育目標 本授業においては、現代社会の対人関係に関する様々な問題を知ることができる。社会の中の様々な人間の行動を学ぶことにより、人々が社会で直面する様々な問題について考えることができる。社会心理学の主要な知見を、知識として習得するとともに、それを日常生活に応用し、日々の問題解決に社会心理学の知識を利用できるスキルを身につけることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

本授業では、日常生活で経験する「人と人」、「人と社会」の影響過程について学修する。社会心理学の主要な理論を学ぶとともに、それを日常生活に応用できるようにしてほしい。授業の概要については以下の通りである。

- ・社会心理学とは何か
- ・社会的自己について
- ・対人認知
- ・社会における人間の行動
- ・社会的認知

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

心理学概論、心理学研究法を履修していることが望ましい。

教 科 書

参考書・リザーブブック

なし	書 名：心理学検定基本キーワード 改訂版 著者名：日本心理学諸学会連合心理学検定局（編） 出版社：実務教育出版
----	---

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	人の態度及び行動について様々な理論を用いて説明することができる。	◎
②	心理の分析方法を身につける。	社会的態度の測定方法について説明することができる。	◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	対人関係、並びに集団における人間の心的過程を説明できる	
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	集団の中の人間の行動を知ること、他者に対してアドバイスすることができる	
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	他者のことを考えながら意見を述べ、自発的に課題に取り組むことができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	日常の対人関係やグループ活動におけるコミュニケーションに応用できる	

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考えたことについて、十分に説明できる。	◎
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べることができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55						45	100
評価 の 指標	知識に関する評価		55						25	80
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>社会心理学で学んだことについて十分に理解し、説明することができる。 人と人との関係、集団と個人との関係についての理論について十分に理解し、学んだ内容を日常生活に活かすことができる。</p>					<p>社会心理学で学んだことについて説明することができる。社会心理学で用いられている研究手法を理解することができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	ガイダンス ・授業の目的・計画・受講上の注意等の説明を行う TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：「社会心理学とは何か」について考える。心理学検定キーワード「社会心理学」を読み、キーワードを抽出する。自己紹介文を作成する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第2回 ／	社会的自己(1) ・自己についての考え方 ・自己意識 ・自己知覚 ・自己意識の質問に回答し、自己について考える。 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：自己呈示について予習しておく。 復習：配布プリントを復習する。	90
第3回 ／	社会的自己(2) ・自己スキーマ ・自己呈示 ・没個性化 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：心理学検定キーワード「対人的自己」を読み、キーワードを抽出する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第4回 ／	対人知覚(1) ・感情の知覚 ・印象形成 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：印象形成について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第5回 ／	対人知覚(2) ・対人記憶 ・対人認知における歪み ・暗黙の人格理論論 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：心理学検定キーワード 「対人認知」「ステレオタイプ」を読み、キーワードを抽出する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第6回 ／	態度と態度変容(1) ・態度とは ・説得的コミュニケーションによる態度変化 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：心理学検定キーワード 「偏見と差別」を読み、キーワードを抽出する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第7回 ／	態度と態度変容(2) ・態度変容の理論 ・説得のテクニック TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：心理学検定キーワード「社会的影響」を読み、キーワードを抽出する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第8回 ／	態度と態度変容(3) ・説得への抵抗・態度の測定方法 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：態度測定について調べる 復習：配布プリントを復習する。	90
第9回 ／	攻撃行動(1) ・攻撃行動とは ・攻撃行動についての理論 ・攻撃性を測定し、自己を振り返る。 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：攻撃行動について復習する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第10回 ／	攻撃行動(2) ・攻撃行動のコントロール ・運転における攻撃性 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：心理学検定キーワード 「攻撃」を読み、キーワードを抽出する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第11回 ／	援助行動 ・援助行動とは ・援助行動の背景要因 思いやり度を測定し、自己を振り返る。 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：援助行動について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第12回 ／	社会的影響と同調と逸脱(1) ・個人から個人への影響 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：服従行動について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第13回 ／	社会的影響と同調と逸脱(2) ・集団から個人への影響 ・個人から集団への影響 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：同調行動について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第14回 ／	社会的認知(1) ・帰属過程 ・帰属の情報処理モデル ・成功—失敗に対する帰属 TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：心理学検定キーワード「帰属過程」を読み、キーワードを抽出する。 復習：配布プリントを復習する。	90
第15回 ／	社会的認知(2) ・帰属と対人行動 ・推論のエラーとバイアス TGU e-Learning システムでの課題提出	講義	予習：これまでの学んだことを整理する。 復習：授業内容全体を復習する。	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	人間関係論 Human Relations	2単位	必修	講義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	本授業では、様々な視点から人間関係を概観し、人間関係の重要性について理解し、よりよい人間関係を築くための考え方や行動の仕方について理解する。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	親子関係 友人関係 援助行動 支配・服従 攻撃行動	学修教育目標	本授業においては、現代社会の様々な人間関係について学ぶことができる。社会心理学と発達心理学の主要な知見を修得するとともに、各自の人間関係についても考察できる能力を身につけ、より良い人間関係の築き方について意見を述べるができる。			
-------	---------------------------------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

本授業においては、親子関係、友人関係、恋愛関係など、様々な人間関係について学ぶ。これらの各項目についての基礎概念と理論について概説する。
授業においては、具体的な例を挙げながら講義する。
本授業で、各自が経験する人間関係について考察できる能力を身につけて欲しい。そのためには、学生一人一人が問題意識を持って授業に参加して欲しい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

社会心理学、心理学概論、心理学研究法の内容とも関連するので、これらの科目の内容と関連付けながら受講すると、理解がより一層深まる。

教科書

参考書・リザーブブック

授業内でレジュメを適宜配布する。

書名：心理学検定基本キーワード 改訂版
著者名：日本心理学諸学会連合心理学検定局（編）
出版社：実務教育出版

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	社会心理学と発達心理学の主要な知見を応用し、様々な人間関係について概説することができる。	◎
②	心理の分析方法を身につける。	論文の読む力を身につけ、その中で使用されている分析手法を理解している。	○
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	人と人との関わりについて意識することができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	日常の対人関係やグループ活動におけるコミュニケーションに応用できる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えることができる。	○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性	ほかの人の気持ちを理解することができる。	○
	④ 状況把握力	出された課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55						45	100
評価 の 指標	知識に関する評価		55						15	70
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワークに関する評価								10	10
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り上げた人間関係論の知識について十分に理解し、説明することができる。 ・本授業で取り上げた理論を用いて、自分自身の人間関係について分析することができる。 ・予習・復習を行い、疑問点を見つけ、自ら解決することができる。 					<ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り上げた人間関係論の知識を概ね理解している。 ・親子関係に関する心理学に関する理論を理解している。 ・授業を休まずに出席し、予習と復習を行っている。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 / コメントシート	ガイダンス ・授業の目的・計画・受講上の注意等の説明を行う コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	予習：様々な人間関係について考える。 復習：配布プリントを復習する。	90
第2回 / コメントシート	親子関係からみた人間関係(1) －乳幼児期までの親子関係－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	予習：親子関係について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第3回 / コメントシート	親子関係からみた人間関係(2) －乳幼児期までの親子関係－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	予習：愛着について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第4回 / コメントシート	親子関係からみた人間関係(3) －児童期、青年期の親子関係－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	予習：反抗期について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第5回 / コメントシート	友人関係からみた人間関係(1) －幼児期、児童期の仲間関係－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	予習：社会性の発達について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第6回 / コメントシート	友人関係からみた人間関係(2) －青年期の友人関係－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	予習：青年期の友人関係について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第7回 / コメントシート	友人関係からみた人間関係(3) －友人関係の論文を読む－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	予習：友人関係についての論文をまとめる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第8回 / コメントシート	親密な人間関係(1) －対人魅力について－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	予習：単純接触効果について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第9回 / コメントシート	親密な人間関係(2) －対人魅力の測定－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	予習：対人魅力を測定する尺度を調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第10回 / コメントシート	親密な人間関係(3) －恋愛のプロセスについて－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	予習：恋愛心理について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第11回 / コメントシート	コミュニケーション(1) －コミュニケーションについて考えよう－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	予習：コミュニケーションについて調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第12回 / コメントシート	コミュニケーション(2) －ノンバーバル・コミュニケーションとは－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	予習：対人距離について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第13回 / コメントシート	コミュニケーション(3) －対人コミュニケーションとは－ コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	予習：説得について調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第14回 / コメントシート	競争と協同 コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	予習：社会的ジレンマについて調べる。 復習：配布プリントを復習する。	90
第15回 / コメントシート	まとめ - 様々な人間関係の理解 - コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	予習：これまでの授業内容を復習しておく 復習：これまでの授業内容を復習する	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	ビジネス心理学 Business Psychology	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>人々は社会に出て、仕事に取り組む時、様々な問題に直面する。たとえば、仕事に対するやる気の無さ、職場での人間関係の悩み、職場でのうっかりミスなどである。本授業においては、「ワーク・モチベーション」「職場のコミュニケーション」「仕事の能率と安全」などの心理学の領域を勉強し、人々が仕事に取り組む際に直面する様々な問題とそれに対する必要な心理に関する支援について学ぶことを目的とする。</p> <p>組織とは、人間からなり人間のためにある。その中で人間同士の相互作用により生じてくる心理学的・行動学的特性について理解する。</p>					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	ワーク・モチベーション リーダーシップ ヒューマンエラー ストレス 消費者行動	学修教育目標	本授業においては、「ワーク・モチベーション」「職場のコミュニケーション」「仕事の能率と安全」などの心理学の領域を学ぶことにより、人々がビジネス場面で直面する様々な問題について知ることができる。			
-------	---	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

本授業では、人々が日常、ビジネス場面で直面する様々な問題について学修する。職場集団の特徴やビジネス場面で起こりうる事象についての理論を学ぶとともに、それを日常生活に応用できるようにしてほしい。毎回の授業の理解度を確認するためにコメントシートを配布し、授業に関するコメントを記述してもらおう。また、グループディスカッションを行い、事例発表、およびケーススタディを通じ、ビジネス心理学の理解を深めて欲しい。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

社会心理学、心理学概論、心理学研究法の内容とも関連するので、これらの科目の内容と関連付けながら受講すると理解がより一層深まる。						
---	--	--	--	--	--	--

教 科 書	参考書・リザーブブック
なし	書 名：心理学検定基本キーワード 改訂版 著者名：日本心理学諸学会連合心理学検定局（編） 出版社：実務教育出版

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	組織における人の行動について概説できる。	◎
②	心理の分析方法を身につける。	ストレスの測定方法について説明することができる。	◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	人と人との関わりについて意識することができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	日常の対人関係やビジネス場面で生じるヒューマンエラー対策に応用できる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の考えたことがらについて、十分に説明できる。	○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	相手の意思決定や権利を守ることの重要性を意識することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55						45	100
評価 の 指標	知識に関する評価		55						25	80
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワーク力に関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
ビジネス心理学の全体像を十分に理解し、ビジネス場面で心理学的な知識を適切に応用できる。					心理カウンセリング領域の一つの科目として、ビジネス心理学の概観を理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス 授業の目的・計画・受講上の注意等の説明を行う。	講義	予習：心理学検定基本キーワード「産業・組織心理学の概観」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	TGU e-Learning システムでの課題提出			
第2回 /	ワーク・モチベーション(1) ・ワーク・モチベーションに関する初期研究	講義	予習：心理学検定基本キーワード「職務態度とディセントワーク」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	TGU e-Learning システムでの課題提出			
第3回 /	ワーク・モチベーション(2) ・内容理論的アプローチと過程理論的アプローチ ・職務満足感	講義	予習：心理学検定基本キーワード「仕事への動機づけ」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	TGU e-Learning システムでの課題提出			
第4回 /	職場の情報処理とコミュニケーション(1) ・職場集団の特性 ・職場集団の発達論 ・職場の規範と社会化	講義	予習：これまでの学んだことを整理する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	TGU e-Learning システムでの課題提出			
第5回 /	職場の情報処理とコミュニケーション(2) ・職場のチームワーク ・職場のコミュニケーション会議による意思決定過程の特性 ・職場で起こる対人葛藤への対処	講義	予習：心理学検定基本キーワード「集団ダイナミズム」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	TGU e-Learning システムでの課題提出			
第6回 /	集団・組織におけるリーダーシップ ・地位と役割 ・リーダー行動の類型化	講義	予習：心理学検定基本キーワード「リーダーシップ」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	TGU e-Learning システムでの課題提出			
第7回 /	キャリアの展開と育成	講義	予習：心理学検定基本キーワード「多様な働く人々と雇用の多様化」、「キャリア発達と能力開発」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	TGU e-Learning システムでの課題提出			
第8回 /	仕事の能率と安全(1) ・ヒューマンエラーとは ・エラー誘発環境とは何か	講義	予習：これまでの学んだことを整理する。 復習：配布プリントを復習する。	270
	TGU e-Learning システムでの課題提出			
第9回 /	仕事の能率と安全(2) ・エラーに関係する人間的特性は何か ・不安全行動とは	講義	予習：心理学検定基本キーワード「安全人間工学」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	TGU e-Learning システムでの課題提出			
第10回 /	仕事の能率と安全(3) ・事故のヒューマンファクター ・ルール違反による事件・事故 ・事故防止対策	講義	予習：心理学検定基本キーワード「組織の安全文化とリスクマネジメント」「事故モデル」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	TGU e-Learning システムでの課題提出			
第11回 /	職場の快適性・疲労・ストレス ・ワークロード ・疲労とストレス	講義	予習：これまでの学んだことを整理する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	TGU e-Learning システムでの課題提出			
第12回 /	消費者行動(1) ・消費者行動とは ・マーケティングとは	講義	予習：心理学検定基本キーワード「消費者の心理メカニズム」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	TGU e-Learning システムでの課題提出			
第13回 /	消費者行動(2) ③消費者行動の理論枠組みと研究法	講義	予習：心理学検定基本キーワード「マーケティングと消費者行動」を読み、理解する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	TGU e-Learning システムでの課題提出			
第14回 /	消費者の価格判断と心的会計 ・消費者の価格判断 ・参照価格とプロスペクト理論 ・消費者の心的会計	講義	予習：これまでの学んだことを整理する。 復習：配布プリントを復習する。	90
	TGU e-Learning システムでの課題提出			
第15回 /	消費者の価格判断と意思決定過程	講義	予習：これまでの学んだことを整理する。 復習：授業内容全体を復習する。	90
	TGU e-Learning システムでの課題提出			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 心理学領域	性格心理学 Personality Psychology	2単位	選 択	講 義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	性格心理学の基本的理論を学びながら、様々な視点から性格というものについて学習し、自己分析をおこなうとともに、心理臨床的な問題を持つ、クライアントの性格について理解を深める。					
	キーワード	学修教育目標	性格心理学の基本的な理論を学びながら、様々な視点から性格というものについて学習し、心理臨床的な問題を持つ、クライアントの性格について理解を深める。			

授業科目の概要及び学修上の助言

心理カウンセリングの学習内容の中でも中心的な学習となるので、積極的授業参加が求められる。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

健康心理学、臨床心理学、人間関係論、カウンセリング実務論、人格心理学 発達心理学 など						
--	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

使用しない	書名：性格心理学 著者名：野口京子 出版社：明星大学出版部					
-------	-------------------------------------	--	--	--	--	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。	テキストの要点をまとめ説明する力を身に着ける。				◎
②	心理の分析方法を身につける。	各心理テストの分析法を理解し実習する。				◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	講義を傾聴し、理解したうえで自己の意見を持てるようにする。				○
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	心理・教育カウンセリングの観点から、実践的に理解すること。				○
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。					
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。					

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	予・復習を心がける				◎
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	授業の要点を把握する				◎
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性	幅広く知識・理解を広げる				◎
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	授業時に知り得た個人情報の秘密保持に努める。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		20	20			15	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10		10				5	25
	技能に関する評価		10		10	10				30
	応用力に関する評価		10						5	15
	チームワークに関する評価		5							5
	関心・意欲に関する評価		10			10			5	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
学習した専門用語やその意味について 90%以上理解する。 実技実践に全参加する。					学習した専門用語やその意味について 60%以上理解する。 実技実践に 60%以上参加する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	講義	性格心理学について持っている知識や経験から次時の自己の学習課題を整理する。	20
	性格心理学について			
第2回 /	性格の定義	講義	授業の感想を提出	20
第3回 /	類型論の歴史と分類	講義	同上	20
第4回 /	特性論	講義	同上	20
第5回 /	性格の発達1	講義	同上	20
第6回 /	性格の発達2	講義	同上	20
第7回 /	性格のかたより	講義	レポート作成	60
第8回 /	健康な性格のとらえ方1	講義	授業の感想を提出	20
	ユング マズロー			
第9回 /	健康な性格のとらえ方2	講義	同上	20
	パールズ 本明 寛			
第10回 /	「グロリアと3人のセラピスト」1	演習	同上	20
第11回 /	「グロリアと3人のセラピスト」2	演習	同上	20
第12回 /	問題行動と性格	講義	同上	20
第13回 /	性格・行動改善の理論1	講義	同上 自己課題を設けてレポートを作成	60
	カウンセリング			
第14回 /	性格・行動改善の理論2	講義	レポートの発表	20
	交流分析			
第15回 /	性格心理学のまとめ	講義	テストの予習	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ホスピタリティ領域	ホスピタリティ・マネジメント Hospitality Management	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	①社会で必要とされるホスピタリティ・マネジメントについて理解を深める。 ②おもてなしの心の表し方、接客マナーについて学び、実践できるようになる。 ③さまざまな業界におけるホスピタリティ・マネジメントの実例を学ぶ。 ④異文化社会の理解を深める。 ⑤思いやりがあり、誠実な人間性を育む。
--------	---

キーワード	ホスピタリティ おもてなし 接客マナー 感謝 顧客満足 従業員満足 コミュニケーション 観光 サービス業 組織経営 キャリア形成	学修教育目標	① ホスピタリティ・マネジメントの意義を理解し、仕事の現場で必要とされる人物像・スキルを理解し高める。 ② 実習を通じて、接客マナーの基本、仕事の現場で活かせるコミュニケーションスキルを身に着ける。 ③ さまざまな業界の実例を学び、仕事の興味の幅を広げる。 ④ 各国の文化の違いを理解しあう。 ⑤ 日常の場で、ホスピタリティマインドを持った行動をとる。
-------	--	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

「ホスピタリティ」の基本知識から仕事の現場での実例を学びます。幸せな社会を創るために、まずは、自分が幸せになり、まわりを幸せにしましょう！
 観光、サービス業、接客・営業職をはじめ、人と関わる仕事に活かすことができます。ぜひ、積極的に参加してください。楽しみながら、心とスキルを磨きあいましょう。
 合言葉は、「皆が皆の応援団！」です！

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

社会人基礎力 「キャリアデザイン」「ビジネスコミュニケーション」「プレゼンテーション実習」

教 科 書	参考書・リザーブブック
なし	サービス接客検定 3級公式テキスト・問題集

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	ホスピタリティマインドを持った傾聴力を身に付ける。	◎
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	ホスピタリティの本質を理解し、社会の一員として取るべき行動・言動を理解し、できることを行動化する。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	ホスピタリティの本質を理解し、問題解決ができる。相手の気持ちを考え、提案をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら目標を持ち主体的に授業に取り組むこと。	◎
	② 働きかけ力	グループワークにおいて、メンバーに積極的な意見交換や行動を促す働きかけをすること。	◎
	③ 実行力	ワーク等、積極的に取り組む。自ら発言する。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	ものごとの改善点を見出す。うまくいかないことに対して、解決策を見出す。	◎
	② 計画力	やるべきことを実現するための計画を考える。	◎
	③ 創造力	お客様に喜ばれるための創意工夫ができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	相手に良い印象を与える話し方を身に付ける。相手に正確に伝える。	◎
	② 傾聴力	相手を理解するスキルを身に付ける。事実を正確に聴く。相手の気持ちに共感し聴く。	◎
	③ 柔軟性	さまざまな人の考え方、価値観があることを尊重し、理解する。	◎
	④ 状況把握力	今、どんな言動、行動をすべきか考え、実行する。	◎
	⑤ 規律性	欠席、遅刻をしない。やるべきことを期限内になしとげる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ものごとを前向きにとらえることができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	思いやりの心を持つ。互いに協力しあう姿勢を持つ。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
 ※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41	10	15	10	10		14	100
評価 の 指標	知識に関する評価		5		5		5			15
	技能に関する評価		11	5	5		5			26
	応用力に関する評価		10	5		5				20
	チームワークに関する評価		5						9	14
	関心・意欲に関する評価		10		5	5			5	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>ホスピタリティの本質を理解し、問題意識、改善意識を持つ。 相手に喜ばれる創意工夫、計画立案ができ、自ら実践することができる。 目標に向かってチームを巻き込む行動ができる。 プロ意識を感じる接客マナーの対応ができる。</p>					<p>ホスピタリティの本質を理解し、基本的な対応ができる。 一緒に仕事をしたい、仕事を頼みたいと思われるようになる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ホスピタリティ・マネジメントとは 授業の目的、取り組み方 ホスピタリティ・マネジメントの基礎知識	講義	授業の復習	20
第2回 /	ホスピタリティマインドの必要性 日常の中でのホスピタリティマインド	講義・ワーク	授業の復習 日常の中にあるホスピタリティマインドの観察・実践	20
第3回 /	ホスピタリティ・マネジメントの事例研究① 一流ホテルから学ぶ	講義、レポート	授業の復習・実践	30
第4回 /	接客マナーの基本 おもてなしの心を伝える	講義、実習	授業の復習・実践	20
第5回 /	感謝の心 感謝の気持ちの伝え方 実習：一筆箋でお礼を伝える	講義、グループディスカッション	授業の復習・実践	30
第6回 /	お客様との話し方、聴き方 実習：正確に伝える・聴く	講義・実習	授業の復習・実践	20
第7回 /	異文化社会における相互理解	講義・グループワーク	授業の復習・実践	20
第8回 /	ホスピタリティ・マネジメントの事例研究② さまざまな業界の事例から学ぶ	講義、グループディスカッション	授業の復習・実践	30
第9回 /	接客マナー実践① 電話・来客対応・訪問対応のマナー 基本	講義、実習	授業の復習・実践	30
第10回 /	接客マナー実践② 電話・来客対応・訪問対応のマナー 応用 事例研究 クレーム対応	講義、実習	授業の復習・実践	30
第11回 /	創意工夫 お客様に喜ばれるためのアイデアを考える	講義、グループ実習	授業の復習・実践	30
第12回 /	お客様のことを考えたプラン作成 (PowerPoint)	実習	授業の復習・実践	30
第13回 /	成果発表 (プレゼンテーション)	実習	授業の復習・実践	30
第14回 /	ホスピタリティマインドを持った提案力	講義、ワーク	授業の復習・実践	30
第15回 /	まとめ 思いやりの心に満ちた社会へ	講義	授業の復習・実践	20

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ホスピタリティ領域	経営概論 Survey of Business Administration	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>経営学の主たる対象は「ビジネス」であり、それには様々な戦略や手法がある。 しかし、戦略とはもともと軍事用語であったことや、高校野球のマネージャーが経営学をチーム運営に活かしたという小説があるように、ビジネス領域に限った理論ではない。 本講義では、組織経営における行動やリーダーシップのありかた、や実践的なネットワークなど企業経営や実務に役立つ知識を学ぶとともに、自分なりの基礎的なビジネス観を構築することを目的とする。</p>					
キーワード	組織経営 ビジョンと戦略 地域マーケティング ネットワーク ナッジ	学修教育目標	組織、地域、ネットワーク、ナッジという4つの観点を通じて、具体的事例を交えながら経営学の理論について基礎知識を修得することを目標とする。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>経営概論ではビジネスを対象にして、組織、地域、ネットワークと順に視点を大きくしながら、企業経営がどのようになされているのかを学ぶ。さらに、人の行動や意思決定がどのようになされているのかについて、ナッジの視点からも学習する。 これらのことを踏まえ、家族や自分が仕事・アルバイト等を通じて関わりのある企業について、その企業が何を目標にどのような取り組みを行っているのかについて考えることが、学修テーマの理解を深める。また、自分が所属しているクラブやグループについて、本テーマについて考えてみることも推奨する。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
「マーケティング論」とあわせて受講すると、経営学の全体像を学べる。 履修に必要な予備知識や技能はない。						
教 科 書				参考書・リザーブドブック		
なし				なし		
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1)				
①	心理の専門知識を身につける。					
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	実社会において経営学の考え方を準用し、理論的な考え方ができるようになること。				◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	実社会において経営学の考え方を準用し、理論的な考え方ができるようになること。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標(※2)				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。				○
	② 働きかけ力	他者に意見を求めることができる				○
	③ 実行力	授業内あるいはグループ内での積極的に発言できる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまででない新しい解決策を見つけ出すことができる。				○
	② 計画力	時間内に成果を出せる。				△
	③ 創造力	成果のまとめ方にオリジナリティがある。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことがらについて、十分に説明できる。				○
	② 傾聴力	他のメンバーの意見から学べる。				△
	③ 柔軟性	他者の意見を受け入れる。				○
	④ 状況把握力	異なる複数の意見を抽象度の違いにより階層分けして考える。				△
	⑤ 規律性	メンバー内で自分の役割を果たせる。				△
	⑥ ストレスコントロール力	グループワークにおけるコンフリクトに適切に対応できる。				△
4. 倫理観	① 倫理性	持続可能な経営には倫理観が必須であると気づくことができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30	20				100
評価 の 指標	知識に関する評価		40		20					60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10		10					20
	チームワークに関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価					10				10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
授業内で扱った経営学の理論についての基礎知識を十分理解している。 ビジネスは「 」のため。自分にとっての経営学とは「 」である。 「 」にどのような言葉を入れるか、自分なりの考えが明確になっている。					授業内で扱った経営学の理論についての基礎知識を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス、本講義の進め方や受講上の注意事項 経営概論を学ぶ意義、経営学の全体像、経営学とその位置づけ	講義	授業内で指示する	
	レポート、グループワーク、成果発表については授業内で指示する			
第2回 /	組織と経営（1） ビジョンと戦略	講義	授業内で指示する	
第3回 /	組織と経営（2） 外部環境と内部資源（顧客、提供価値、競合、経営資源）	講義	授業内で指示する	
第4回 /	組織と経営（3） 戦略とリーダーシップ	講義	授業内で指示する	
第5回 /	地域と経営（1） マーケティングと流通	講義	授業内で指示する	
第6回 /	地域と経営（2） 資金とコスト	講義	授業内で指示する	
第7回 /	地域と経営（3） 事例研究	講義	授業内で指示する	
第8回 /	ネットワークと経営（1） 企業間ネットワーク	講義	授業内で指示する	
第9回 /	ネットワークと経営（2） プラットフォーム	講義	授業内で指示する	
第10回 /	ネットワークと経営（3） SNS・YouTubeによる情報価値	講義	授業内で指示する	
第11回 /	ネットワークと経営（4） AIの活用と分析	講義	授業内で指示する	
第12回 /	ナッジと経営（1） ヒューリスティック1（代表性・利用可能性）	講義	授業内で指示する	
第13回 /	ナッジと経営（2） ヒューリスティック2（アンカリング・プロスペクト理論）	講義	授業内で指示する	
第14回 /	ナッジと経営（3） 他者性と時間選好	講義	授業内で指示する	
第15回 /	経営概論総括	講義	授業内で指示する	

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ホスピタリティ領域	マーケティング論 Marketing	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>マーケティングは、企業が、利益の獲得のため、自社の製品やサービスを効率よく販売するための手段であったが、近年消費者志向の高まりを見せている。今日では、スポーツや介護サービス、カウンセリングといった非営利企業、さらには国や地方公共団体などのあらゆる社会活動においてマーケティング的発想が必要とされている。</p> <p>本講義では、デジタル社会において重要性が高まりつつあるマーケティング論における基礎的な知識を修得することを目的とするなかで、マーケティングにおける消費者志向を通して、地域の社会活動を担う様々な企業・団体のマーケティング活動への理解を深めることを目標とする。</p>
--------	--

キーワード	<p>市場環境分析 STP マーケティング・ミックス 情報活用 デジタルマーケティング</p>	学修教育目標	<p>企業経営に必要なマーケティングの概念や理論および手法（フレームワーク）、消費者の購買プロセスにおける情報活用などを学習し、具体的事例を交えながら、消費者心理を踏まえたマーケティングについての基礎知識を修得することを目的とする。</p>
-------	---	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>マーケティングとは何か、マーケティングはどのように実施するのか、マーケティング・ミックスとは何か、インターネット時代の新しいマーケティング手法にはどのようなものがあるのかなど、マーケティングの全体像について学ぶ。日常生活において、テレビや雑誌、インターネットなどを通じて、企業の発する大量の広告に接しているの、それらが誰を対象にどのような成果を目指して実施されているのか、どのような影響を与えているのかを、購買する消費者の心理を意識することにより、授業内容についての理解が深まる。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「経営概論」とあわせて受講すると、経営学の全体像を学ぶことができる。
履修に必要な予備知識や技能はない。

教科書

参考書・リザーブブック

なし	<p>地域密着型飲食店のマネジメントスタイル ～消費者視点のマーケティングと事業計画（Parade books） 島浩二</p>
----	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	マーケティングにおける心理学の導入に触れる。	○
②	心理の分析方法を身につける。	マーケティングにおける消費者心理の分析に触れる。	○
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	マーケティングにおける情報活用を通じ、SNSとの適切な距離感について考える。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	マーケティング戦略を通じ、日常生活においてPDCAサイクルを意識した行動をとる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	○
	② 働きかけ力	他者に意見を求めることができる。	○
	③ 実行力	授業内あるいはグループ内で積極的に発言できる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまででない新しい解決策を見つけ出すことができる。	○
	② 計画力	時間内に成果を出せる。	○
	③ 創造力	成果のまとめ方にオリジナリティがある。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことがらについて、十分に説明できる。	○
	② 傾聴力	他のメンバーの意見から学べる。	○
	③ 柔軟性	他者の意見を取り入れる。	○
	④ 状況把握力	異なる複数の意見を抽象度の違いにより階層分けして考える。	○
	⑤ 規律性	メンバー内で自分の役割を果たせる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	グループワークにおけるコンフリクトに適切に対応できる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	守るべき規範や秩序に基づいた行動を意識する。	○

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	15	20	15				100
評価 の 指標	知識に関する評価		40	10	15					65
	技能に関する評価					5				5
	応用力に関する評価		10		5					15
	チームワークに関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価			5						5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
授業内で扱ったマーケティングの基礎知識を活用し、組織人として効果的なマーケティング戦略を構想できる。					授業内で扱ったマーケティングの基礎知識を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス、本講義の進め方や受講上の注意事項 マーケティングを学ぶ意義、マーケティングの全体像、その位置づけ	講義、演習	授業内で指示する	
	レポート、グループワーク、成果発表については授業内で指示する			
第2回 /	マーケティングの基礎知識（1） 定義、コンセプト、プロセス	講義、演習	授業内で指示する	
第3回 /	マーケティングの基礎知識（2） 市場環境分析①～環境を知る（PEST、3C、分析）	講義、演習	授業内で指示する	
第4回 /	マーケティングの基礎知識（3） 市場環境分析②～周りを知る（5Forces、VRIO分析）	講義、演習	授業内で指示する	
第5回 /	マーケティングの基礎知識（4） 市場環境分析③～自分を知る（Value Chain分析）	講義、演習	授業内で指示する	
第6回 /	マーケティングの基礎知識（5） 市場環境分析④～自分を知る（SWOT分析）	講義、演習	授業内で指示する	
第7回 /	マーケティングの基礎知識（6） 戦略策定①～立ち位置の明確化（クロスSWOT・STP分析）	講義、演習	授業内で指示する	
第8回 /	マーケティングの基礎知識（7） 戦略策定②～具体的施策 マーケティング・ミックス1（4P）	講義、演習	授業内で指示する	
第9回 /	マーケティングの基礎知識（8） 戦略策定③～具体的施策 マーケティング・ミックス2（4C）	講義、演習	授業内で指示する	
第10回 /	マーケティングの基礎知識（9） 戦略策定④～具体的施策 サービス・マーケティング	講義、演習	授業内で指示する	
第11回 /	マーケティングの基礎知識（10） 実践～目標設定（KGI KSF KPI）	講義、演習	授業内で指示する	
第12回 /	マーケティングの基礎知識（11） 実践～目標設定・管理（マイルストーン・管理）	講義、演習	授業内で指示する	
第13回 /	マーケティングの基礎知識（12） 実践～評価・改善（BSCによる分析）	講義、演習	授業内で指示する	
第14回 /	マーケティングと情報活用 デジタル時代における購買意思決定プロセス	講義、演習	授業内で指示する	
第15回 /	マーケティング論・総括	講義、演習	授業内で指示する	

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ホスピタリティ領域	企業と社会 Modern Business Enterprise	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>現代社会においてもっとも重要な組織である企業とは何なのだろうか。企業はさまざまな構造や機能のもとで多くの役割を果たしている。現代企業では、人々のニーズを的確につかみ、これに応える商品をどのように開発し、製造・販売するかが重要であり、そのような知識や取り組みを十分理解しておく必要がある。企業経営の新しいスタイルを市場・社会との関係から考え、企業に求められる役割は何か、どのような取り組みが行われているのかを学ぶ。</p>					
キーワード	コーポレートガバナンス 経営戦略 ステークホルダー マーケティング コンプライアンス SDGs	学修教育目標	<p>本講義では、企業がどのように発展してきたか、また企業をとりまく社会や環境がどのように変化しているか、そして企業の組織、マネジメント、リーダーシップなどを学び、企業と社会の関係を理解するための基礎知識を身につけることを目標とする。</p>			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>「企業」と「社会」がどのように発展してきたか、また「企業」をとりまく社会や環境がどのように変化してきたか考える。後半では、「企業」の経営戦略、マネジメント、企業の社会的責任などについて考える。授業では、金融の一般常識等の話題も織り込んで「企業」と「社会」について知識を深めていく。授業や授業以外での積極的な質問を歓迎する。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>2年次以降の「マーケティング論」・「経営概論」などの理解につながります。 高等学校で学んだ「現代社会」や「政治経済」などの内容を確認しておくこと。</p>						
教 科 書				参考書・リザーブブック		
なし				企業論 第4版（有斐閣アルマ Specialized） 経営学入門（中央経済社）		
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。					
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	企業の社会的責任等を学ぶことから、社会人としての必要な基礎的能力について理解できる。				○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	企業と社会とは、どのような関係をもっているか理解出来る。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。				○
	② 働きかけ力					
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。				○
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自らの見解/意見を積極的に発言、説明することができる。				○
	② 傾聴力	他者の見解/意見に積極的に耳を傾け、理解することができる。				○
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	コーポレートガバナンス、コンプライアンス等について理解することができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	15	20	15				100
評価 の 指標	知識に関する評価		40	15						55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10		10					20
	チームワークに関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価				10	10				20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
企業と社会の発展と、その関係の変化を十分理解している。 企業の戦略・生産形態・組織構造を十分理解している。 企業の役割（ガバナンス、コンプライアンス等）について十分理解している					企業と社会の発展と、その関係の変化を理解している。 企業の戦略・生産形態・組織構造を理解している。 企業の役割を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	講義・質疑応答	予習：30分、復習30分	60
第2回 /	企業とは（1） 企業の役割、企業のかたち、ゴーイング・コンサーン	講義・質疑応答	予習：30分、復習30分	60
第3回 /	企業とは（2） ベンチャー企業、イノベーション、アントレプレナーシップ	講義・質疑応答	予習：30分、復習30分	60
第4回 /	企業統治 経営と所有、コーポレートガバナンス、コンプライアンス	講義・質疑応答	予習：30分、復習30分	60
第5回 /	日本型企业システム 日本的雇用慣行、日本型の企業統治	講義・質疑応答	予習：30分、復習30分	60
第6回 /	経営戦略論 戦略とは、SWOT分析、ドメイン レポート	講義・質疑応答	予習：30分、復習30分	60
第7回 /	成長戦略 多角化戦略、アンゾフの成長ベクトル、M&A	講義・質疑応答	予習：30分、復習30分	60
第8回 /	経営資源の配分 PPM、選択と集中	講義・質疑応答	予習：30分、復習30分	60
第9回 /	事業戦略 ファイブフォース、バリューチェーン 小テスト（振り返り）	講義・質疑応答	予習：30分、復習30分	60
第10回 /	マーケティング戦略 マーケティングとは、STPモデル、マーケティング・ミックス	講義・質疑応答	予習：30分、復習30分	60
第11回 /	財務戦略 会計、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書	講義・質疑応答	予習：30分、復習30分	60
第12回 /	人と組織のマネジメント OJT、ダイバーシティ、ワーク・ライフ・バランス、36協定	講義・質疑応答	予習：30分、復習30分	60
第13回 /	リーダーシップ モチベーション、欲求段階理論、X理論とY理論	講義・質疑応答	予習：30分、復習30分	60
第14回 /	現代経営の課題 地球環境、CSR、ESG、SDGs、CF グループ演習/発表	講義・質疑応答	予習：30分、復習30分	60
第15回 /	まとめ	講義・質疑応答	予習：30分、復習30分	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ホスピタリティ領域	地域研究 Area Studies for Tourism	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>成熟した日本社会において、地域における位置づけや取り組みは様々になってきています。その中の一つである社寺等を中心とした地域のまちづくりについて取り上げます。地域の暮らしへの共感や地域コミュニティを通じたまちづくりを尊重する着地型観光について学修していきます。</p>					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	まち遺産 着地型観光	学修教育目標	<p>歴史的建造物や郷土文化など、時間の蓄積に価値があるとみなし、文化が集積する「まち」。市民が愛着を深め、手を入れて資産を保存・継承し、文化的経年価値を持続する「まち」。その様な「まちの遺産」を考えます。 学生は、地域における「まち遺産」とはどのようなものかを学び、説明することができることを目標とします。</p>			
-------	---------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>地域における「まち遺産」について学修します。 「まち遺産」を探しに土曜日または日曜日に自身の地元のフィールドワークを実施します。「まち」を資源というまなざしで見ること、 「まち遺産」と認識することで、違った風景に見えてきます。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>「観光概論」、「観光マネジメント論」、「地域研究フィールドワーク」、「産業・観光特論」、「歴史地理学概論」、の理解につながります。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

教科書

参考書・リザーブブック

なし				なし		
----	--	--	--	----	--	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。					
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。					
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	地域における「まち遺産」について認識する力を身につける。				◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題に自発的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力	授業中にすすんで質問することができる。				○
	③ 実行力	課題を完成させることができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分なりのまち遺産を見つけることができる。				○
	② 計画力	課題ができるように計画的に準備ができる。				○
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことがらについて、十分に説明ができる。				○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。				○
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。				○
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性	発表時間に留意することができる。				○
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30	20				100
評価 の 指標	知識に関する評価		20		10	10				40
	技能に関する評価				10					10
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		30		10	10				50
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に「まち遺産」について理解し、説明することができる。					「まち遺産」について理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション －講義の概要、「まち遺産」について－	講義	復習：授業内容のまとめ	30
第2回 /	自分のまち調査・研究（1） －地理・大きさ・人口・観光・名産などの調査－ レポート	講義、演習	予習：テーマに関する事前学習（情報収集等） 復習：レポートのまとめ	30 30
第3回 /	自分のまち調査・研究（2） －「まち遺産」紹介レポート－ レポート	講義、演習	予習：テーマに関する事前学習（情報収集等） 復習：レポートのまとめ	30 30
第4回 /	フィールドワーク事前学習（1）、調査地研究 ワークシート	講義、演習	予習：テーマに関する事前学習（情報収集等） 復習：ワークシートのまとめ	30 30
第5回 /	フィールドワーク事前学習（2）、まち歩き資源シート作成 ワークシート	講義、演習	予習：テーマに関する事前学習（情報収集等） 復習：ワークシートのまとめ	30 30
第6回 /	フィールドワーク（1）	学外調査	予習：調査地域の情報収集 60 復習：現地調査のまとめ 60	
第7回 /				
第8回 /	プレゼンテーション（1） －プレゼンテーションの手法について－ ワークシート	講義、演習	予習：テーマに関する事前学習（情報収集等） 復習：ワークシートのまとめ	30 30
第9回 /	プレゼンテーション（2） －着地型観光の提案の発表－ プレゼンテーション	演習（プレゼンテーション）	予習：プレゼンテーションの準備 復習：発表内容のまとめ	30 30
第10回 /	フィードバック（振り返りレポート作成） －着地型観光の可能性を探る－ レポート	講義、演習	予習：現地調査のまとめ 復習：レポートのまとめ	30 30
第11回 /	行程の再設定 －着地型観光の可能性を探る－ 企画書	講義、演習	予習：現地調査のまとめ 復習：企画書のまとめ	30 30
第12回 /	フィールドワーク（2）	学外調査	予習：調査地域の情報収集 60 復習：現地調査のまとめ 60	
第13回 /				
第14回 /	フィードバック（振り返りレポートの作成） －着地型観光の企画提案－ プレゼンテーション	講義、演習	予習：現地調査のまとめ 復習：プレゼンテーション準備	30 30
第15回 /	プレゼンテーション（3） －「まち遺産」を活用した着地型観光の発表－ プレゼンテーション	演習（プレゼンテーション）	復習：授業内容のまとめ	30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ホスピタリティ領域	地域研究フィールドワーク Area Studies with a Fieldwork for Tourism	2単位	選 択	実 習	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>観光は地域経済にとって重要な産業のひとつになりつつある。そのため、観光産業は旅行会社などの民間企業だけでなく、国や地方行政にとっても人材育成をしていくことが求められています。近畿圏の観光地や文化を調べるとともに、実際に観光地を訪れ、フィールド調査をすることで各地域の文化を体得していくことを目的とします。</p>
--------	---

キーワード	<p>地域資源 観光プランニング まちづくり</p>	学修教育目標	<p>学生は、観光地域の特徴を知るとともに、観光地形成のありかたの基礎となる「地域資源」の発掘をしていく過程を学びます。その中で、学生は観光プランニングや地域のまちづくりに貢献できる企画を作成していくことで、「地域資源」についての知識・理解をより深く身につけることができることを目標とします。</p>
-------	------------------------------------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

観光資源ともなる「地域資源」について学修します。
フィールドワークを通じて、実際に観光地を訪れ、「地域資源」について学びます。尚、フィールドワークは土曜日または日曜日に実施します。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「観光概論」、「観光マネジメント論」、「地域研究」、「産業・観光特論」、「歴史地理学概論」、の理解につながります。

教科書

参考書・リザーブブック

なし

なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	観光資源となり得る「地域資源」を認識し、まちづくりに貢献できる知識と技能を身につける。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	授業中にすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	課題を完成させることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	独自の観光プランニングをつくることできる。	○
	② 計画力	課題発表ができるように計画的に準備ができる。	○
	③ 創造力	発表をする、発表を聞くことで、新しいアイデアを思いつく。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことがらについて、十分に説明できる。	◎
	② 傾聴力	他の人の発表を聞き、そのことについてコメントができる。	○
	③ 柔軟性	発表者が前向きに、かつ理解しやすいようにコメントすることができる。	○
	④ 状況把握力	フィールドワークにおいて、参加者に迷惑がかからないよう行動できる。	○
	⑤ 規律性	発表時間に留意することができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	発表に対する批判的なコメントについて真摯に受け止め、自身の改善すべき点として認識できる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合					40	40	20			100
評価 の 指標	知識に関する評価				10	10				20
	技能に関する評価				30	10	10			50
	応用力に関する評価					20	10			30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に「地域資源」についての知識を修得し、観光プランニングができ、その観光プランニングが多くの学生の支持をえることができる。					「地域資源」についての知識を修得し、観光プランニングができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 講義の概要、地域研究について	講義、演習	復習：授業内容のまとめ	30
第2回 /	旅行パンフレットの見方 レポート	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
第3回 /	旅行雑誌の見方 レポート	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
第4回 /	フィールドワーク (1)	学外調査	復習：現地調査のまとめ 60 予習：調査地域の情報収集 60	
第5回 /	旅行ツアーを企画する －旅行ツアー企画の構成について－ レポート	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
第6回 /	プレゼンテーション (1) －旅行ツアー企画を魅力的にみせるには－ レポート	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
第7回 /	プレゼンテーション (2) －旅行ツアー企画の発表－ 成果発表	演習（発表）	授業内容の復習と課題	60
第8回 /	フィールドワーク (2)	学外調査	復習：現地調査のまとめ 60 予習：調査地域の情報収集 60	
第9回 /	フィードバック（旅行ツアー企画の振り返り） －フィールドワークを実施して－ レポート	講義、演習	授業内容の復習と課題	30
第10回 /	プレゼンテーション (3) －旅行ツアー企画の再提案－ 成果発表	演習（プレゼンテーション）	授業内容の復習と課題	30
第11回 /	フィールドワーク (3) (1日旅行ツアー体験)	学外調査	復習：現地調査のまとめ 60 予習：調査地域の情報収集 60	
第12回 /				
第13回 /				
第14回 /	フィードバック（旅行ツアー企画を広報する） －フィールドワークを実施して－ レポート	講義、演習	授業内容の復習と課題	60
第15回 /	宣伝用ポスターの制作と発表 成果発表、作品	演習（プレゼンテーション）	授業内容の復習と課題	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ホスピタリティ領域	観光概論 Introduction to Tourism	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>日本は、観光立国の実現に向け平成 20（2008）年に国土交通省の外局に観光庁を設置しました。観光は、飲食や購買、宿泊などの様々な経済活動を伴い、幅広い産業の分野に影響をあたえます。この講義では、初めて観光学にふれる学生を対象に観光学の基礎を学びます。観光の社会的役割、観光と社会との関わりについて理解することを目的とする。</p>	
	キーワード	学修教育目標

観光立国
日本遺産
世界遺産

学修教育目標

学生は、日本の観光地や世界遺産、日本遺産など、有名な観光地についての知識を習得するとともに、観光が社会に及ぼす影響などを学び、そして理解することを目標とする。

授業科目の概要及び学修上の助言

観光に関する基本的な言葉や専門用語を学びます。毎回の授業では、グループワーク、グループ内でのプレゼンテーションをしてもらい、観光に関する興味関心を持ってもらうようにしていきます。世界遺産や日本遺産などを中心とした有名な観光地は覚えてくれることを望みます。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「観光マネジメント論」、「地域研究」、「地域研究フィールドワーク」、「産業・観光特論」、「歴史地理学概論」、の理解につながります。

教 科 書

参考書・リザーブブック

なし

なし

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	観光に関する項目について基礎的な知識を身につける。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	◎
	③ 実行力	課題を完成させることができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	課題発表ができるように計画的に準備ができる。	◎
	③ 創造力	今回の発表で、よい発表の仕方を思い出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べた課題について、十分に説明ができる。	◎
	② 傾聴力	グループでの発表について、十分な意見が言えるように傾聴することができる。	○
	③ 柔軟性	自分の価値観とは違う意見を受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	発表時間に留意することができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50						50	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30							30
	技能に関する評価								10	10
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20						40	60
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に観光地に関する基礎知識を持つことができ、有名な観光地を知り、説明することができる。					観光地に関する基礎知識をもつことができ、有名な観光地を知った。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション（授業の進め方） 観光立国について	講義	予習：行ってみたい国を調べる。	60
	コメントシート			
第2回 /	日本の観光について 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク	予習：世界の世界遺産の中から行ってみたい場所を調べる。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第3回 /	観光の概念 - 「観光」とは - 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク	予習：日本の世界遺産の中から行ってみたい場所を調べる。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第4回 /	観光の構成要素 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク	予習：北海道地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第5回 /	グループワーク手法について（振り返り） 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク	予習：東北地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第6回 /	観光の特色 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク	予習：東北地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第7回 /	観光の世界史 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク	予習：中部地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第8回 /	観光の日本史 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク	予習：中部地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第9回 /	観光の諸制度 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク	予習：関東地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第10回 /	観光の影響と効果 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク	予習：近畿地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第11回 /	観光と情報 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク	予習：中国地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第12回 /	観光と地域社会①（地域社会をとりまく状況） 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク	予習：四国地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第13回 /	観光地域社会②（地域主導型観光） 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク	予習：九州地方における自分の好きな観光地を探し、授業内において、その観光地の発表をするための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第14回 /	観光行動を成立させるもの 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク	予習：今までに調べた観光地について、最も気に入っている観光地について、より詳しく調べ、授業内で発表するための準備をする。	60
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			
第15回 /	第2回から第14回までの振り返り 観光地についての発表	プレゼンテーション 講義 グループワーク	学期末試験に向けて	180
	予習内容についての発表及び学修内容についてのコメント			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ホスピタリティ領域	観光マネジメント論 Tourism Management Theory	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	観光は旅行業、宿泊業、輸送業、飲食業などを含む裾野の広い産業であり、その経済効果は極めて大きい。観光振興のためには、観光に関わる企業や地方自治体がそれぞれの活動を効率的・効果的にマネジメントすることが必要になる。	
	キーワード まちづくり、地域開発、 人材開発、マーケティング、 マネジメント	学修教育目標 学生は、観光まちづくり、観光人材開発、観光マーケティング、といった視点から、観光マネジメントについて学び、そして理解することを目標とする。

授業科目の概要及び学修上の助言

観光マネジメントに関する基本的な考え方を学びます。毎回の授業ではコメントシートを活用して、学修の定着を進めていきます。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「観光概論」、「地域研究」、「地域研究フィールドワーク」、「産業・観光特論」、「歴史地理学概論」、の理解につながります。

教科書

参考書・リザーブブック

なし	なし
----	----

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	観光力が地域活性に役立つ重要性を理解できる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	地方再生の基礎知識が身につく。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	授業中にすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。	◎
	② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。	○
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の場合で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50						50	100
評価 の 指標	知識に関する評価		30						10	40
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								20	20
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		20						20	40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
従来の観光地や地域創造のためのマネジメントについて理解できる。					地域の再活性化について事例をもとに説明ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション	講義、ワーク	授業内容と復習	30
	学修内容についてのコメント			
第2回 /	オールドツーリズム 都市観光の魅力要素とまちづくり	講義、ワーク	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第3回 /	ニューツーリズム (1) 「地」と観光としてエコミュージアム	講義、ワーク	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第4回 /	ニューツーリズム (2) 宝探しとエコツーリズム	講義、ワーク	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第5回 /	ニューツーリズム (3) 見えない宝を探し、創り出すコンテンツツーリズム	講義、ワーク	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第6回 /	観光地マーケティング (1) 観光地マーケティングの枠組み	講義、ワーク	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第7回 /	観光地マーケティング (2) 情報の収集と分析手法	講義、ワーク	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第8回 /	観光地のブランディング (1) 観光地とメディア環境	講義、ワーク	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第9回 /	観光地のブランディング (2) 地域ブランド	講義、ワーク	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第10回 /	地域からの観光プロモーション プロモーションの方法	講義、ワーク	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第11回 /	観光地の MICE 戦略 地域の企業、大学、NPO などによる MICE	講義、ワーク	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第12回 /	観光地のホスピタリティ 観光地全体で考えるホスピタリティ、ホスピタリティ向上	講義、ワーク	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第13回 /	サステイナブルな観光 (1) 実践例	講義、ワーク	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第14回 /	サステイナブルな観光 (2) 実践例	講義、ワーク	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			
第15回 /	第2回から第14回までの振り返り	講義、ワーク	授業内容と復習	60
	学修内容についてのコメント			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ウェルネス領域	ライフスタイル論 Lifestyle Theory	1単位	選 択	講 義	2年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>ライフ・スタイルとは、平均寿命が男女ともに80歳を超えている現在、人間が生きていく上で持つといわれる、個人的見解や価値観、行動特性などを指すアドラー心理学の用語です。生活の仕方を意味するライフ・スタイルではなく、どちらかといえば性格や性質に近い意味で使われます。また、アルフレッド・アドラーは、人間は幼少期にライフ・スタイルの「原型」を身に付け、大人になるにしたがってライフ・スタイルを「成熟」させるのだと説きます。ライフ・スタイルは、「自分がどんな人間であるか抱くセルフイメージ（自己概念）」「他者を含む世界の現状への認知（世界像）」「自己概念と世界像に対する理想のイメージ理想（自己理想）」を包括したものとされ、環境や遺伝、家族構成などによってつくられているということを中心に学びます。さらにライフタスク（人生の課題）として「ビジネスへの課題」「交友関係（共生）の課題」「愛の課題」についても学びます。さらに付け加えると、ライフスタイルは自己や世界への認知ゆえに、自分でいかようにも決定することも考えることも可能であることを学ぶ。</p>
--------	--

キーワード	アドラー心理学 哲学	学修教育目標	<p>ライフスタイル論は、あらゆる人生の課題は対人関係に集約されることを中心に学びます。またアドラー心理学に基づき、ライフタスク（人生の課題）としてテーマを3つに分類し学ぶ。「ビジネスへの課題」「交友関係（共生）の課題」「愛の課題」であり、良き人生観を培う。現在はアドラー心理学にさらに2つのタスクが加わることも学び、人生の指標も考える。</p>
-------	---------------	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

ライフスタイル論はライフタスクから「ビジネスの課題」とは、労働を基軸に他者と関わることであり、「交友関係（共生）の課題」とは仕事から離れた対人関係を考えます。そして「愛の課題」からは、配偶者や恋愛対象との関係性や親子・兄弟姉妹といった家族の関係性を考えます。これらの3つの課題は、時間が経つほど解決が難しくなるとアドラーが指摘したように、これらの課題はすべてが対人関係の課題であると考えます。対人関係に悩みが生じる時は、必ずライフタスクのテーマに関連する対人関係の課題に直面しているのです。それゆえに講義を受けるにあたり、できる限り人生観を考える哲学や心理学全般を学び知ることが重要である。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

ライフスタイルは自己や世界への認知ゆえに、自分でいかようにも決定することも考えることも可能である。ゆえに講義に人生観を考える哲学や心理学全般を学び知ることが重要である。

教科書	参考書・リザーブドブック
なし	<p>書 名：アドラー心理学入門 著者名：岸見一郎 出版社：ベストセラーズ</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	アドラー心理学の基礎およびその他の心理学的知識を説明することができる。	○
②	心理の分析方法を身につける。	心理学的実践活動の科学的な研究方法について説明できる。	◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	心理学の実践活動における倫理問題について考え、意見を表明することができる。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	様々な実社会の自己理解や他者理解について考え、意見を表明することができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	人生観をより深く充実したものへと変換することができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	自己理解・他者理解に役立てることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	アドラー心理学からライフタスクを考えることで人生観が培われる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力	心理分析力が高まる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	他者理解ができる。	○
	③ 柔軟性	自己の適材適所の心理的行動ができる。人間性の幅も広がる。	◎
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力	自己理解ができることで心理的ゆとりが生まれる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	人間関係の心理的メカニズムが理解でき、円滑な人間関係を築くことができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59						41	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20						10	30
	技能に関する評価								10	10
	応用力に関する評価		20							
	チームワークに関する評価								10	10
	関心・意欲に関する評価		19						11	11
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>ライフ・スタイルの「自己概念」「世界像」「自己理想」を環境や遺伝、家族構成などによってつくられているということが理解することができる。さらにライフタスク（人生の課題）として「ビジネスへの課題」「交友関係（共生）の課題」「愛の課題」についても理解できる。</p>					<p>ライフ・スタイルは、「自分がどんな人間であるか抱くセルフイメージ（自己概念）」「他者を含む世界の現状への認知（世界像）」「自己概念と世界像に対する理想のイメージ（自己理想）」を包括したものとされ、環境や遺伝、家族構成などによってつくられているということを理論を中心に理解できる。さらにライフタスク（人生の課題）として「ビジネスへの課題」「交友関係（共生）の課題」「愛の課題」についても理解できている。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス（授業の概要と成績について）	講義形式	ライフスタイルとは？調べておく	30
第2回 /	アドラー心理学の理論と概念	講義形式	アルフレッド・アドラーについて調べておく	60
第3回 /	アドラー心理学の重要な概念・・・ライフスタイル	講義形式	前回の復習	30
第4回 /	早期回想・・・ライフスタイル	講義形式	前回の復習	60
第5回 /	「自己概念」「世界像」「自己理想」について	講義形式	前回の復習	30
第6回 /	ライフタスク（人生の課題）とは	講義形式	前回の復習	30
第7回 /	ライフタスク（人生の課題）とは	講義形式	前回の復習	30
第8回 /	確認考査（まとめ）	講義形式	前回の復習	60

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ウェルネス領域	メイクと心 About The Various Benefits of Makeup	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	メイクアップには、美しく彩ったり、華やかに装う効果の他、気分を高揚させたり、自己肯定感を高めたり、リラックスさせるなどの心理的効果があることが知られています。その内容を深く知り、自分や他者の幸福感を高めたり自信づけたりするツールとして使えるようになる為の講座です。	
	キーワード	学修教育目標

自分（その人）らしく、ポジティブな気持ちになるメイク

メイクアップを通して自己も他者も、それぞれの魅力に気づき認めることができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

メイクアップは外見を補正や修正するものではなく、その人らしい魅力を確認し、より魅力的な表情に見せるアイテムです。魅力的な表情は、本人も周りもポジティブな気持ちになります。この授業を通して、自身の顔とも、他者の顔とも、楽しく向き合い、認め合えていくことを目標とします。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「メイク・スキンケア論」

教 科 書

参考書・リザーブブック

なし

なし

No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1)	
①	心理の専門知識を身につける。	メイクは、人の表情に密接に関係します。表情と感情、魅力的な表情とは？を学びます。	○
②	心理の分析方法を身につける。	どう見られたいかは、メイクや髪型、ファッションなどから読み取れます。感情の分析方法の一つとして学びます。	◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	どんな顔になりたいか→どうしてその顔になりたいか、メイクを通して深いカウンセリング力が身につきます。	◎
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	顔には表情が有ります。表情は感情の現れです。豊かな表情に導くカウンセリングメイクアップ技法を学びます。	◎
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	社会の一員として、その場その場に適した「顔」を持つ必要があります。ブランディングメイクについて学びます。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	メイクを通して、様々なタイプの魅力を広く受け入れることで、自己、または他者への肯定感を上げることができません。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標(※2)	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	興味を持って積極的に授業に参加する。	◎
	② 働きかけ力	自己にも他者にも気遣ったヘアメイク、ファッションができるようになる。	○
	③ 実行力	やるべきことに積極的に取り組み期限内に完成させる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自己、他者が心地良いを考える力。	◎
	② 計画力	メイクアップを通して、魅力を引き出し、幸福感を高める力。	○
	③ 創造力	メイクアップを通して、魅力を言葉にできる力。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	他者の考えや価値観を受け入れ、自己の考えや価値観を活かす力。	◎
	② 傾聴力	メイクアップが心理的効果にかかわる意味を理解しようとする心。	◎
	③ 柔軟性	時と場合、他者の価値観などを考慮しながら、自身の考えを柔軟に対応する力。	◎
	④ 状況把握力	自己の価値観と異なる場合でも、共感できる部分を見つける力。	◎
	⑤ 規律性	感覚や感情だけではなく、状況や目的を理解する力。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	感情や気分左右されすぎず、状況や目的に沿った行動を心がける力。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動できる力。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		10				40	100
評価 の 指標	知識に関する評価		5							5
	技能に関する評価		5							5
	応用力に関する評価		5							5
	チームワークに関する評価		10						20	30
	関心・意欲に関する評価		25		10				20	55
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
自己も、他者も心地良く感じられるメイクができるようになる。					メイクを通して、毎朝のやる気スイッチ ON にできるようになる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	自己紹介、授業の目的、メイクの力について 授業の目的を理解する	講義・実践	自身のメイクを見直す	90
第2回 /	ブルベとイエベのメイクアップカラーについて理解する 色の楽しさ、色の面白さ、を感じる	講義・実践	持参物：持っている化粧品（あれば）、ウェットティッシュ コスメ売り場で化粧品を見る	90
第3回 /	ファンデーションの色選び&自身の肌の色 それぞれの色を持っていることを理解する	講義・実践	持参物：持っている化粧品（あれば）、ウェットティッシュ コスメ売り場でファンデーションを見る	90
第4回 /	チークカラーの選び方と入れ方による効果 顔の縦と横のバランス チークの目的やメイクの効果を理解する	講義・実践	持参物：持っている化粧品 コスメ売り場で見たり、できればお試し	90
第5回 /	眉の角度と大人バランス子供バランス、求心&遠心 眉の角度だけで表情に影響があることを理解する	講義・実践	持参物：持っている化粧品 様々な人の眉を観察	90
第6回 /	眉の形と眉の濃さ、リップカラーの効果と選び方 様々な【似合う】があることを理解する	講義・実践	持参物：持っている化粧品 様々な人の眉やメイクを観察	90
第7回 /	アイカラーの選び方と入れ方による効果 目元の求心と遠心 様々な【魅力】があることを理解する	講義・実践	持参物：持っている化粧品 様々な人の眉やメイクを観察	90
第8回 /	似合う診断&メイクプラン（グループレッスン） 魅力を理論的に分析し、見つけ、言葉にして伝える力を身に着ける	講義・実践	持参物：持っている化粧品 様々な人の眉やメイクを観察	90
第9回 /	似合う診断&メイクプラン（グループレッスン） 魅力を理論的に分析し、見つけ、言葉にして伝える力を身に着ける	講義・実践	持参物：持っている化粧品 様々な人の眉やメイクを観察	90
第10回 /	自己の顔分析からメイクプラン①&メイクアップ 自己の魅力を分析し、効果的に魅せることを学ぶ	講義・実践	持参物：持っている化粧品 様々な人の眉やメイクを観察	90
第11回 /	自己の顔分析からメイクプラン②&メイクプラン 自己の魅力を分析し、効果的に魅せることを学ぶ	講義・実践	持参物：持っている化粧品 様々な人の眉やメイクを観察	90
第12回 /	他者の顔分析からメイクプラン①&メイクアドバイス 他者の魅力を分析し、効果的に魅せることを学ぶ	講義・実践	持参物：持っている化粧品 様々な人の眉やメイクを観察	90
第13回 /	他者の顔分析からメイクプラン&メイクアドバイス 他者の魅力を分析し、効果的に魅せることを学ぶ	講義・実践	持参物：持っている化粧品 様々な人の眉やメイクを観察	90
第14回 /	自己の顔分析からメイクプラン&メイクアップ実技	講義・実践	目的を意識したメイクアップ	90
第15回 /	14週の復習講座、感想レポート提出	講義・実践	授業を受けることで得たこと、変化の気づき	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ウェルネス領域	ファッションと心 Fashion and heart	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	時代の変化は、人の気持ちの変化と共にファッションの流行や色にも表れる。 ファッションと心と色の繋がりを知り、自分のファッションの好き嫌いの傾向や色彩を通して自分自身の魅力や強みなどの「自分らしさ」「魅力と魅せ方」について探求すること。					
	キーワード	自分らしさを知る。	学修教育目標	自信を持って就職活動ができる。		

授業科目の概要及び学修上の助言

ファッションを通じて自己探求に繋がる内容を意識している。 自ら気づいてゆけるような声かけや、意欲的になれるような励ましなどを通して、自信を持って行動できるよう、安心して学べる環境作りに留意する。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

色彩検定テキスト（ファッション）と関連する。						
------------------------	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
199a カラーカード	学生自身で好きなファッション雑誌 1～2 冊を準備

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	ファッションの流行は色と心に関わることを知り、代表色をカラーカードで切り貼りする（ワーク）	○
②	心理の分析方法を身につける。	色の基礎知識を学び、カラーコーディネートの基本を知り活用できること	◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	エレガント、ロマンティック、カジュアルなどTPOに応じたイメージスタイルがあることを知る。	◎
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	技法を身につけるためコラージュを作成し、夢を膨らませる（ワーク）	◎
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	パーソナルカラー診断 知識と実践 自分が似合う色のシーズンを知り活用できること	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	色彩心理を使って、自分なりの活用方法を考え活用できること	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	◎
	② 働きかけ力	自他共に心地よく好印象を与えることができる。	○
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分にとって何が課題なのかを考えることができる。	◎
	② 計画力	TPOに合わせたファッションコーディネートができる。	○
	③ 創造力	カラーコーディネートで自分らしさを表現できる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	色が持つイメージを連想できる。	◎
	② 傾聴力	自分のことを深く見つめることができる。	◎
	③ 柔軟性	他者と自分の個性の違いを認め合える。	◎
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	◎
	⑤ 規律性	自己分析、他己分析ができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の良さを見つけることができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動できる力をつける。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	11	11	14	14			100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	5	3	2	3			23
	技能に関する評価		10	2	2	2	3			19
	応用力に関する評価		10	2	3	3	3			21
	チームワークに関する評価		10			3	2			15
	関心・意欲に関する評価		10	2	3	4	3			22
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
ファッションを通して自己探求ができ、自分の魅力・強み・新しい発見が自信に繋がる。					ファッションを通して自己探求ができ、自分の魅力などに気づく。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ファッションの変遷と流行色	座学、実習	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	90
第2回 /	ファッションの変遷と流行色	座学、実習	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	90
第3回 /	色の三属性とカラーコーディネート	座学、実習	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	90
第4回 /	色の三属性とカラーコーディネート	座学、実習	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	90
第5回 /	ファッションのイメージスタイル	座学、実習	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	90
第6回 /	ファッションのイメージスタイル	座学、実習	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	90
第7回 /	ファッションコラージュ	座学、実習	e-Learning での学修はありません。	90
第8回 /	ファッションコラージュ	座学、実習	e-Learning での学修はありません。	90
第9回 /	パーソナルカラー理論	座学、実習	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	90
第10回 /	パーソナルカラー診断	座学、実習	e-Learning での学修はありません。	90
第11回 /	色彩心理・色のイメージを知る	座学、実習	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	90
第12回 /	就活に生かせる色の使い方	座学、実習	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	90
第13回 /	メイク理論 ・就活でも安心！ 正しいスキンケアとナチュラルメイク	座学、実習、テスト	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	90
第14回 /	メイク理論 ・パーソナルカラーを生かしたメイクについて	座学、実習	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	90
第15回 /	まとめ・レポート・テスト	座学、レポート提出、テスト	復習（レジュメでの復習） e-Learning での学修はありません。	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ウェルネス領域	アロマと心 Aromatherapy and heart	2単位	選 択	講 義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	芳香植物が何千年も人々の生活に使われてきた理由を理解し、アロマセラピーの基礎知識と精油が人の心に及ぼす影響を学ぶ。	
	キーワード	学修教育目標

一滴の精油のもつ力はとてもパワフル。その力を引き出し心に活用する。

香りが人間に与える影響、特にここに働く基礎的なしくみを知る。

授業科目の概要及び学修上の助言

香りを使った実習に積極的に参加し感じたことを発表する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

自分の五感の中の、特に、嗅覚と触覚を意識する。

教科書

参考書・リザーブドブック

書名：いちばん詳しくて、わかりやすい！ アロマセラピーの教科書
出版社：新星出版社

医者がすすめる科学的アロマセラピー 永井 克也・富 研一・ベンゼル智子 かざひの文庫

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	嗅覚が脳の大脳辺縁系に届く仕組みを知る。	○
②	心理の分析方法を身につける。	心と体の繋がり、体が示す反応が心からくることに気づくことができる。	○
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	香りの芳香成分について、精油の知識をもつ。	○
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	香りを心や体に作用するルートを知り、実際に使う方法を身につける。	○
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	植物や精油を用いて自分のセルフヒーリングができるようになる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	アロマセラピーの知識や使い方を説明し、クライアントを癒すことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	◎
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。	◎
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	クライアントの無言の訴えに素早く気づく。	○
	② 計画力	不調を訴えるクライアントに対して香りの提案ができる。	○
	③ 創造力	香りを言語化し表現できる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	アロマセラピーを行う際などクライアントの希望をとらえることができる。	◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	○
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	◎
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	自他のストレスケアをし、ストレスコントロール力をつける。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動できる力をつける。	○

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10		30			10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20	10						30
	技能に関する評価		10			10				20
	応用力に関する評価		10							10
	チームワークに関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価		10			10			10	30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
アロマセラピーが身体に作用する仕組みや、精油の特性や問題点を知る					芳香浴以外でも心と身体に作用する仕組みや、精油の特徴や使い方を知る					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	芳香植物について学ぶ 精油を体験する	座学、実習	植物がどうして香り成分を作るのか、調べる	90
	ラベンダー精油のかぎわけ			
第2回 /	精油の薬理作用を知る	座学、実習	4系統6種類のラベンダーについて書かれた論文を読み、精油を作る植物の背景に思いをめぐらせる	90
	ラベンダー精油の抗不安作用についての論文ポイントの理解			
第3回 /	精油を知る 精油の基礎知識を学ぶ	座学、実習	IHによる水蒸気蒸留の実験を実施	90
	精油の特徴と使い方を理解する			
第4回 /	精油の作用を知る 精油の薬理作用を学ぶ	座学、実習	精油の学名（二名法）を調べる	90
	精油の芳香成分について			
第5回 /	精油の成分が体に働く経路を知る① 嗅覚と大脳辺縁系のしくみを学ぶ	座学、実習 DVD鑑賞あり	ビデオ視聴の感想	90
	NHK ヒューマニエンス “嗅覚は生命のパロメーター” を観る			
第6回 /	精油の成分が体に働く経路を知る② 精油の代謝経路を学ぶ	座学、実習	精油の安全性について、代謝ルートから知識を深める（テキスト復習）	90
	さまざまな香りを嗅ぎ、日常生活で取り入れる方法を知る			
第7回 /	アロマセラピーの歴史① 植物療法の基礎を学ぶ	座学、実習	自宅で香りを使ったセルフヒーリングを試してみる	90
	芳香植物と人間の関わりについての長い歴史			
第8回 /	アロマセラピーの歴史① 代替医療としてのアロマセラピーを学ぶ	座学、実習	現代社会に活用できるアロマセラピーの可能性についてリサーチ	90
	植物の機能性成分としての香りが薬になるまで			
第9回 /	アロマセラピーに用いられる基材を知る	座学、実習	日常生活で精油を使う際に必要なものを知り、可能な範囲で実践してみる	90
	精油の特性、ブレンドする際の注意点など実際に扱う			
第10回 /	アロマセラピー実習の応用	実習	実習で作ったバスソルトを自宅で使い、体感する	90
	4種類の精油を学ぶ。			
第11回 /	基本の精油を学ぶ	座学、実習	精油の香りの特徴や禁忌について理解を深める お店などに行って同じ精油を探してみる	90
	6種類の精油を学ぶ			
第12回 /	アロマセラピー実習の応用②	座学、実習	実習で作ったオーデコロンの熟成と使用	90
	4711タイプのオーデコロンの作成			
第13回 /	心身症へのアロマセラピーの活用を学ぶ	座学、実習	アロマセラピーでストレス管理するプランを考える	90
	ストレスを感じた時に使える精油と代表的な芳香成分を学ぶ			
第14回 /	心とアロマセラピー 臨床例を学ぶ	座学、実習	介護にアロマセラピーを使うことについて、若者と高齢者の身体や心の違いに気づきを得られるようになる	90
	高齢化社会が抱える問題について知る			
第15回 /	まとめ 振り返り	レポート	小テストで間違えたところの見直しと試験に向けての復習	90
	テキスト持ち込み可で全体を振り返る小テストを行い、答え合わせをする			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ウェルネス領域	メイク・スキンケア論 Diversity of Make up	2単位	選 択	講 義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	メイクアップには、美しく彩ったり、華やかに装う効果の他、気分を高揚させたり、自己肯定感を高めたり、リラックスさせるなどの心理的効果があることが知られています。その内容を深く知り、自分や他者の幸福感を高めたり自信づけたりするツールとして使えるようになる為の講座です。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	自己、他者を癒し幸福感を高める	学修教育目標	自己も他者も、それぞれの魅力に気づき認め、癒しと幸福感を高める。
-------	-----------------	--------	----------------------------------

授業科目の概要及び学修上の助言

メイクアップは外見を補正や修正するものではなく、その人らしい魅力を確認し、より魅力的な表情に見せるアイテムです。魅力的な表情は、本人も周りもポジティブな気持ちになります。この授業を通して、自身の顔とも、他者の顔とも、楽しく向き合い、認め合えていくことを目標とします。	
---	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「メイクと心」

教科書	参考書・リザーブドブック
なし	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	メイクは、人の表情に密接に関係します。表情と感情、魅力的な表情とは？を学びます。	○
②	心理の分析方法を身につける。	肌の状態は心理状態と密接に関係し、分析することができます。	◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	肌の状態が良いと心地よくメイクができ、気分が晴れることを学びます。	◎
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	肌や表情を読みとり、豊かな心理状態へ導くスキンケアとメイクを学びます。	◎
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	社会の一員として、その場その場に適した「顔」を持つ必要があります。肌から整え好印象の「顔」を作る力。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	メイクを通して、様々なタイプの魅力を広く受け入れることで、自己、または他者への肯定感を上げることができず。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	◎
	② 働きかけ力	自他共に心地よく好印象を与えることができる。	○
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分にとって何が課題なのかを考えることができる。	◎
	② 計画力	TP0に合わせたメイクができる。	○
	③ 創造力	メイクで自分らしさを表現できる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	色が持つイメージを連想できる。	◎
	② 傾聴力	自分のことを深く見つめることができる。	◎
	③ 柔軟性	他者と自分の個性の違いを認め合える。	◎
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	◎
	⑤ 規律性	自己分析、他己分析ができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	自他のストレスケアをし、ストレスコントロール力をつける。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動できる力をつける。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		10				40	100
評価 の 指標	知識に関する評価		5							5
	技能に関する評価		5							5
	応用力に関する評価		5							5
	チームワークに関する評価		10						20	30
	関心・意欲に関する評価		25		10				20	55
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
他者へのスキンケアやメイクを通してカウンセリングが出来るようになる。					自身のスキンケアやメイクアップ力の向上。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	自己紹介、授業の目的、皮膚理論、スキンケア論	講義・実践	自身のスキンケアを見直す	90
	授業の目的を理解し、皮膚の構造とスキンケアについて学ぶ			
第2回 /	スキンケア商品の種類、目的、使用方法	講義・実践	持参：スキンケア商品 自身のスキンケアを見直す、コスメ売り場で商品の観察	90
	スキンケア商品の種類や成分などの専門用語に触れ正しい使用方法を学ぶ			
第3回 /	ベースメイク商品の種類、ファンデーションの選び方	講義・実践	持参：スキンケア商品、ベースメイク商品 自身の肌を整える、コスメ売り場で商品の観察	90
	ファンデーション、コントロールカラー、コンシーラーなどベースメイクに使用される商品の種類を知る。色の合わせ方。			
第4回 /	肌トラブルについて、対策、メイク方法	講義・実践	持参：スキンケア商品、ベースメイク商品 自身の肌を整える、コスメ売り場で商品の観察	90
	隈、シミ、赤味、黄ぐすみなどの原因についてや、カバーメイク方法について			
第5回 /	肌トラブルについて、対策、メイク方法	講義・実践	持参：スキンケア商品、ベースメイク商品 自身の肌を整える、コスメ売り場で商品の観察	90
	シワやテカリ、乾燥肌など、肌状態の原因についてや、カバーメイク&スキンケア方法について			
第6回 /	眉で変わる印象の違いについて	講義・実践	持参：スキンケア商品、ベースメイク商品、眉メイク商品 自身の肌を整える、コスメ売り場で商品の観察	90
	眉の形、濃さ、角度などについて			
第7回 /	効果的なアイメイク方法	講義・実践	持参：スキンケア商品、ベースメイク商品、眉メイク商品、アイメイク商品（あれば） 自身のメイクを意識、コスメ売り場で商品の観察	90
	基本的なアイメイクの方法と、効果的な入れ方			
第8回 /	効果的なチークの入れ方	講義・実践	持参：スキンケア商品、ベースメイク商品、メイクアップ商品（あれば） 自身のメイクを意識、コスメ売り場で商品の観察	90
	基本的なチークの入れ方と、効果的な入れ方、眉&アイメイク復習			
第9回 /	リップケアと似合うリップカラーの選び方	講義・実践	持参：スキンケア商品、ベースメイク商品、メイクアップ商品（あれば） 自身のメイクを意識、コスメ売り場で商品の観察	90
	唇のケアと、似合うリップカラーの選び方 眉&アイメイク復習			
第10回 /	肌状態を整え健康的なメイクアップ①	講義・実践	持参：スキンケア商品、ベースメイク商品、メイクアップ商品（あれば） 自身のメイクを意識、コスメ売り場で商品の観察	90
	スキンケアから肌を整え、健康的なメイクアップを目指す			
第11回 /	肌状態を整え健康的なメイクアップ②	講義・実践	持参：スキンケア商品、ベースメイク商品、メイクアップ商品（あれば） 自身のメイクを意識、コスメ売り場で商品の観察	90
	スキンケアから肌を整え、健康的なメイクアップを目指す			
第12回 /	人へのスキンケアとタッチアップ方法（グループレッスン）	講義・実践	持参：スキンケア商品、ベースメイク商品、メイクアップ商品（あれば） 自身のメイクを意識、コスメ売り場で商品の観察	90
	衛生的かつ、優しく人の肌に触れることを学ぶ			
第13回 /	人へのスキンケアとタッチアップ方法（グループレッスン）	講義・実践	持参：スキンケア商品、ベースメイク商品、メイクアップ商品（あれば） 自身のメイクを意識、コスメ売り場で商品の観察	90
	衛生的かつ、優しく人の肌に触れることを学ぶ			
第14回 /	スキンケアから自身へのフルメイク	講義・実践	持参：スキンケア商品、ベースメイク商品、メイクアップ商品（あれば） 自身のメイクを意識、コスメ売り場で商品の観察	90
	肌をいたわり丁寧なスキンケアが行われているか、健康的なメイクに仕上げられているか。衛生的に道具を使っているか			
第15回 /	復習、感想、振り返り	講義・実践	学修で得た事、変化など振り返り	90
	授業の中で学んだことを再確認しながら、振り返る			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ウェルネス領域	ナチュラルビューティ論 Natural Beauty Theory	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	心も体も美しく。ありのままの自分を輝かせ自分らしく生きる。					
	キーワード	自分の知らない自分に出会う。自分の可能性は無量大。	学修教育目標	唯一無二の存在である自分の魅力を様々なツールを使って知り、自分を生かす。		

授業科目の概要及び学修上の助言

他人とは違う自分の特徴を知り受け入れる。行動に移す。						
----------------------------	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

五感全てを研ぎ澄ます。心で感じる。						
-------------------	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
なし			なし			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	人の心理とナチュラルビューティーの関係性を学ぶ。	◎
②	心理の分析方法を身につける。	自然の美しさ（ナチュラルビューティー）が心に及ぼす影響を実例を学ぶ。	○
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	ナチュラルビューティーとカウンセリングの親和性を学ぶ。	○
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	ナチュラルビューティーをカウンセリング手法に取り込む技法を身につける。	○
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	自然の美しさが人に与える影響を学ぶことにより人間性を高める。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	ナチュラルビューティーを実社会で応用できるようその技能を身につける。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	◎
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。	○
	③ 実行力	目的を設定し最後まで取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分自身の今の課題に素早く気づく。	○
	② 計画力	不調を訴えるクライアントに対しての提案ができる。	○
	③ 創造力	自分のイメージする方へ未来を想像していく事が出来る。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	○
	② 傾聴力	他者の意見に耳を傾け、希望をとらえることができる。	◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	◎
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	◎
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	自他のストレスケアをし、ストレスコントロール力をつける。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動できる力をつける。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10	40					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50	10						60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				40					40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
あらゆる角度から自分自身を知り、自分を生かして生きる道しるべとする。					自分自身を知りありのままの自分を受け入れる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	色で自己紹介	座学、実習	感想を書き留める。	90
第2回 /	カラーセラピーワーク「ジョハリの窓」	座学、実習	感想を書き留める。	90
第3回 /	色彩の基礎	座学、実習、小テスト	色彩の基礎について学んだ事の復習。	90
第4回 /	パーソナルカラーとは①	座学、実習	パーソナルカラーについて学んだ事の復習。	90
第5回 /	パーソナルカラーとは②	座学、実習、小テスト	パーソナルカラーについて学んだ事の復習。	90
第6回 /	パーソナルラインとは①	座学、実習	パーソナルラインについて学んだ事の復習。	90
第7回 /	パーソナルラインとは②	座学、実習、感想レポート	パーソナルラインについて学んだ事の復習。	90
第8回 /	誕生数秘学①	座学、実習	感想を書き留める。	90
第9回 /	誕生数秘学②	座学、実習	感想を書き留める。	90
第10回 /	アロマリーディング	座学、実習	感想を書き留める。	90
第11回 /	呼吸法とストレスマネジメント	座学、実習	学んだ事を普段の生活の中で意識する。	90
第12回 /	ネガティブの手放しとイメージトレーニング	座学、実習、感想レポート	学んだ事を普段の生活の中で意識する。	90
第13回 /	血液型と食	座学、実習	内容の復習	90
第14回 /	腸活、めぐりの良い体、スキンケア	座学、実習	普段の生活の中で学んだ事をやってみる。	90
第15回 /	表情筋トレーニング、まとめ	座学、実習、小テスト、感想レポート	全講座を振り返り、気づいた事を書き留める。	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ウェルネス領域	茶道と心 Tea Ceremony and Heart	2単位	選 択	講 義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	(1) 総合芸術である茶道の精神を学び、実際の生活や人間関係を豊かにする。 (2) 茶道の姿を身体で感じ覚え、心を鍛える。	
	キーワード 伝統文化 茶道 礼儀作法 おもてなし 禅	学修教育目標 「初級」の資格の許状を申請できる。

授業科目の概要及び学修上の助言

茶道の点前・礼儀を身につけることにより、自己を修練し、他の人を尊重することを理解してほしい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

学生生活・日々の生活を通して、思いやりや感謝の心を忘れないでほしい。

教科書

参考書・リザーブブック

なし	書 名：裏千家 茶道 著者名：学校茶道教本編集委員会 出版社：今日庵
----	--

No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1)	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	仁・義・礼・智・信を知ることができる。	○
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	相手に対する思いやりの心や協調性を身につけることができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	感謝の心や物に動じない精神力を育むことができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標(※2)	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	○
	② 働きかけ力	授業中に私語を注意できる。	◎
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、行動できる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に分析し、新しい解決法を探し出すことができる。	◎
	② 計画力	課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。	○
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手の気持ちを思いやり、意見をきくことができる。	◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	○
	④ 状況把握力	自分のおかれている立場を正確に把握できる。	◎
	⑤ 規律性	社会人として必要な礼儀作法やマナーを身につけることができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	他人に対する尊敬の気持ちを常に持つことができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	5	20	20			5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	1	10				1	22
	技能に関する評価		10	1		10			1	22
	応用力に関する評価		10	1					1	12
	チームワークに関する評価		10	1					1	12
	関心・意欲に関する評価		10	1	10	10			1	32
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
茶道の精神についてより深く十分理解できる。 「運び薄茶点前」を通しておもてなしの心を十分表現できる。					茶道の精神についてほぼ理解できる。 「運び薄茶点前」を通しておもてなしの心をほぼ表現できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	茶道の精神についての総論 ①学生への注意	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第2回 /	茶道と禅の関係 ①点前の意義	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第3回 /	茶道と禅語 ①立居振舞	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第4回 /	「利休道歌」を読む ①客の心得と作法	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第5回 /	「利休道歌」を読む ①点前道具の扱い方	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第6回 /	ビデオ鑑賞 「正午の茶事」	講義	日常生活での学修内容の実践	20
第7回 /	抹茶の効用 ①割稽古 小テスト	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第8回 /	レポート課題出題 運び薄茶点前（1）	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第9回 /	「茶経」を読む 運び薄茶点前（2）	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第10回 /	「茶経」を読む 運び薄茶点前（3）	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第11回 /	「喫茶養生記」を読む 運び薄茶点前（4）	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第12回 /	「喫茶養生記」を読む 運び薄茶点前（5）	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第13回 /	茶道の意義 運び薄茶点前のまとめ	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第14回 /	総まとめ 運び薄茶点前のまとめ	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20
第15回 /	実技試験（運び薄茶点前）	講義 実習	日常生活での学修内容の実践	20

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ウェルネス領域	色彩学 Chromatology	2単位	選 択	講 義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	「色彩」に広く触れ、社会や実生活で活用し、心豊かに生きていく力を育む。					
--------	-------------------------------------	--	--	--	--	--

キーワード	難しい内容はほとんどありません。色の世界が初めての方向けです。	学修教育目標	「色がなぜ見えるのか」から「カラーとトレンド」まで「色」の世界を広く知り、色を効果的に使えるようになる。
-------	---------------------------------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

好奇心を持って色に触れ、手を使って実践する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

視覚。日常から色を意識して見る。

教科書	参考書・リザーブドブック
書 名：新配色カード 199a 出版社：日本色研事業株式会社	参考：色彩検定3級テキスト

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	色彩と心理の関係を学ぶ。	○
②	心理の分析方法を身につける。	実例を取り上げながら色彩心理を学ぶ。	△
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	クライアントの心と色の関係を学ぶ。	○
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	カウンセリング技術を実例を交えて身につける。	△
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	色と心のありようの関係性を学ぶことによって社会性を身につける。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	色彩心理を学ぶことにより、実社会での問題解決のための知識・技能を身につける。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	◎
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。	○
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	クライアントの無言の訴えに素早く気づく。	◎
	② 計画力	クライアントに対して色の提案ができる。	◎
	③ 創造力	色を言語化し表現できる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	○
	② 傾聴力	クライアントの希望を的確にとらえることができる。	○
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	○
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	○
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	自他のストレスケアをし、ストレスコントロール力をつける。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動できる力をつける。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45	10	30				15	100
評価 の 指標	知識に関する評価		45	10						55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								15	15
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				30					30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
実生活で色を効果的に使えるようになる。					色の仕組みや社会との関わりを知る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	はじめに 色と役割	座学	内容の復習	90
第2回 /	色はなぜ見えるのか	座学、小テスト	色はなぜ見えるのかの復習。	90
第3回 /	眼のしくみと照明	座学、小テスト	眼のしくみの復習。	90
第4回 /	混色	座学、実習、小テスト	混色の復習。	90
第5回 /	色の表示 色をどうやって正確に人に伝えるのか、色の三属性など	座学、実習、小テスト	色の三属性の復習。	90
第6回 /	色相からの配色 同一色相～補色色相まで	座学、実習	配色の復習。	90
第7回 /	トーンからの配色 同一トーン～対称トーン、グラデーションまで	座学、実習、小テスト	配色の復習。	90
第8回 /	色彩心理	座学、実習、レポート	内容の復習	90
第9回 /	配色イメージ スポーティー、キュート、など	座学、実習	配色イメージの復習。	90
第10回 /	国旗の色に学ぶ配色 トリコロール、ビコロールなど	座学、実習、小テスト	学んだ言葉や配色についての復習。	90
第11回 /	ビジネスと色彩（ビジュアルデザイン、VMD他）	座学	内容の復習	90
第12回 /	色のユニバーサルデザイン	座学、レポート	感想を書き留める。	90
第13回 /	ファッションと色彩	座学、実習	学んだ言葉や配色の復習。	90
第14回 /	カラートレンド カラートレンドの成り立ち、2025ss トレンド	座学	内容の復習	90
第15回 /	まとめと振り返り	座学、小テスト、感想レポート	全講座を振りかえって気づいた事を書き留める。	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ウェルネス領域	色彩と心 Color and Heart	2単位	選 択	講 義	4年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	色彩はいつも私たちのそばにあり、私たちは知らずに色の影響を受けている。色彩が心に与える影響を学び、実生活で活用する。	
	キーワード	学修教育目標
	パワフルな力を持つ色を自由自在に使いこなす。	色の基礎知識を身につけ、心が受ける影響を理論的に理解する。

授業科目の概要及び学修上の助言

色を感じる。色を楽しむ。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

五感の中で多くを占める視覚、その中でも最も影響を与える「色」を日常から意識する。
--

教科書	参考書・リザーブブック
書 名：新配色カード 199a 出版社：日本色研事業株式会社	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	色彩と心の関係性を学ぶ。	○
②	心理の分析方法を身につける。	実例を取り上げながら色彩と心の関係を学ぶ。	◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	クライアントの心のありようが色に与える影響を学ぶ。	◎
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	カウンセリング技術を実例を交えて身につける。	○
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	心のありようと選ぶ色の関係性を学ぶことによって社会性を身につける。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	色彩と心の関係を学ぶことにより、実社会での問題解決のための知識・技能を身につける。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。	◎
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。	○
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	クライアントの無言の訴えに素早く気づく。	◎
	② 計画力	不調を訴えるクライアントに対して色の提案ができる。	◎
	③ 創造力	気持ちやイメージを色で表現する事が出来る。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。	○
	② 傾聴力	カラーセラピーを行う際などクライアントの希望をとらえることができる。	◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	○
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	○
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	自他のストレスケアをし、ストレスコントロール力をつける。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動できる力をつける。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45	5	35	5	5		5	100
評価 の 指標	知識に関する評価		45	5					5	55
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価						5			5
	チームワークに関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価				35					35
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
色彩がどのように心に影響するのかを理解する。					色彩が心に与える影響を理解して色を使う方法を知る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、およその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	カラーセラピーと自己紹介	座学、実習	内容の復習	90
第2回 /	色彩の基礎① 色はなぜ見えるのか、色の三属性の理解	座学、実習	色の三属性の復習。	90
第3回 /	色彩の基礎② トーンのおくみの理解	座学、実習、小テスト	トーンのおくみの復習。	90
第4回 /	色の心理効果①	座学、実習	色の心理効果の復習。	90
第5回 /	色の心理効果②	座学、実習、小テスト	色の心理効果の復習。	90
第6回 /	色の視覚効果①	座学、実習	色の視覚効果の復習。	90
第7回 /	色の視覚効果②	座学、実習、小テスト	色の視覚効果の復習。	90
第8回 /	配色イメージ①	座学、実習	配色イメージの復習。	90
第9回 /	配色イメージ②	座学、実習	配色イメージの復習。	90
第10回 /	応用ワーク	座学、実習	内容の復習	90
第11回 /	色彩心理がどのように社会で活用されているか	座学、実習	日常から周りにある色を見る。	90
第12回 /	カラーセラピー①	座学、実習	感想を書き留める。	90
第13回 /	カラーセラピー②	座学、実習	感想を書き留める。	90
第14回 /	カラーセラピーワークと分析	座学、実習	感想を書き留める。	90
第15回 /	まとめと振り返り	レポート、感想文	全講座を振りかえり、気づいた事を書き留める。	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期	
専門教育科目 ウェルネス領域	リラクゼーション論 Relaxation	1単位	選 択	講 義	3年次	春学期	
授業科目の学修教育目的・目標							
学修教育目的	現代社会では自然災害や事故、事件が日常的に勃発し、安全や平和といった人々が長年守られてきたと感じていた日常生活の感覚や保証もが覆されている。直接に被害がなくても、情報社会においては避けられないストレスに日々さらされて過剰しており、心身を健康に保つことがいかに大変かという課題に直面している。本授業を受講することにより、家族や仕事、友人関係やクライアントなどの対人関係、個人の素質といった要因だけでないものからも受けうるストレスに対するマネジメントができるようになる。（授業内容は状況により若干変更の可能性あり。）						
キーワード	行動療法、植物療法からのリラクゼーション技法を学ぶ	学修教育目標	身体の恒常性（ホメオスタシス）を学び、リラクゼーションの種類や活用方法を知り、使えるようになる。				
授業科目の概要及び学修上の助言							
実習で呼吸法やタッチングなどリラクゼーション技法を体験するので積極的に参加することが求められる							
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能							
アロマテラピーを軸とする植物療法を行う。アロマテラピーの基礎知識があることが望ましい							
教 科 書			参考書・リザーブドブック				
書 名：自己モニタリングと呼吸法 角井 都美子・三羽理一郎 出版社：メディカ出版			子供の「脳」は肌にある 山口 創 光分社新書 からだの無意識の治癒力 桜美林大学教授身体心理学者 山口 創 さくら舎 いちばん詳しく、わかりやすい！ アロマテラピーの教科書 和田 文緒 新星出版社				
No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1）					
①	心理の専門知識を身につける。	現代社会におけるリラクゼーションの必要性と理論を身につける					○
②	心理の分析方法を身につける。	ホメオスタシスの働きを学び、ストレスのある時の体への反応を読み取ることができるようになる					○
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	認知行動療法など各種リラクゼーション法を知る					○
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	呼吸法、植物療法（ホリスティックな捉え方）の実践ができるようになる					○
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	自己のストレス・マネジメントができるようになる。					◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	“こころ”からの影響が“からだ”に反応することや仕組みを説明できるようになる。適切なストレス対処法で日常生活を管理し、対人関係を円滑に行うことができるようになる。					◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標							
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2）					
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自らの意思で積極的に学修を進めることができる。					◎
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。					◎
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。					◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	クライアントの無言の訴えに素早く気づく。ホリスティックにクライアントの状態を読み解くことができる。					○
	② 計画力	不調を訴えるクライアントに対して香りやコーピングの提案ができる。					○
	③ 創造力	香りを言語化し表現できる。呼吸法やマインドフルネスについて説明できる。					◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。					◎
	② 傾聴力	呼吸法やアロマテラピーを行う際などクライアントの希望をとらえることができる。					◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。					○
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。					◎
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。					○
	⑥ ストレスコントロール力	自他のストレスケアをし、ストレスコントロール力をつける。					◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動できる力をつける。					○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		10	30			10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20							20
	技能に関する評価		10		10	10				30
	応用力に関する評価		10							10
	チームワークに関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価		10			10			10	30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
リラクゼーションの大切さと身体の恒常性、自然治癒力について理解を深める。					体験で、リラックスすることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	リラクゼーション法とは？ 健康と病気について。現代社会が抱える問題。	座学、実習	なぜリラクゼーションが必要とされるのか、理解を深める。 授業の復習。	90
第2回 ／	ストレスと身体の恒常性（ホメオスタシス） ハンス・セリエの一般適応症候群を自律神経系、内分泌系から学ぶ。	座学、実習	授業の復習。 解剖生理学的に体に起こる反応を抑える。	90
第3回 ／	認知行動療法 さまざまな認知行動療法を知る	座学、実習	授業の復習。	90
第4回 ／	香りのマインドフルネス 呼吸の仕組み、嗅覚の仕組みを学ぶ。呼吸法を深める。	座学、実習	香りのマインドフルネスの反復練習。	90
第5回 ／	植物療法のリラクゼーション ホリスティックとは？人と自然の関わりや全体像から物事を捉えることの意味。	座学、実習	ホリスティックの意味を理解し、ストレス対処法の理解と実践をする。 （可能であれば）植物観察をする、アロマセラピーの実践など	90
第6回 ／	タッチングとリラクゼーション NHK ヒューマニエンス「皮膚は0番目の脳」を観て感想を述べる。	ビデオ鑑賞 座学、実習	皮膚を通した、タッチングの効果を知る。 セルフマッサージをする。	90
第7回 ／	実習 触覚について理解を深める実習を行う。	座学、実習	家族、知人などにリラクゼーションを実践する。	90
第8回 ／	まとめと振り返り 嗅覚を利用した呼吸法、タッチングからのリラクゼーションの実践。	座学、実習	トレーニングを続けてデータを集計する。	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ウェルネス領域	行動学 Ethology	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>行動学とは、心外部から実際に客観的に観察できる、人間や動物の動きや反応・行為を学び探求する学問です。この講義では特に様々な人間の心理に基づく行動を観察・実験して人間の心の動きを学び人間心理を分析します。人間の心理をその背後にある円滑な人間関係の方法、行動からわかる性格と心理、恋愛心理学、ビジネス心理学など、意思決定のメカニズムの解明を探ります。これからの時代に役立てることのできる行動心理学の知識を学ぶ。</p>					
	キーワード	行動心理学 人間行動学 応用心理学	学修教育目標	<p>①心外部から客観的に観察できる行動から自己理解や他者理解をすることができる。 ②自己理解や他者理解をする中でその行動の背後にある心理を理解することで、人間行動の心理的メカニズムが理解でき、円滑な人間関係を築くことができる。</p>		

授業科目の概要及び学修上の助言

本授業の行動学は人間の心の動きを学び人間心理を分析する心理学であり、行動科学の学問のうちの一つと言えます。その行動科学は心理学の他、脳科学、情報科学、精神医学、認知科学など幅広い範囲の知識が必要です。また、行動科学は人間の行動そのものよりも、人間と社会の関係に強い関心を持たせます。人間と社会の関係は非常に複雑なため行動科学は社会学や経済学、政治学、マーケティング学を学ぶことも重要と言えるでしょう。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

基礎心理学との近接領域。心理学に関わる専門知識と分析手法を基盤に、社会を取り巻く人間心理を追求し、理解を深め、これらの知識や技法を社会で応用できる能力を身につけ、豊かな人間社会を創造するために実践的に貢献できる人材となるような素養を持つ。

教科書	参考書・リザーブドブック
なし	書 名：今日から使える行動心理学 著者名：齊藤 勇 出版社：ナツメ社

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	本学の目指す心理学の在り方を行動心理学で説明できる。	◎
②	心理の分析方法を身につける。	行動学の実践活動の内容・分野・心理学的技法について説明できる。	◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	様々な倫理問題について考え、自らの意見を表明することができる。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	人間関係の心理的メカニズムが理解でき、円滑な人間関係を築くことができる	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題、演習、試験などに主体的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	人間の心理に基づく行動を観察・実験することで実行力が身につく。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	人間行動の心理的メカニズムが理解でき、気づきが身につく。	○
	② 計画力		
	③ 創造力	人間行動の心理的メカニズムが理解でき、円滑な人間関係をめざすことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	他者理解ができることで積極性が身につく。	◎
	② 傾聴力	他者理解により人の心情を慮ることができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	適材適所の心理的行動ができる。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力	自己理解ができることで心理的ゆとりが生まれる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	人間行動の心理的メカニズムが理解でき、円滑な人間関係を築くことができる。	◎

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎効果的に発揮できる力が身に付く ○通常の状況で発揮する力が身に付く △身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59						41	100
評価 の 指標	知識に関する評価		20						10	30
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		20						10	30
	チームワークに関する評価								10	10
	関心・意欲に関する評価		19						11	30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
幅広い視野と社会人としての知識を習得し、専門知識を深め、豊かな人間社会を創造するために実践的に貢献できる人材となるような実践力を身につける。					幅広い視野と社会人としての知識を習得し、専門知識を深め、実践力を身につけられる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス（授業テーマ及び授業方法について）	講義形式	行動心理学の歴史等を調べてくる	30
	行動学全体の概要			
第2回 /	幸せになれる行動学1	講義形式	過去の幸せだった出来事を記録しておく	30
	幸福度が上がるための行動パターン			
第3回 /	幸せになれる行動学2	講義形式	習慣とは？心理的な効果を調べてくる	30
	幸福度が上がるための行動パターン			
第4回 /	幸せになれる行動学3	講義形式	結婚は幸せ？身近な人たちに聞き取りをする	60
	幸福度が上がるための行動パターン			
第5回 /	ポジティブ心理学について	講義形式	ポジティブ心理学について調べてくる	60
	ポジティブ思考			
第6回 /	人間に内在する心理的本質	講義形式	心理的本質主義について調べておく	30
	行動的帰着について			
第7回 /	行動からわかる心理1（心理的な指標・・・本音）	講義形式	行動心理学について調べておく	30
	行動心理学から、人間関係を円滑にする方法を探る			
第8回 /	行動からわかる心理2（性格と心理）	講義形式	前回の復習をする	30
	行動心理学から、人間関係を円滑にする方法を探る			
第9回 /	行動からわかる心理3（エフィカシー）	講義形式	エフィカシーを調べておく	60
	行動心理学から、人間関係を円滑にする方法を探る			
第10回 /	行動からわかる心理4（消費者行動）	講義形式	前回の復習をする	30
	行動心理学から、人間関係を円滑にする方法を探る			
第11回 /	行動からわかる心理5（行動的共感・・・他者理解）	講義形式	前回の復習をする	30
	行動心理学から、人間関係を円滑にする方法を探る			
第12回 /	行動からわかる心理6（行動心理から見た最新時事〔NIE〕）	講義形式	NIE (Newspaper in Education) 最新ニュースを調べておく	60
	行動心理学から、人間関係を円滑にする方法を探る			
第13回 /	行動心理学の理論と実践	講義形式	前回までの授業を振り返り心理学の理論を探す	60
	心理学の実験			
第14回 /	全体の振り返り	講義形式	今までの授業資料を読み込んでおく	60
	授業内課題の振り返り			
第15回 /	まとめ	講義形式	今までの授業資料を読み込んでおく	60
	これまでの授業内容を総合して振り返る			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ウェルネス領域	アサーティブ・コミュニケーション Assertive Communication	2単位	選 択	講 義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	アサーティブ・コミュニケーションとは、お互いの立場や主張を大切に、自己主張・自己表現のことで、コミュニケーションがうまくいかないときや人間関係が難しいとき、「アサーション」を理解すると、関わりを建設的に変えることができます。この授業では、アサーションの基礎を学び、アサーション・トレーニング（訓練法）を通じて、日常のコミュニケーションに変化と充実感をもたらすことを目指します。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	アサーション コミュニケーション 自尊心	学修教育目標	アサーションの基礎を学び、コミュニケーションの技法を学ぶことができる。			
-------	----------------------------	--------	-------------------------------------	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

授業ではアサーションの基礎知識を身につけることを目指します。まずは概要を解説し、カウンセリングに関する知識も紹介します。日常生活におけるコミュニケーションの問題など、自分で課題設定をし、知識をどう活かせるのかを考えていきます。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

心理学概論、心理カウンセリングの技法と関連する。

教科書

参考書・リザーブブック

なし	書 名：三訂版 アサーション・トレーニング：さわやかな〈自己表現〉のために 著者名：平木典子（著） 出版社：金子書房
----	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	アサーションに関する知識を身につける	◎
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	アサーション・トレーニングに関する知識を身につける	◎
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	傾聴力を身につける	◎
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	社会におけるコミュニケーションの基礎を身につける	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる	○
	② 働きかけ力	相手を納得させるために、協力することの必然性(意義・理由・内容等)を伝えることができる	△
	③ 実行力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる	○
	② 計画力	常に計画と進捗状況の違いに留意することができる	△
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている	◎
	② 傾聴力	内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解することができる	◎
	③ 柔軟性	立場の異なる相手の背景や事情を理解することができる	◎
	④ 状況把握力	自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる	○
	⑤ 規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している	○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10	10				30	100
評価 の 指標	知識に関する評価		40	5	5				10	60
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		10	5	5				10	30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								10	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> 授業で取り上げたアサーションの知識について十分に理解し、説明することができる。 本授業で取り上げた理論を用いて、自分自身のコミュニケーションについて分析することができる。 予習・復習を行い、疑問点を見つけ、自ら解決することができる。 					<ul style="list-style-type: none"> 授業で取り上げたアサーションの知識を概ね理解している。 コミュニケーションに関する心理学に関する理論を理解している。 授業を休まずに出席し、予習と復習を行っている。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	アサーションとは コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	アサーションとは何かを調べる 授業内容の復習	90
第2回 /	アサーションの基礎知識（1） コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	授業内容の復習、実践	90
第3回 /	アサーションの基礎知識（2） コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	授業内容の復習、実践	90
第4回 /	自己表現のかたち コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	授業内容の復習、実践	90
第5回 /	コミュニケーション コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	授業内容の復習、実践	90
第6回 /	アサーティブな言語表現 コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	授業内容の復習、実践	90
第7回 /	言葉以外のアサーション コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	授業内容の復習、実践	90
第8回 /	心に届く伝え方（1） コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	授業内容の復習、実践	90
第9回 /	心に届く伝え方（2） コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	授業内容の復習、実践	90
第10回 /	バイアスの影響 コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	授業内容の復習、実践	90
第11回 /	アサーション・トレーニングの実際 コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	授業内容の復習、実践	90
第12回 /	ケース別対応例（1） コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	授業内容の復習、実践	90
第13回 /	ケース別対応例（2） コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	授業内容の復習、実践	90
第14回 /	ケース別対応例（3） コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	授業内容の復習、実践	90
第15回 /	まとめ ー再び、アサーションとは コメントシート	・講義 ・アクティブラーニング ・コメントシート記入	授業内容の復習、実践	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ウェルネス領域	ストレス・マネジメント Stress management	2単位	選 択	講 義	4年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	ストレス社会と言われる現代、心身の健康のためにストレスを理解しストレス・マネジメントなどの対策を行うことが重要である。ストレス・マネジメントとはストレスとの上手な付き合い方を考え、適切な対処をすることであるが、大学においては理論だけでなく実践実習で身につけることも大事である。そのため、積極的な授業参加でストレス・マネジメントを学習されることを望む。					
----------------------------	---	--	--	--	--	--

キ ー ワ ー ド	ストレス コーピング メンタルヘルス	学 修 教 育 目 標	ストレス理論は、医学と心理学に共通する理論であり、現在も多くの精神的症状や身体的疾患とストレスの関係及びその対処法が研究されている。本授業ではその基礎的理論を理解し、基本的な対処法を学んでいただく。			
-----------------------	--------------------------	----------------------------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

日常生活に関わる新しい学問領域であることを理解して、健康概念の変遷やストレス研究におけるストレス・マネジメントの最新知識を真摯に学ぶことが求められる。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

健康心理学、臨床心理学、発達心理学、カウンセリング実務論、人間関係論 など						
---------------------------------------	--	--	--	--	--	--

教 科 書	参考書・リザーブドブック
書 名：ストレスマネジメント・ワークブック 著者名：ストレスマネジメント教育実践研究会編 代表 大野太郎 出版社：東山書房	書 名：ストレスマネジメントの理論と実践 著者名：水上勝義 辻 大士 出版社：医学と看護社

No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1)	
①	心理の専門知識を身につける。	テキストの要点をまとめ説明する力を身につける。	◎
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	講義を傾聴し、理解したうえで自己の意見を持てるようにする。	◎
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	心理・教育カウンセリングの観点から、実践的に理解すること。	◎
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	カウンセリングを学ぶ者としての倫理観を身につけ、個人情報の保護に努める。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	人間関係を良くするためのコミュニケーションスキルを体得する。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標 (※2)	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力		
	③ 実行力	カウンセリングの基本であるコミュニケーション能力を育成する。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力		
	③ 創造力	対話場面における共感性を育てる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスマネジメントを実践する。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	授業時に知り得た個人情報の秘密保持に努める。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		20	20			15	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10		10				5	25
	技能に関する評価		10		10	10				30
	応用力に関する評価		10						5	15
	チームワークに関する評価		10							10
	関心・意欲に関する評価		5			10			5	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
学習した専門用語やその意味について 90%以上理解する。 実技実践に全参加する。					学習した専門用語やその意味について 60%以上理解する。 実技実践に 60%以上参加する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション ストレスマネジメントとは	講義	ストレス、コーピング、マネジメントについて持っている知識や経験から次時の自己の学習課題を整理する。	20
第2回 /	ストレスとは ストレッサーとストレス反応	講義 義習	授業の感想を提出	20
第3回 /	良いストレッサー、良くないストレッサー あなたのストレス反応	講義 義習	同上	20
第4回 /	気分と体の変化 コーピング	講義 義習	同上	20
第5回 /	リラクゼーション・トレーニング	講義 義習	同上	20
第6回 /	ストレス理論 セリエとラザルスのストレス理論	講義	同上	20
第7回 /	ストレス反応の基盤にある生体システム	講義	レポート作成	60
第8回 /	ストレスの測定 心理尺度と生体指標	講義 義習	授業の感想を提出	20
第9回 /	ストレス関連疾病 心身症、身体症状症、うつ病、適応反応症、不安症群、生活習慣病	講義	同上	20
第10回 /	ストレス耐性に関連する個人的要因1 生活習慣、ストレスコーピング、首尾一貫感覚	講義	同上	20
第11回 /	ストレス耐性に関連する個人的要因2 レジリエンス、自己効力感、パーソナリティ、ソーシャルスキル	講義	同上	20
第12回 /	児童・生徒・学生のメンタルヘルス1 ・写真コラージュ法の実習① 自己表出	講義 義習	同上	20
第13回 /	児童・生徒・学生のメンタルヘルス2 ・写真コラージュ法の実習② 自己開示	講義 義習	同上 自己課題を設けてレポートを作成	60
第14回 /	認知的対処、マインドフルネス 認知行動療法	講義	レポートの発表	20
第15回 /	ストレスマネジメントのまとめ	講義	テストの予習	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ウェルネス領域	アンガー・マネジメント Anger Management	2単位	選 択	講 義	4年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	<p>アンガーマネジメントは物事の捉え方や考え方、感情、身体反応、行動的反応に注目して大局的見地から、感情や行動の変化を考える認知行動療法の一環としてアメリカで発展してきた。そして医療・福祉分野、司法分野、ビジネス、スポーツ、カウンセリングの中にアンガーマネジメントは取り入れられてきた。</p> <p>日本においては、教育分野で教師の児童・生徒理解や問題行動対応、教師のメンタルヘルス、医療・福祉分野ではリワークプログラムやカウンセリングに、企業においてはパワーハラスメント予防や人間関係向上にアンガーマネジメントは取り入れられている。</p> <p>そこでこの授業では自己理解、他者理解、相互理解を様々なシチュエーションにふさわしい方法でアサーティブコミュニケーションする対人関係に必要な知識と技法を学ぶ。</p>
----------------------------	---

キ ー ワ ー ド	認知行動心理学 応用心理学など心理学全般	学 修 教 育 目 標	<p>怒りの感情について理解を深め、感情や行動に影響を与えている事象を認知することができる。</p> <p>柔軟思考が身につくことにより自らの力で感情をコントロールできる。</p> <p>傾聴を基盤とした自尊尊重のコミュニケーションにより良い人間関係を築くことを目指す。</p>
-----------------------	----------------------	----------------------------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>本授業では教育分野での児童・生徒理解や問題行動対応、教師のメンタルヘルス、医療・福祉分野ではリワークプログラムやカウンセリングに、企業においてはパワーハラスメント予防や人間関係向上に役立つであろうアンガーマネジメントの基礎概念と理論について具体的事例に基づき講義をする。本講義は卒業を控えた4年生が受講対象であり、良き社会人としての心構えを身に付けてほしい。</p>
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

心理学概論 人間関係論 社会心理学 認知心理学 教育心理学 行動学を履修していることが望ましい。
--

教科書	参考書・リザーブドブック
<p>書 名：アンガーマネジメント</p> <p>著者名：戸田 久実</p> <p>出版社：日本経済新聞出版</p>	<p>書 名：アンガーマネジメントトレーニングブック 2024年版</p> <p>著者名：日本アンガーマネジメント協会</p> <p>出版社：ミネルヴァ書房</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。	認知行動療法の知識および理論が説明できる。	◎
②	心理の分析方法を身につける。	怒りの感情について理解を深め、感情や行動に影響を与えている事象を認知することができる。	◎
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	感情のコントロールが身につきコミュニケーションの質が高まる。	○
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	ネガティブな感情を抑え、ポジティブに変える方法を学ぶことで自己肯定感を高められる。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	ストレス軽減・高生産性な職場を率先し実現することができ心身の健康を保てるすが身につく。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	価値観の違いを把握することができることで、人間力の質を上げることができる。	○
	② 働きかけ力	怒りのメカニズムを学ぶことで他者理解が進み円滑な人間関係を構築できる。	◎
	③ 実行力	自分の気持ちや考えを言葉で相手に伝えられるようになる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分の怒りの感情に気づけるようになる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力	怒りを抑圧するのではなく、自分の感情をうまく伝えながら適切な新たなコミュニケーション力が身につく。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	他者理解が進むことで怒りを制御することができる。	○
	③ 柔軟性	切り替え、受け流す対象法が身につく。	○
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	チーム内でのコミュニケーション力が円滑になる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	実践を学ぶことで、様々な心理的切り替えの対処法がわかり、心身の健康を維持できる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	人間の怒りや悲しみなど劣等感を整理することで、問題解決のスキルが身につく。	○

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎効果的に発揮できる力が身に付く ○通常の状況で発揮する力が身に付く △身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コトシート等)	合計
総合評価割合			59						41	100
評価の指標	知識に関する評価		20						10	30
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		20						10	30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		19						21	40
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>心理学的背景において怒りとは何かを理解した上で、アンガーマネジメントにおいて、様々なシチュエーションにふさわしい方法でアサーティブコミュニケーションする対人関係に必要な知識と技法を理解できたか。</p>					<p>心理学的背景において怒りとは何かを理解した上で、その怒りをコントロールするアンガーマネジメントが知識として理解できているか。また、アンガーマネジメントを学んだことで自分の怒りの傾向を知ることができたか。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス アンガーマネジメントとは！ 授業概要と成績について	講義形式	アンガーマネジメントについてできるだけ詳細に調べておく	60
第2回 /	アンガーマネジメントとは！ ・・・怒りを予防し制御するための心理療法	講義形式	前回の復習	30
第3回 /	ストレスラーとしての怒りの感情について	講義形式	ストレス反応について調べておく	30
第4回 /	脳のメカニズムの理解からアンガーマネジメントを考える	講義形式	アンガーとは何かを、脳科学から調べておく	60
第5回 /	アンガーマネジメントがなぜ、いま必要性が高まっているのか？	講義形式	最新時事から事例を調べておく	60
第6回 /	怒りはどこから着てどこへ向かうのか？	講義形式	前回の復習	30
第7回 /	怒りの構造	講義形式	前回の復習	30
第8回 /	アンガーマネジメントの実践1	講義形式	実践方法を調べておく	60
第9回 /	アンガーマネジメントの実践2	講義形式	前回の復習	30
第10回 /	アンガーマネジメントの実践3	講義形式	前回の復習	30
第11回 /	怒りを予防し制御するための心理療法・対処法1	講義形式	事例研究をする	60
第12回 /	怒りを予防し制御するための心理療法・対処法2	講義形式	前回の復習	30
第13回 /	アンガーマネジメント・・・指導の仕方	講義形式	感情のコントロールが難しい相手と接する際に、上手に対応する指導方法を考えておく	60
第14回 /	アンガーマネジメント・・・叱り方	講義形式	感情のコントロールが難しい相手と接する際に、上手に対応する叱る方法を考えておく	60
第15回 /	まとめ（第1回からの授業内容のふりかえり）	講義形式	今までの授業のふりかえりをしておく	30

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 関連科目領域	歴史地理学概論 Introduction to Historical Geography	2単位	選 択	講 義	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	人間が生活する環境として「地理」をとらえ、人間と地理の密接な関係について、大学周辺の歴史的な事例をもとにして理解を深めることを目的とする。					
キーワード	太子町 竹内街道	学修教育目標	1. 人間が生活する環境としての地理の重要性について理解することができる。 2. 身近な地域について、歴史地理的な視点から関心をもって調べることができる。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
地図（授業で配付するものやネットで検索できるもの）を確認しながら授業の理解を深めていくこと。教材をPDF等の形式で配信するので、インターネット接続可能なノートPC、iPad、スマートフォン等を準備しておくこと。大きな画面のノートPC、タブレットをすすめる。可能であればフィールドワークを行う。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
歴史関係の授業（「西洋史の探究」「近代史の探究」など）。						
教 科 書				参考書・リザーブブック		
なし				なし		
No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。					
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。					
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	身近な地域に関する地理・歴史・文化について自ら調べ、知識を身につけ、教養を深めることができる。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた主題群のなかから自発的に自分のテーマを選び、調べることができる。				○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。				○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまででない新しい解決策を見つけ出すことができる。				○
	② 計画力	課題発表ができるように計画的に準備ができる。				◎
	③ 創造力	今回の発表で、新しいこと（考え、研究）を思いつくことができる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べたことについて、十分に説明できる。				○
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。				○
	③ 柔軟性	自分の価値観と違う意見を受け入れることができる。				○
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。				○
	⑤ 規律性	発表時に他の発表者に迷惑のかからないよう、発表時間に留意することができる。				○
	⑥ ストレスコントロール力	発表に対する批判的なコメントについて真摯に受け止め、自身の改善すべき点として認識することができる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるることができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41		30				29	100
評価 の 指標	知識に関する評価		11		10				4	25
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15		10				5	30
	チームワークに関する評価								10	10
	関心・意欲に関する評価		15		10				10	35
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
太子町や竹内街道など大学周辺の歴史地理的な事例について授業で理解を深めた内容をもとにして、現地に赴き探索ができる。					太子町や竹内街道など大学周辺の歴史地理的な事例について理解を深めることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	1. 地理学と歴史地理学	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第2回 /	2. 太子町の「生産」①	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第3回 /	太子町の「生産」②	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第4回 /	3. 竹内街道の歴史 古代①	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第5回 /	竹内街道の歴史 古代②	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第6回 /	竹内街道の歴史 古代③	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第7回 /	竹内街道の歴史 古代④	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第8回 /	4. 竹内街道の歴史 中・近世①	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第9回 /	竹内街道の歴史 中・近世②	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第10回 /	竹内街道の歴史 中・近世③	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第11回 /	5. 太子町の宗教景観 ①	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第12回 /	太子町の宗教景観 ②	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。 ・フィールドワークに関わるレポート。	60
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第13回 /	太子町の宗教景観 ③	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第14回 /	6. 私たちの生活と地理	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第15回 /	7. フィールドワーク	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポートを提出。	30
	フィールドワークへの参加/フィールドワークが不可能な場合は、My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 関連科目領域	心性の歴史 History of Mentalité	2単位	選 択	講 義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	ひとりひとりの人間は、個別の心を持っている。しかし、別の心のとらえ方もある。ある国や地域、また文化に属している人々は何かしら共通したものの感じ方をしている。また時代によって、ものの感じ方は違っている。そのような「人々の思考様式や感覚」を「心性（マンタリテ：フランス語）」という。この授業ではいくつかの「心性の歴史」をひもどくことによって、人間の心のありようの側面についての理解を深めることを目的とする。					
	キーワード	心性史 恐怖 驚き 笑い	学修教育目標	時代や地域、文化によって、人間の思考の仕方や感覚が異なることもあることが理解できるようになる。		

授業科目の概要及び学修上の助言

「恐怖」「驚き」「笑い」などの心のありようを読み取ることができる資料を読み解きながら、そこに隠されている社会的・文化的・宗教的な意味を考えていく。題材はヨーロッパの歴史のものが中心となる。教材をPDF等の形式で配信するので、インターネット接続可能なノートPC、iPad、スマートフォン等を準備しておくこと。大きな画面のノートPCやタブレットをすすめる。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「宗教と文化」「西洋史の探究」「近代史の探究」と関連がある。

教科書

参考書・リザーブブック

なし	なし
----	----

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。		
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	異なる時代や地域の人々の思考様式や感覚を尊重できるようになる。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分なりに判断し、他者に流されず行動できる。	○
	② 働きかけ力	相手を納得させるために、協力することの必然性(意義・理由・内容等)を伝えることができる。	○
	③ 実行力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。	○
	② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。	○
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。	○
	② 傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。	○
	③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる。	○
	⑤ 規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。	○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている。	○
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	○

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41		30				29	100
評価 の 指標	知識に関する評価		11		10				4	25
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15		10				5	30
	チームワークに関する評価								10	10
	関心・意欲に関する評価		15		10				10	35
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
授業で学修したことを土台にして、興味関心がある国・文化・時代の心性に関する資料に自らアクセスし、調べて学び、視野を広げ異文化に対する理解を深めることができる。					授業で学修したことから、異なる時代や地域の人々の思考様式や感覚を尊重できるようになる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 心性の歴史とは何か？ 1. 恐れについて (1) 西洋中世における死への恐れ① My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	5
第2回 /	西洋中世における死への恐れ② My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
第3回 /	(2) 西洋中世における罪の意識と恐れ① My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
第4回 /	西洋中世における罪の意識と恐れ② My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
第5回 /	(3) 西洋中世における感染症への恐れ My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
第6回 /	(4) 西洋近世における感染症への恐れ My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
第7回 /	2. 笑いについて (1) 古代ギリシア・ローマ時代の笑い My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
第8回 /	(2) 西洋中世におけるキリスト教と笑い My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
第9回 /	(3) 西洋中世における女性と笑い (4) 西洋中世における子どもと笑い My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
第10回 /	(5) 西洋中世における老人と笑い (6) 民衆文化と豊かな笑いの世界 My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
第11回 /	(7) ベルグソンと笑い My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
第12回 /	3. 驚きについて (1) 歴史に探る様々な驚き My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
第13回 /	(2) 西洋における「驚異」の文化ー古代・中世 My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
第14回 /	(3) 西洋における「驚異」の文化ー近世 My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
第15回 /	4. 感情の歴史について My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 関連科目領域	思想の歴史 History of Thought	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	社会の在り方には自然科学的な正解というものはありません。したがって社会の運営には個人および個人の結合態としての社会がいく思想や価値観が重要になります。その点を人権、倫理、社会的正義といった観点から考えることが本科目の目的となります。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	人間、社会、人権、正義、法、倫理	学修教育目標	社会的問題に関して社会的正義とは何かを思考できるようになること。 自分の考えを言葉にして伝え、それについて話し合いができるようになること。			
-------	------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

人権や社会的正義に関する講義、および教員が準備した人権や社会的正義にまつわる諸問題の資料に関して受講生が調査・考察・発表・質疑応答を行います。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

社会的問題に関する積極的な関心と考察意欲						
----------------------	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
なし			(適宜、指示する)			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。					
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。					
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	自由や平等・公正といった市民性の核となる価値観を体現できる。				○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	課題に積極的に取り組むことができる。	△
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力		
	③ 創造力	物事を根底から自由に考えることができる。	△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自己の考えや成果物に関して表現することができる。	△
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		25	30				100
評価 の 指標	知識に関する評価		45		10	20				75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				15	10				25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>人権や社会的正義の深い理解に基づくシティズンシップが涵養され、十分に準備されたプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。</p>					<p>人権や社会的正義に基づく考え方を理解し、標準的なプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス	講義	資料の検討、課題作成等	120
第2回 /	人権および社会的正義（序）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第3回 /	人権および社会的正義（1） 受講生による課題発表（1）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第4回 /	人権および社会的正義（2） 受講生による課題発表（2）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第5回 /	人権および社会的正義（3） 受講生による課題発表（3）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第6回 /	人権および社会的正義（4） 受講生による課題発表（4）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第7回 /	人権および社会的正義（5） 受講生による課題発表（5）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第8回 /	人権および社会的正義（6） 受講生による課題発表（6）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第9回 /	人権および社会的正義（7） 受講生による課題発表（7）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第10回 /	人権および社会的正義（8） 受講生による課題発表（8）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第11回 /	人権および社会的正義（9） 受講生による課題発表（9）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第12回 /	人権および社会的正義（10） 受講生による課題発表（10）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第13回 /	人権および社会的正義（11） 受講生による課題発表（11）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第14回 /	人権および社会的正義（12） 受講生による課題発表（12）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第15回 /	人権および社会的正義（13） 受講生による課題発表（13）	講義	資料の検討、課題作成等	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 関連科目領域	比較文化論 Comparative Culture	2単位	選 択	講 義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	時代・場所風土・性・職業・社会階層・ライフステージ等、広義の文化を生み出す要素のなかから、特に国という単位によってさまざまに異なる人間の暮らしや考え方を見てください。他の文化を知ることにより、自らが自明視している常識や感覚や価値観などを改めて見直し相対化することが本科目の目的となります。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	文化、多様性、寛容、多文化共生	学修教育目標	自らを客観視し、他の文化に対する寛容の精神を涵養し、共生の可能性を考えることができるようになること。 自分の考えを言葉にして伝え、それについて話し合いができるようになること。			
-------	-----------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

日本とは異なる文化を観察する視点を受講生と教員が話し合い、それに基づき受講生が他国の文化について調査・考察・発表・質疑応答を行います。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他国の文化に関する積極的な関心および探究意欲						
------------------------	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブドブック			
なし			(適宜、指示する)			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。					
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。					
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	他の文化を理解することを通じて、自己を客観視し相対化することができる。				○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	課題に積極的に取り組むことができる。				○
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力					
	② 計画力	課題を完遂するまでのステップを確認できる。				○
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自己の考えや成果物に関して表現することができる。				○
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		25	30				100
評価 の 指標	知識に関する評価		45		10	20				75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				15	10				25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
他国の文化に接することを通じて自己省察に基づく寛容と共生の精神が深く育まれ、十分に準備されたプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。					他国の文化に接することを通じて文化の多様性を深く認識し、標準的なプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス	講義	資料の検討、課題作成等	120
第2回 /	次回以降の準備学修等	講義	資料の検討、課題作成等	120
第3回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（1）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第4回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（2）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第5回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（3）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第6回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（4）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第7回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（5）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第8回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（6）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第9回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（7）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第10回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（8）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第11回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（9）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第12回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（10）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第13回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（11）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第14回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（12）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第15回 /	受講生による文化に関する調査・考察・発表（13）	講義	資料の検討、課題作成等	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 関連科目領域	宗教と文化 Religion and Culture (Christianity)	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	世界には様々な宗教が存在し、それらの宗教では信仰心をもった人々が多様な宗教的儀礼に参加している。また、現代の世界各地では宗教を原因とした紛争があとをたたず、宗教がこれほど注目されている時代はない。この授業では世界の主な宗教について概観することを通して、人間と宗教、またその二者のあいだから生まれる宗教文化について理解を深めることを目的とする。					
----------------------------	---	--	--	--	--	--

キ ー ワ ー ド	学 修 教 育 目 標	文化と宗教に対して、多面的な見方・考え方を身につけることができる。				
-----------------------	----------------------------	-----------------------------------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

様々な宗教にみられる特徴（祈り、儀礼、祭り、修行、神話、巡礼など）をとりあげて、人間と宗教と文化の関係について理解を深める。教材を PDF 等の形式で配信するので、インターネット接続可能なノート PC、iPad、スマートフォン等を準備しておくこと。大きな画面のノート PC やタブレットをすすめる。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「心性の歴史」「西洋史の探究」と関連がある。						
------------------------	--	--	--	--	--	--

教 科 書	参考書・リザーブブック
なし	なし

No.	学 科 教 育 目 標	学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1)
①	心理の専門知識を身につける。	
②	心理の分析方法を身につける。	
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	宗教と人間、宗教文化と人間の関係についての知識を身につけることができる。 △

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標(※2)
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分なりに判断し、他者に流されず行動できる。
	② 働きかけ力	相手を納得させるために、協力することの必然性(意義・理由・内容等)を伝えることができる。
	③ 実行力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる。
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。
	② 計画力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる。
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている。
	② 傾聴力	相手の話を素直に聞くことができる。
	③ 柔軟性	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。
	④ 状況把握力	自分のできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる。
	⑤ 規律性	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している。
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている。
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41		30				29	100
評価 の 指標	知識に関する評価		11		10				4	25
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15		10				5	30
	チームワークに関する評価								10	10
	関心・意欲に関する評価		15		10				10	35
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>授業の学修内容を土台にして、身近な宗教事象に関心を持ち、わからないことは自分で調べ理解を深めることができる。また、宗教に対する多角的な見方ができるようになる。</p>					<p>宗教と人間、宗教文化と人間の関係についての知識を身につけることができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	宗教とは何だろう	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第2回 /	祈り—なぜ人は祈るのか	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第3回 /	儀礼—なぜ儀礼があるのか	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第4回 /	祭り—なぜ祭りに熱中するのか① 世界編	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第5回 /	祭り—なぜ祭りに熱中するのか② 日本編	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第6回 /	修行と戒律—なぜ修業が必要なのか	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第7回 /	神話—現代に生きる神話的世界	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第8回 /	死後の世界—人は死んだらどこに行くのか① 天国と地獄	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第9回 /	死後の世界—人は死んだらどこに行くのか② 輪廻ほか	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第10回 /	シャマニズム—神がかりと憑きものの世界	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第11回 /	聖地と巡礼—聖なる旅の目的① 世界編	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第12回 /	聖地と巡礼—聖なる旅の目的② 日本編	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第13回 /	宗教団体の多様性	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第14回 /	現代日本の宗教	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第15回 /	現代の世界と宗教	講義とディスカッション	・復習の課題：TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 関連科目領域	人間と思想 Human and Thought	2単位	選 択	講 義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	真理あるいは正しさはそれ自体として価値を有し、学問という営為は世界におけるそれらを明らかにすることを目的としています。学問体系において、その最も基礎となるのが哲学や思想という領域であり、それゆえ大学で学んだ者の不可欠な教養として哲学や思想は尊重されてきました。そうした哲学や思想の一端に触れ、教養を深めることが本科目の目的となります。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	真理、実在、認識、観念、思考、人間、自由	学修教育目標	問いに対し哲学的・思想的に向き合い思考できるようになること。 自分の考えを言葉にして伝え、それについて話し合いができるようになること。			
-------	----------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

思想・哲学の諸問題に関する資料を教員が準備し、それに関して受講生が調査・考察・発表・質疑応答を行います。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

思想や哲学に関する積極的な関心と考察意欲						
----------------------	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
なし			(適宜、指示する)			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。					
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。					
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	哲学的・思想的な考え方を教養として身につけ、人生に活かすことができる。				○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	課題に積極的に取り組むことができる。				△
	② 働きかけ力					
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力					
	② 計画力					
	③ 創造力	物事を根底から自由に考えることができる。				△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自己の考えや成果物に関して表現することができる。				△
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		25	30				100
評価 の 指標	知識に関する評価		45		10	20				75
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				15	10				25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
物事の哲学的・思想的な捉え方・考え方に親しむことで自らの教養とし、十分に準備されたプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。					物事の哲学的・思想的な捉え方・考え方に積極的に触れ、標準的なプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス	講義	資料の検討、課題作成等	120
第2回 /	次回以降の準備学修等	講義	資料の検討、課題作成等	120
第3回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（1）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第4回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（2）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第5回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（3）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第6回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（4）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第7回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（5）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第8回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（6）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第9回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（7）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第10回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（8）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第11回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（9）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第12回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（10）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第13回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（11）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第14回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（12）	講義	資料の検討、課題作成等	120
第15回 /	受講生による哲学・思想に関する調査・考察・発表（13）	講義	資料の検討、課題作成等	120

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 関連科目領域	社会福祉論 Social Welfare Theory	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	心理学の隣接領域である社会福祉について、その必要性、機能、役割を学ぶことにより、対人援助に不可欠である多職種連携を図るための基礎を理解する。
--------	--

キーワード	社会福祉の理念・意義 利用者の権利擁護 社会福祉の制度と実施体系 社会福祉の援助	学修教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義について理解する。 2. 社会福祉の歴史の変遷について理解する。 3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解し、実践に活用できる。 4. 社会福祉における援助について理解し、実践できる。 5. 社会福祉の動向と現代的課題について理解し、実践できる。
-------	---	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

まず現代社会における社会福祉の必要性について学び、社会福祉とは何か（概念）、どのように発展してきたのか（歴史）、大切にしていることは何か（理念）について学修する。その上で、現代社会における社会問題に社会福祉がどのように関わっているのかを、身近なトピックスを取り上げながら具体的に学ぶ。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

本授業で学ぶ知識を基礎として、方法論である「福祉相談援助」の学修につなげていく。

教科書

参考書・リザーブブック

書名：社会福祉への招待
著者名：北川清一 川向雅弘
出版社：ミネルヴァ書房

なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	現代社会における社会福祉の意義について理解する。 社会福祉の動向と現代的課題について理解する。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	心理学の隣接領域である社会福祉について学ぶことにより、多職種連携を図るための基礎を理解する。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた主題群のなかから自発的に自分のテーマを選び、調べることができる。	○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		45					95
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5					5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について十分に理解する。 社会福祉の制度や実施体系等について理解し、活用することができる。 社会福祉における援助について理解、実践することができる。 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解し実践することができる。 社会福祉の動向と課題について十分に理解する。</p>					<p>現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 社会福祉における援助について理解する。 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 社会福祉の動向と課題について理解する。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷 1 社会福祉の概念	講義	(予習として) テキスト第1章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第2回 /	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷 2 社会福祉の理念	講義	(予習として) テキスト第2章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第3回 /	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷 3 海外の社会福祉のあゆみ	講義	(予習として) テキスト第5章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第4回 /	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷 3 日本の社会福祉のあゆみ	講義	(予習として) テキスト第4章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第5回 /	現代の社会問題と その構造的背景	講義	(予習として) 第4回の授業で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第6回 /	社会福祉の目的	講義	(予習として) 第5回の授業で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第7回 /	社会福祉の制度と実施体系 1 社会保障制度と社会福祉	講義	(予習として) 第6回の授業で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第8回 /	社会福祉の制度と実施体系 2 社会福祉行財政	講義	(予習として) 第7回の授業で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第9回 /	社会福祉の制度と実施体系 3 社会福祉の実施機関と施設	講義	(予習として) 第8回の授業で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第10回 /	社会福祉における援助 社会福祉の担い手	講義	(予習として) テキスト第10章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第11回 /	社会福祉における援助 2 社会福祉の対象	講義	(予習として) テキスト第10章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第12回 /	社会福祉における援助 3 社会福祉の利用過程	講義	(予習として) テキスト第7章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第13回 /	社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み 2 利用者保護の仕組み	講義	(予習として) テキスト第7章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第14回 /	社会福祉の動向と課題 現代の貧困問題 1	講義	(予習として) テキスト第6章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第15回 /	社会福祉の動向と課題 現代の貧困問題 2	講義	(予習として) テキスト第6章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 関連科目領域	福祉相談援助 Welfare Counseling Assistance	2単位	選 択	講 義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	心理学の隣接領域である福祉相談援助（ソーシャルワーク）を学ぶことにより、心理学領域、社会福祉領域それぞれの専門職の役割についての理解を深め、有意義な多職種連携を図るための基礎を培う。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	ソーシャルワークの知識・技術・倫理 自己覚知 他者理解	学修教育目標	1. ソーシャルワークの知識・技術・倫理について理解する。 2. ソーシャルワークに必要な自己覚知と他者理解の方法を知り、実践に活用できる。 3. ソーシャルワークの固有性について理解する。 4. ソーシャルワーク実践の方法を学び、実践できる。			
-------	-----------------------------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

相談援助の専門職に不可欠な知識、技術及び倫理について学修する。 相談援助のための面接スキルを習得するため、適宜演習を取り入れる。 必要に応じて、精神保健福祉領域に焦点を当てた講義、演習を行う。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「社会福祉」の学修内容を理論的基盤とする。						
-----------------------	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
書名：はじめて学ぶ社会福祉6 ソーシャルワーク論 理論と方法の基礎 著者名：小口将典・木村淳也 出版社：ミネルヴァ書房			なし			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。					
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	ソーシャルワークに必要な自己覚知と他者理解の方法を知る。				○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	ソーシャルワークの知識・技術・倫理について理解する。 多職種連携に不可欠なソーシャルワークの固有性について理解する。				◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性					
	② 働きかけ力	周囲の人を動かして目標を達成するパワーを持って働きかけている。				○
	③ 実行力	失敗を怖れずに、とにかくやってみようとする果敢さを持って、取り組むことができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる。				◎
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力	相槌や共感等により、相手に話しやすい状況を作ることができる。				◎
	③ 柔軟性	相手がなぜそのように考えるかを、相手の気持ちになって理解することができる。				◎
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		45					95
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5					5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>ソーシャルワークの知識・技術・倫理について十分に理解する。 ソーシャルワークに必要な自己覚知と他者理解の方法を知り、実践できる。 多職種連携に不可欠なソーシャルワークの固有性について十分に理解する。 ソーシャルワーク実践の方法を学び、実践できる。</p>					<p>ソーシャルワークの知識・技術・倫理について理解する。 ソーシャルワークに必要な自己覚知と他者理解の方法を知る。 多職種連携に不可欠なソーシャルワークの固有性について理解する。 ソーシャルワーク実践の方法を学ぶ。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	相談援助の理論	講義	(予習として) テキスト第2章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第2回 /	相談援助の価値と倫理 1	講義	(予習として) テキスト第3章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第3回 /	相談援助の価値と倫理 2	講義	(予習として) 第3回授業で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第4回 /	相談援助の歴史	講義	(予習として) テキスト第6章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第5回 /	ソーシャルワークの体系	講義	(予習として) テキスト第7章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第6回 /	相談援助の機能	講義	(予習として) テキスト第4章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第7回 /	相談援助の対象	講義	(予習として) 第5回授業で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第8回 /	相談援助における援助関係	講義	(予習として) テキスト第9章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第9回 /	相談援助の原則	講義	(予習として) 第8回授業で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第10回 /	相談援助の実践モデル	講義	(予習として) 第9回授業で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第11回 /	相談援助の実践アプローチ	講義	(予習として) 第10回授業で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第12回 /	相談援助の展開過程	講義	(予習として) テキスト第8章を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第13回 /	自己覚知	講義	(予習として) 第12回授業で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第14回 /	他者理解	講義	(予習として) 第13回授業で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上
第15回 /	事例検討	講義	(予習として) 第14回授業で指示する。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	同上

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 関連科目領域	障がい者福祉論 Policy of Persons with Disabilities	2単位	選 択	講 義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	心理学の隣接領域である障がい者福祉について、その理念、思想、歴史、制度政策、支援の実際を学ぶことにより、対人援助に不可欠である多職種連携を図るための基礎を理解する。
--------	--

キーワード	障がい者の権利 ノーマライゼーション	学修教育目標	①障がいの概念を、社会構造との関連において理解する。 ②障がい者の人権に関する思想や当事者運動のあゆみについて理解する。 ③障がい者福祉の理念を理解する。 ④障がい者福祉の施策と支援の実際について理解する。
-------	-----------------------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

まず「障がい」の概念について社会構造との関係において理解し、障がい観の変遷と障がい者の権利獲得の歴史を学ぶ。その上で今日の障がい者福祉の制度政策を知り、それらの活用の仕方と支援の実際を知るために事例検討を行う。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

社会福祉論、福祉相談援助を履修していることが望ましい。

教科書	参考書・リザーブブック
書名：マンガで考える 障害者と社会の壁 著者名：三島亜紀子 出版社：生活書院	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	現代社会における障がい者福祉の意義について理解する。 障がい者福祉の理念や思想と現代的課題について理解する。	○
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	心理学の隣接領域である障がい者福祉について学ぶことにより、多職種連携を図るための基礎を理解する。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた主題群のなかから自発的に自分のテーマを選び、調べることができる。	○
	② 働きかけ力	授業中に自らすすんで質問することができる。	○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまででない新しい解決策を見つけ出すことができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力	答えが分からなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	相手の立場に立って行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		45					95
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				5					5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
①障がいの概念を、社会構造との関連において理解し、社会の事象の中に障がい者問題を見出すことができる。 ②障がい者の人権に関する思想や当事者運動のあゆみについて知り、その意義について説明することができる。 ③障がい者福祉の理念を理解し、実践に生かすことができる。 ④障がい者福祉の施策と支援の実際について理解し、実践できる。					①障がいの概念を、社会構造との関連において理解する。 ②障がい者の人権に関する思想や当事者運動のあゆみについて理解する。 ③障がい者福祉の理念を理解する。 ④障がい者福祉の施策と支援の実際について理解する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	障がい者をどのように理解するか1 障がいの概念	講義	(予習として) テキスト指定箇所を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第2回 /	障がい者をどのように理解するか2 障がいの構造的理解	講義	(予習として) テキスト指定箇所を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第3回 /	障がい者の法的定義と統計	講義	(予習として) テキスト指定箇所を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第4回 /	障がい者の人権のあゆみ1 戦前・戦中の障がい者	講義	(予習として) テキスト指定箇所を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第5回 /	障がい者の人権のあゆみ2 精神科医療と精神保健福祉のあゆみ	講義	(予習として) テキスト指定箇所を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第6回 /	障がい者の人権のあゆみ3 ノーマライゼーション	講義	(予習として) テキスト指定箇所を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第7回 /	障がい者の人権のあゆみ4 自立生活運動	講義	(予習として) テキスト指定箇所を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第8回 /	障がい者の人権のあゆみ5 優生思想	講義	(予習として) テキスト指定箇所を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第9回 /	障がい者の人権のあゆみ6 障害者権利条約	講義	(予習として) テキスト指定箇所を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第10回 /	障がい者福祉の施策1 障がい者のくらしと生活ニーズ	講義	(予習として) テキスト指定箇所を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第11回 /	障がい者福祉の施策2 支援のための政策・制度	講義	(予習として) テキスト指定箇所を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第12回 /	障がい者福祉の施策3 ケアマネジメントとサービス利用	講義	(予習として) テキスト指定箇所を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第13回 /	障がい者福祉の施策4 障がい者福祉にかかわる専門職	講義	(予習として) テキスト指定箇所を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第14回 /	障がい者と家族に対する支援の実際1 事例検討1. 障がい者に対する支援の実際	講義	(予習として) テキスト指定箇所を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30
第15回 /	障がい者と家族に対する支援の実際2 事例検討2. 障がい者の家族に対する支援の実際	講義	(予習として) テキスト指定箇所を読み内容を確認しておくこと。 (復習として) 指示された課題に取り組むこと。	予習 30 復習 30

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 関連科目領域	福祉住環境論 Theory of Coordinating Environment for Tourism	2単位	選 択	講 義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	高齢者・障がい者が自立した生活を送れる住まい環境の学修をします。高齢者・障がい者の心身の特性を理解し、高齢者・障がい者にとっての適切な住まいを認識できることを目的とします。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	高齢者・障がい者 住まい環境 福祉住環境コーディネーター	学修教育目標	学生は、高齢者・障がい者にとって使いやすい住まい環境について、医療・福祉・建築について体系的で幅広い知識を学修します。さらに福祉住環境コーディネーター資格に対応し、特に住環境を中心に高齢者・障がい者の住まい環境をより深く理解できることを目標とします。			
-------	------------------------------------	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

高齢者・障がい者に対する福祉住環境整備には様々な知識が必要である。その基礎知識をこの授業において学修をしていきます。講義だけでなく演習をまじえて、知識の定着をはかっていきます。身近な高齢者・障がい者の理解ができることで、正しい知識で高齢者・障がい者の対応ができることを期待しています。						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「福祉心理学」、「介護概論」、「福祉相談援助」、「障がい者福祉論」の理解につながります。						
--	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
書名：福祉住環境コーディネーター速習レッスン 著者名：ユーキャン福祉住環境コーディネーター試験研究会 出版社：			なし			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。					
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	高齢者・障がい者の心身の特性についての知識を身につける。				◎
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。					
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。					

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	与えられた課題を自発的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力	授業中にすすんで質問することができる。				○
	③ 実行力	授業を理解するために資料を集めることができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力					
	② 計画力					
	③ 創造力	答えがわからなくても既存の知識で自分なりの答えを出すことができる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50						50	100
評価 の 指 標	知識に関する評価		30						20	50
	技能に関する評価		20						10	30
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								20	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
十分に高齢者・障がい者の福祉住環境整備の基本技術を理解し、説明することができる。					高齢者・障がい者の福祉住環境整備の基本技術を理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1章 暮らしやすい生活環境をめざして (1)	講義、演習	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第2回 /	第1章 暮らしやすい生活環境をめざして (2)	講義、演習	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第3回 /	第1章 暮らしやすい生活環境をめざして (3)	講義、演習	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第4回 /	第2章 自立生活を支援する制度と方策 (1)	講義、演習	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第5回 /	第2章 自立生活を支援する制度と方策 (2)	講義、演習	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第6回 /	第2章 自立生活を支援する制度と方策 (3)	講義、演習	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第7回 /	第3章 ユニバーサルデザイン共用品と福祉用具 (1)	講義、演習	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第8回 /	第3章 ユニバーサルデザイン共用品と福祉用具 (2)	講義、演習	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第9回 /	第3章 ユニバーサルデザイン共用品と福祉用具 (3)	講義、演習	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第10回 /	第3章 ユニバーサルデザイン共用品と福祉用具 (4)	講義、演習	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第11回 /	第4章 安全・安心・快適な住まいづくり (1)	講義、演習	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第12回 /	第4章 安全・安心・快適な住まいづくり (2)	講義、演習	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第13回 /	第4章 安全・安心・快適な住まいづくり (3)	講義、演習	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第14回 /	第4章 安全・安心・快適な住まいづくり (4)	講義、演習	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			
第15回 /	第5章 安心して暮らせるまちづくり	講義、演習	授業内容の復習と演習課題	60
	コメントシート、演習			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修A Global Study A	1単位	選 択	実 習	1～4年次	春学期 ・秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	<p>グローバル化時代の中で特に文化面に特化したプログラムを中心に考える。① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティをもう一段深めること、② 真の日本文化への造詣を深めつつ異文化を理解し、日本文化の特徴などをプレゼンテーションするための諸能力を高めることを目的とする。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などを体験学習し、研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得ることを目的とする。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。</p> <p>他方、現地での研修では、事前研修までの学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p>					
----------------------------	--	--	--	--	--	--

キ ー ワ ー ド	異文化理解 プレゼンテーション能力	学 修 教 育 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・現地の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。 ・状況に応じて、的確に判断し行動することができる。 ・事後研修で、成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。 			
-----------------------	-------------------	----------------------------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>特になし。</p>						
--------------	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
別途、教員から指示する。			なし			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。					
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。				◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。				◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指 標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成	30
				60
第2回 /	グローバル研修（1） ―研修先での体験学習（第1日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第3回 /	グローバル研修（2） ―研修先での体験学習（第2日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第4回 /	グローバル研修（3） ―研修先での体験学習（第3日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第5回 /	グローバル研修（4） ―研修先での体験学習（第4日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第6回 /	グローバル研修（5） ―研修先での体験学習（第5日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第7回 /	第7日 事後学修 ―グローバル研修の振り返り― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②報告書の作成	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30
	グループワーク			60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修B Global Study B	2単位	選 択	実 習	1～4年次	春学期 ・秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>グローバル研修Aよりも長期間のプログラムにより体験学修をより充実し、グローバル化時代の中で特に文化面において、① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティを深める、②日本文化の造詣を深めることで異文化を理解し、自国文化をプレゼンテーションすることで諸能力を高める。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などの学修を通して、研修地の実情や状況について様々な体験をすることで、生きた知識を学び取る機会を得ることを目的とする。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。</p> <p>体験学修については、学生が主体的に企画・運営し、グループワークを行うことにより、コミュニケーション力、協調性、自主性、問題解決力、規律性や倫理観といった将来社会人として備えるべき能力を育成する。</p>
--------	--

キーワード	異文化理解 プレゼンテーション力	学修教育目標	<p>他国（様々な地域）の文化・社会を理解することで、自国の文化を再認識あるいは新たな視野で認識できる知識を身につける。</p> <p>体験研修を通して①国・地域色などを反映した文化・歴史等について深く知ることができる。②培った感性や知識を他者に的確に伝えることができる。</p>
-------	------------------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。</p>
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>研修地の特性をよく理解しておくこと。</p>

教科書	参考書・リザーブブック
別途、教員から指示する。	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指 標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成	30
	60			
第2回 /	第2日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第1日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第3回 /	第3日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第2日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第4回 /	第4日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第3日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第5回 /	第5日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第4日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第6回 /	第6日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第5日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第7回 /	第7日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第6日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第8回 /	第8日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第7日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第9回 /	第9日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第8日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第10回 /	第10日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第9日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第11回 /	第11日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第10日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第12回 /	第12日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第11日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第13回 /	第13日 事後学修（1）―グローバル研修の振り返り（1）― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成	演習	事後レポート作成 発表準備	30
	グループワーク			60
第14回 /	第14日 事後学修（2）―グローバル研修の振り返り（2）― グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30
	発表			60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修C Global Study C	4単位	選 択	実 習	1～4年次	春学期 ・秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	<p>長期の体験学修を通して、グローバル化時代の中で、言語コミュニケーションの醸成、異文化への深い理解・受容、日本と研修先との習慣・風習の違いの理解・受容、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 文化や社会活動・社会規範の違う地域での生活への順応性を身につけることを目的とする。</p> <p>また事前・事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p>
----------------------------	--

キ ー ワ ー ド	異文化理解 日本文化理解 順応性	学 修 教 育 目 標	<p>現地の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。さらに事前学修においては知識により現地を理解し、研修では体験を通して現地の文化を学び取ることができる。事後研修では成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。</p>
-----------------------	------------------	----------------------------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。
研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

研修地の特性をよく理解しておくこと。

教 科 書

参考書・リザーブブック

別途、教員から指示する。

なし

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ・研修先の文化・習慣の理解（事前調査）	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備	30 60
	演習課題			
第2回 /	第2日 事前研修(2) ―事前学修のまとめ― ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	研修テーマに基づく課題のまとめ	60
	発表			
第3回 /	第3日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第1日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第4回 /	第4日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第2日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第5回 /	第5日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第3日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第6回 /	第6日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第4日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第7回 /	第7日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第5日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第8回 /	第8日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第6日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第9回 /	第9日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第7日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第10回 /	第10日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第8日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第11回 /	第11日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第9日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第12回 /	第12日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第10日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第13回 /	第13日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第11日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第14回 /	第14日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第12日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第15回 /	第15日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第13日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第16回 /	第16日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第14日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第17回 /	第17日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第15日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第18回 /	第18日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第16日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第19回 /	第19日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第17日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第20回 /	第20日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第18日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第21回 /	第21日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第19日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第22回 /	第22日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第20日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第23回 /	第23日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第21日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第24回 /	第24日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第22日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第25回 /	第25日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第23日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第26回 /	第26日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第24日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第27回 /	第27日 事後学修（1）—研修内容のまとめ— ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成	演習	事後レポート作成 発表準備	30
	グループワーク			60
第28回 /	第28日 事後学修（2）—グローバル研修の振り返り— グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30
				60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修D Global Study D	1単位	選 択	実 習	1～4年次	春学期 ・秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	<p>グローバル化時代の中で特に文化面に特化したプログラムを中心に考える。① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティをもう一段深めること、② 真の日本文化への造詣を深めつつ異文化を理解し、日本文化の特徴などをプレゼンテーションするための諸能力を高めることを目的とする。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などを体験学習し、研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得ることを目的とする。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。</p> <p>他方、現地での研修では、事前研修までの学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p>					
----------------------------	--	--	--	--	--	--

キ ー ワ ー ド	異文化理解 アジア	学 修 教 育 目 標	<p>近隣アジア諸国の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。さらに事前学修においては知識により現地を理解し、研修では体験を通して現地の文化を学び取ることができる。事後研修では成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。</p>			
-----------------------	-----------	----------------------------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>研修地の特性をよく理解しておくこと。</p>						
---------------------------	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
別途、教員から指示する。			なし			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。					
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。				◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。				◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成	30
				60
第2回 /	グローバル研修（1） ―研修先での体験学習（第1日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第3回 /	グローバル研修（2） ―研修先での体験学習（第2日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第4回 /	グローバル研修（3） ―研修先での体験学習（第3日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第5回 /	グローバル研修（4） ―研修先での体験学習（第4日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第6回 /	グローバル研修（5） ―研修先での体験学習（第5日目）―	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第7回 /	第7日 事後学修 ―グローバル研修の振り返り― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②報告書の作成	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30
	グループワーク			60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修E Global Study E	2単位	選 択	実 習	1～4年次	春学期 ・秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	<p>グローバル化に対応するなかで、特に文化面に特化したプログラムを実施する。体験学修をより充実し、より長期間の滞在を通してコミュニケーション能力を駆使して、① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティを深める、② 日本文化の造詣を深めることで異文化を理解し、自国文化をプレゼンテーションすることで諸能力を高める。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などの学修を通して、研修地の実情や状況について様々な体験をすることで、生きた知識を学びとる機会を得ることを目的とする。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。</p> <p>他方、現地での研修では、事前研修までの学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p>					
----------------------------	--	--	--	--	--	--

キ ー ワ ー ド	異文化理解 日本文化理解 実行力	学 修 教 育 目 標	<p>現地の人々とのコミュニケーションを通して、① 自国文化を発信し、他者の理解を得ることができる能力を身につける。② 他国の文化・歴史の理解を深めつつ、自国文化の再認識を深める。</p> <p>さらに現地での研修を通じて学び取った知識を事後研修で、成果として発表するのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。</p>			
-----------------------	------------------	----------------------------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>研修地の特性をよく理解しておくこと。</p>						
---------------------------	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
別途、教員から指示する。			なし			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。					
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。				◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。				◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成	30
				60
第2回 /	第2日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第1日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第3回 /	第3日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第2日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第4回 /	第4日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第3日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第5回 /	第5日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第4日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第6回 /	第6日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第5日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第7回 /	第7日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第6日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第8回 /	第8日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第7日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第9回 /	第9日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第8日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第10回 /	第10日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第9日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第11回 /	第11日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第10日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第12回 /	第12日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第11日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第13回 /	第13日 事後学修 (1) ―グローバル研修の振り返り (1) ― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成	演習	事後レポート作成 発表準備	30
	グループワーク			60
第14回 /	第14日 事後学修 (2) ―グローバル研修の振り返り (2) ― グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30
				60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修F Global Study F	4単位	選 択	実 習	1～4年次	春学期 ・秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	<p>長期の体験学修を通して、グローバル化時代の中で、言語コミュニケーションの醸成、異文化への深い理解・受容、日本と研修先との習慣・風習の違いの理解・受容、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 文化や社会活動・社会規範の違う地域での生活への順応性を身につけることを目的とする。</p> <p>また事前・事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p>
----------------------------	--

キ ー ワ ー ド	異文化理解 異言語コミュニケーション ホームステイ	学 修 教 育 目 標	<p>ホームステイを取り入れて、ホストファミリーや現地の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。さらに事前学修においては知識により現地を理解し、研修では体験を通して現地の文化を学び取ることができる。事後研修では成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。</p>
-----------------------	------------------------------	----------------------------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。
研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

研修地の特性をよく理解しておくこと。

教 科 書

参考書・リザーブブック

別途、教員から指示する。

なし

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ・研修先の文化・習慣の理解（事前調査）	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備	30
	演習課題			60
第2回 /	第2日 事前研修 (2) ―事前学修のまとめ― ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	研修テーマに基づく課題のまとめ	60
	発表			
第3回 /	第3日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第1日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第4回 /	第4日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第2日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第5回 /	第5日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第3日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第6回 /	第6日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第4日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第7回 /	第7日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第5日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第8回 /	第8日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第6日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第9回 /	第9日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第7日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第10回 /	第10日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第8日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第 11 回 /	第 11 日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第 9 日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 12 回 /	第 12 日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第 10 日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 13 回 /	第 13 日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第 11 日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 14 回 /	第 14 日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第 12 日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 15 回 /	第 15 日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第 13 日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 16 回 /	第 16 日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第 14 日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 17 回 /	第 17 日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第 15 日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 18 回 /	第 18 日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第 16 日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第 19 回 /	第 19 日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第 17 日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第20回 /	第20日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第18日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第21回 /	第21日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第19日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第22回 /	第22日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第20日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第23回 /	第23日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第21日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第24回 /	第24日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第22日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第25回 /	第25日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第23日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第26回 /	第26日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第24日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第27回 /	第27日 事後学修（1）—研修内容のまとめ— ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成	演習	事後レポート作成 発表準備	30
	グループワーク			60
第28回 /	第28日 事後学修（2）—グローバル研修の振り返り— グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30
				60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修G Global Study G	3単位	選 択	実 習	1～4年次	春学期 ・秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>グローバル化時代の中で、言語コミュニケーションの修得、異文化への理解、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 異文化や社会活動・社会規範の違う地域での生活の順応性を身につけることを目的とする。</p> <p>また事前・事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p>					
キーワード	異文化理解 異言語コミュニケーション アジア	学修教育目標	<p>アジアの国々の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、知識を深める。さらに事前学修にて知識による現地の理解を、事後研修にて現地での研修を通じて学び取った知識を、成果として発表するのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に高めることを目標とする。</p>			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>研修地の特性をよく理解しておくこと。</p>						
教科書				参考書・リザーブブック		
<p>別途、教員から指示する。</p>				<p>なし</p>		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。					
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。				◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。				◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら行動することができる。				◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。				◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。				◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。				◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。				◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。				◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。				◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。				◎
	④ 情況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。				◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。				◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。				◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ・研修先の文化・習慣の理解（事前調査）	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備	30 60
	演習課題			
第2回 /	第2日 事前研修(2) ―事前学修のまとめ― ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	研修テーマに基づく課題のまとめ	60
	発表			
第3回 /	第3日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第1日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第4回 /	第4日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第2日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第5回 /	第5日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第3日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第6回 /	第6日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第4日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第7回 /	第7日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第5日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第8回 /	第8日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第6日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第9回 /	第9日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第7日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第10回 /	第10日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第8日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第11回 /	第11日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第9日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第12回 /	第12日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第10日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第13回 /	第13日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第11日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第14回 /	第14日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第12日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第15回 /	第15日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第13日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第16回 /	第16日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第14日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第17回 /	第17日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第15日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第18回 /	第18日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第16日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第19回 /	第19日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第17日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第20回 /	第20日 事後学修（1）—研修内容のまとめ— ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成	演習	事後レポート作成 発表準備	30
	グループワーク			60
第21回 /	第21日 事後学修（2）—グローバル研修の振り返り— グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30
				60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 グローバル研修	グローバル研修H Global Study H	3単位	選 択	実 習	1～4年次	春学期 ・秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学 修 教 育 目 的	<p>グローバル化に向けて、言語コミュニケーションの修得、異文化への理解、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 異文化いや社会活動・社会規範の違う地域での生活の順応性を身につけることを目的とする。</p> <p>また事前・事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p>
----------------------------	--

キ ー ワ ー ド	異文化理解 異言語コミュニケーション 欧米	学 修 教 育 目 標	<p>欧米の国々の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、知識を深める。</p> <p>さらに事前学修にて知識による現地の理解を、事後研修にて現地での研修を通じて学び取った知識を、成果として発表するのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に高めることを目標とする。</p>
-----------------------	-----------------------	----------------------------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。
研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

研修地の特性をよく理解しておくこと。

教 科 書

参考書・リザーブブック

別途、教員から指示する。

なし

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	心理の専門知識を身につける。		
②	心理の分析方法を身につける。		
③	心理カウンセリングの知識を身につける。		
④	心理カウンセリングの技法を身につける。		
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。	◎
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自ら行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	周囲の人と積極的に関わることができる。	◎
	③ 実行力	目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	状況を把握してすべきことを見つけることができる。	◎
	② 計画力	行動計画をたてることができる。	◎
	③ 創造力	解決方法を見つけることができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	その場で何が求められているかを考え、理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	相手のことを考えて行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指 標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。					研修地の言語・文化を理解している。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ・研修先の文化・習慣の理解（事前調査）	講義・演習	社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備	30 60
	演習課題			
第2回 /	第2日 事前研修(2) ―事前学修のまとめ― ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認	講義・演習	研修テーマに基づく課題のまとめ	60
	発表			
第3回 /	第3日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第1日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第4回 /	第4日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第2日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第5回 /	第5日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第3日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第6回 /	第6日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第4日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第7回 /	第7日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第5日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第8回 /	第8日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第6日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第9回 /	第9日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第7日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第10回 /	第10日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第8日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第11回 /	第11日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第9日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第12回 /	第12日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第10日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第13回 /	第13日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第11日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第14回 /	第14日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第12日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第15回 /	第15日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第13日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第16回 /	第16日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第14日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第17回 /	第17日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第15日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第18回 /	第18日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第16日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			
第19回 /	第19日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第17日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。	実習	活動のまとめ	30
	活動状況			

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第20回 /	第20日 事後学修（1）—研修内容のまとめ— ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成	演習	事後レポート作成 発表準備	30
	グループワーク			60
第21回 /	第21日 事後学修（2）—グローバル研修の振り返り— グローバル研修の振り返りとまとめの発表	演習	社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成	30
				60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ゼミ	基礎ゼミ I Foundation Seminar I	1単位	必修	演習	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	卒業論文作成に向けた総合演習（卒論ゼミ）形式で進める。これまでの課程で獲得した知識を他へ自己表現する能力（プレゼンテーション能力）を身につける。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	卒業研究	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 各回のテーマに応じて必要となる知識を獲得することができる。 テーマに関するディスカッションに、積極的に関わることができる。 			
-------	------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">詳細は「基礎ゼミ I・II テーマ一覧表」で確認すること。</div>						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">詳細は「基礎ゼミ I・II テーマ一覧表」で確認すること。</div>						
---	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
別途、教員から指示する。			別途、教員から指示する。			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。	「基礎ゼミ I・II テーマ一覧表」及び、第1回目の授業で説明する。				
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。					
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。					

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。	○
	③ 実行力	目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を把握して、課題を抽出することができる。	○
	② 計画力	課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。	○
	③ 柔軟性	相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力	自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。	○
	⑤ 規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の場合で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価				到達度の評価方法は第1回目の授業 で担当教員から説明する。					
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
					第1回目の授業で担当教員から説明する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第1回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第1回目の授業の中で説明する。	
第2回 /				
第3回 /				
第4回 /				
第5回 /				
第6回 /				
第7回 /				
第8回 /				
第9回 /				
第10回 /				
第11回 /				
第12回 /				
第13回 /				
第14回 /				
第15回 /				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必修区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ゼミ	基礎ゼミⅡ Foundation Seminar II	1単位	必修	演習	3年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	総合演習形式で卒業論文作成に向けた演習を行う。受講生の討論から対比的に学ぶことで、様々な知識を身につける。自らが獲得した知識に対する他者からの評価を建設的に受け止めることができる。					
キーワード	卒業研究	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> まとめた内容を他者が理解できるよう説明できる。 他者の意見を取り入れて自らの知識・理解の枠を広げることができる。 他者の発表に対して建設的な意見を述べるができる。 			
授業科目の概要及び学修上の助言						
詳細は「基礎ゼミⅠ・Ⅱ テーマ一覧表」で確認すること。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
詳細は「基礎ゼミⅠ・Ⅱ テーマ一覧表」で確認すること。						
教科書			参考書・リザーブブック			
別途、教員から指示する。			別途、教員から指示する。			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ テーマ一覧表」及び、第1回目の授業で説明する。				
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。					
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。					
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる				○
	② 働きかけ力	すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。				○
	③ 実行力	目的を理解し、目標を設定して行動することができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を把握して、課題を抽出することができる。				○
	② 計画力	課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。				○
	③ 創造力	考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。				○
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる				○
	③ 柔軟性	相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。				○
	④ 状況把握力	自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。				○
	⑤ 規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。				○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。				○

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
					第1回目の授業で担当教員から説明する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第1回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第1回目の授業の中で説明する。	
第2回 /				
第3回 /				
第4回 /				
第5回 /				
第6回 /				
第7回 /				
第8回 /				
第9回 /				
第10回 /				
第11回 /				
第12回 /				
第13回 /				
第14回 /				
第15回 /				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ゼミ	ゼミ I Seminar I	1単位	必修	演習	4年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	卒業論文のためのテーマを設定し解決のための仮説の組み立てを行う。	
	キーワード 卒業研究	学修教育目標 ・テーマに関する先行論文を検索・研究し、理解して発表できる。 ・自らの研究内容に対して批判的に考察できる。 ・他者の発表に対して、批判的に意見を述べる事ができる。

授業科目の概要及び学修上の助言

第1回目の授業で担当教員から説明する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

第1回目の授業で担当教員から説明する。

教科書

別途、教員から指示する。

参考書・リザーブブック

別途、教員から指示する。

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①	心理の専門知識を身につける。	
②	心理の分析方法を身につける。	
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	第1回目の授業で担当教員から説明する。
④	心理カウンセリングの技法を身につける。	
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。	
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。	

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。	◎
	③ 実行力	目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を把握して、課題を抽出することができる。	◎
	② 計画力	課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。	◎
	③ 創造力	考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。	◎
	③ 柔軟性	相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。	◎
	④ 状況把握力	自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。	◎
	⑤ 規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価 の 指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価				到達度の評価方法は第1回目の授業 で担当教員から説明する。					
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
					第1回目の授業で担当教員から説明する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第1回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第1回目の授業の中で説明する。	
第2回 /				
第3回 /				
第4回 /				
第5回 /				
第6回 /				
第7回 /				
第8回 /				
第9回 /				
第10回 /				
第11回 /				
第12回 /				
第13回 /				
第14回 /				
第15回 /				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
専門教育科目 ゼミ	ゼミⅡ SeminarⅡ	1単位	必修	演習	4年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>今まで学んできたことを基礎として、各自が設定したテーマについて考察した内容をまとめ、テーマに対する知識・理解を定着させる。また、相互批判を受け止め、互いに高めあう関係を構築することができる能力を身につける。</p>					
キーワード	卒業研究	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに関する研究をまとめることができる。 ・自らの研究内容に対する他者の批判的意見を受け入れさらに内容を改善できる。 ・相互学修を通して他者と共に成長することができる能力を身につける。 			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">第1回目の授業で担当教員から説明する。</div>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">第1回目の授業で担当教員から説明する。</div>						
教科書			参考書・リザーブブック			
別途、教員から指示する。			別途、教員から指示する。			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	心理の専門知識を身につける。					
②	心理の分析方法を身につける。					
③	心理カウンセリングの知識を身につける。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: auto;">第1回目の授業で担当教員から説明する。</div>				
④	心理カウンセリングの技法を身につける。					
⑤	社会の一員としての倫理観と社会人基礎力の能力要素を身につける。					
⑥	実社会で応用できる課題解決のための知識・技能を身につける。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力	すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。				◎
	③ 実行力	目的を理解し、目標を設定して行動することができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状を把握して、課題を抽出することができる。				◎
	② 計画力	課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。				◎
	③ 創造力	考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。				◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。				◎
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。				◎
	③ 柔軟性	相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。				◎
	④ 状況把握力	自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。				◎
	⑤ 規律性	ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。				◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。				◎
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合										
評価の指標	知識に関する評価									
	技能に関する評価				到達度の評価方法は第1回目の授業で担当教員から説明する。					
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
					第1回目の授業で担当教員から説明する。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。	第1回目の授業で説明する。	各回の予習・復習の詳細は第1回目の授業の中で説明する。	
第2回 /				
第3回 /				
第4回 /				
第5回 /				
第6回 /				
第7回 /				
第8回 /				
第9回 /				
第10回 /				
第11回 /				
第12回 /				
第13回 /				
第14回 /				
第15回 /				

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。